I-O DATA

GV-DVC2/CB

取扱説明書

はじめにお読みください

84505-01

弊社は、お客様が以下の【使用許諾条件】および【ご注意】の諸条件のいずれかに違反されたときは、いつでも本製品のご使用を終了させることができるものとします。

【使用許諾条件】

1) 本製品および本書は株式会社アイ・オー・データ機器と提供者の著作物です。
したがって、本製品および本書の一部または全部を無断で複製、複写、転載、改変することは法律で禁じられています。
2) 本サポートソフトウェアの使用にあたっては、バックアップ保有の目的に限り、各1部だけ複写できるものとします。
3) 本サポートソフトウェアに含まれる著作権等の知的財産権は、お客様に移転されません。
4) 本サポートソフトウェアのソースコードについては、如何なる場合もお客様に開示、使用許諾を致しません。また、ソースコードを解明するために本ソフトウェアを解析し、逆アセンブルや、逆コンパイル、またはその他のリバースエンジニアリングを禁止します。
5) 書面による事前承諾を得ずに、本サポートソフトウェアをタイムシェアリング、リース、レンタル、販売、移転、サブライセンスすることを禁止します。
6) 本製品は日本国内仕様です。本製品を日本国外で使用された場合、弊社は一切の責任を負いかねます。また、弊社は本製品に関し、日本国外への技術サポート、およびアフターサービス等を行っておりませんので、予めご了承ください。(This product is for use only in Japan. We bear no responsibility for any damages or losses arising from use of, or inability to use, this product outside Japan and provide no technical support or after-service for this product outside Japan.)
7) お客様は、本サポートソフトウェアを一時に1台のパソコンにおいてのみ使用することができます。
8) お客様は、本製品または、その使用権を第三者に対する再使用許諾、譲渡、移転またはその他の処分を行うことはできません

【ご注意】

1) 本製品および本書の内容については、改良のために予告なく変更することがあります。
2) 本製品および本書の内容について、不審な点やお気づきの点がございましたら、弊社サポートセンターまでご連絡ください。
3) 本製品を運用した結果の他への影響については、上記にかかわらず責任は負いかねますのでご了承ください。
4) 本製品は「外国為替および外国貿易法」の規定により戦略物資等輸出規制製品に該当する場合があります。国外に持ち出す際には、日本国政府の輸出許可申請などの手続きが必要になる場合があります。
5) 本製品は、医療機器、原子力設備や機器、航空宇宙機器、輸送設備や機器など人命に関る設備や機器、および高度な信頼性を必要とする設備や機器としての使用またはこれらに組み込んでの使用は意図されておりません。これら、設備や機器、制御システムなどに本製品を使用され、本製品の故障により、人身事故、火災事故、社会的な損害などが生じても、弊社ではいかなる責任も負いかねます。設備や機器、制御システムなどにおいて、冗長設計、火災延焼対策設計、誤動作防止設計など、安全設計に万全を期されるようご注意願います。
6) テレビやビデオの映像は著作権法により保護されています。これらの映像は個人で楽しむ以外に利用しないでください。。

●I-O DATAは、株式会社アイ・オー・データ機器の登録商標です。
●Microsoft,Windows,WindowsNTは、米国 Microsoft Corporationの登録商標です。
●VAIO、i.LINKならびにi.LINKのロゴは、ソニー株式会社の商標です。
●Sonic DVDit!はSonicSolutions社の登録商標です。
●DigiOnSoundは株式会社デジオンの登録商標です。
●その他、一般に会社名、製品名は各社の商標または登録商標です。

GV-DVC2/CB 取扱説明書
2000.Dec.1　84505-01
発　行　　株式会社アイ・オー・データ機器
〒920-8512 石川県金沢市桜田町3丁目10番地

©2000 I-O DATA DEVICE,INC. All rights reserved.
本製品および本書は著作権法により保護されておりますので
無断で複写、複製、転載、改変することは禁じられています。

ここにＶｅｒシールをお貼りください。

Ｖｅｒシール

このたびは、DV編集用PCカード『GV-DVC2/CB』をお買い上げいただきまして、ありがとうございます。
ご使用の前に、本書を良くお読みいただき、正しいお取り扱いをお願いします。

本製品を使ったビデオ編集の流れ

取り付けとインストール
【ステップ１】

DVworksによるキャプチャ
【ステップ２】

シーン検出キャプチャ
撮影時の録音ボタンON/OFFを自動判断して、検出したシーンを一括キャプチャ

タイムコードキャプチャ
キャプチャの開始点・終了点を指定して、一括キャプチャ

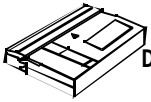
見ながらキャプチャ
映像を見ながら、好きなところだけをキャプチャ

音声キャプチャ
映像に録音された音声だけをキャプチャ

静止画キャプチャ
映像の１コマを静止画としてキャプチャ

MediaStudio Proによるビデオ編集
【ステップ３】

DVworksによる書き戻し
【ステップ４】



DVテープへの録画

MediaStudio Proによる保存
【ステップ４】



高圧縮のMPEG形式でハードディスクに保存

もくじ

はじめに

使う前の確認

箱の中身を確認しよう…… 2

ユーザー登録しよう…… 4

GV-DVC2/CBの特徴…… 5

対応している
パソコンとＯＳ …… 7

- 対応しているパソコンとOS …… 7
- 本製品を使用するために
  最低限必要なパソコン環境…… 8
- 動作確認済みのDV機器一覧…… 9
- 添付ソフトウェアの動作環境…… 10

サービス添付品の
お問い合わせ先 …… 11

ステップ1 使う前の準備

1 取り付け前の確認…… 14

- IRQの空きの確認…… 14
- DMAの確認…… 16

2 カードを取り付ける…… 20

3 ドライバをインストールする …… 21

- Windows Me編 …… 22
- Windows 98編 …… 23
- Windows 2000編 …… 31

4 『DVworks』をインストールする …… 33

5 『MediaStudio Pro』をインストールする …… 38

ステップ2 映像をキャプチャしよう

1 DV機器を接続しよう…… 44

- DV機器を接続する…… 44
- 確認しよう(Windows Me編) …… 46
- 確認しよう(Windows 98編) …… 48
- 確認しよう(Windows 2000編) …… 50

2 DV機器をパソコン上から操作してみよう …… 52

- DV機器を準備する…… 52
- 『DVworks』を起動する…… 53
- 『DVworks』でDV機器の接続を確認する …… 56
- 『DVworks』でDV機器を操作する…… 57

3 ビデオ映像をキャプチャしよう …… 60

- シーン検出でキャプチャする…… 62
- タイムコードでキャプチャする…… 71
- 映像を見ながらキャプチャする…… 75
- 音声だけをキャプチャする…… 78
- 静止画をキャプチャする…… 81

ステップ3 ビデオ作品を作ろう

1 『MediaStudio Pro』を起動しよう …… 84

2 映像を編集しよう …… 87

- シーンをカット編集する…… 88
- 特殊効果でシーンをつなぐ…… 94
- 編集内容を確認する…… 96
- タイトルを入れる…… 98
- 編集状況（プロジェクト）を保存する…… 100

3 ＢＧＭやナレーションを入れよう …… 101

4 編集した作品を保存しよう（レンダリング） …… 106

ステップ4　ビデオ作品を楽しもう

1 編集した作品を DV機器で録画しよう …… 112

2 編集した作品を MPEG形式で保存しよう … 134

- プラグインのインストール…… 135
- MPEG形式で保存する…… 138
- Adobe Premiere用 プラグインについて…… 142

はじめに

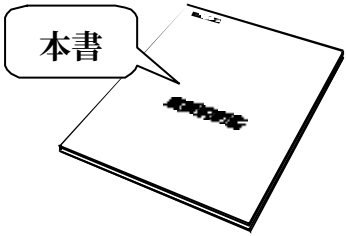
使う前の確認

箱の中身を確認しよう

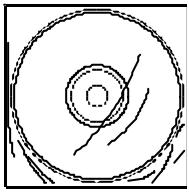
箱の中には以下のものが入っています。
□にチェックをつけながら、ご確認ください。



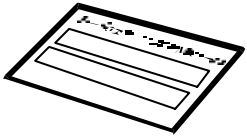
□ デジタルビデオキャプチャカード
［GV-DVC2/CB］



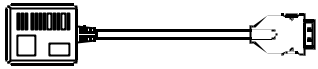
☑ 取扱説明書



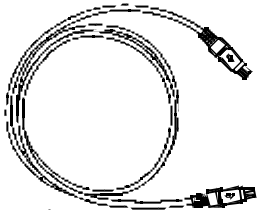
□ サポートソフト
［CD-ROMディスク］



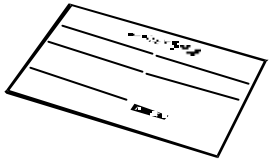
□ ハードウェアシリアルNo.シール



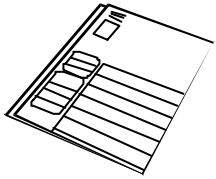
□ PCカード中継ケーブル



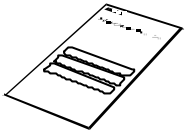
□ DVケーブル
［4ピン⇔4ピン（1.5m）］



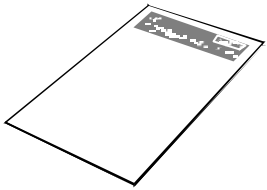
□ ハードウェア保証書



□ ユーザー登録カード



☐ **Verシール**



☐ **[安全で快適にお使いいただくために]**

＜サービス添付品＞

以下のサービス添付品は、弊社ではサポート致しかねます。お問い合わせ先などについては1ページ【サービス添付品のお問い合わせ先】を参照してください。

- ☐ CD-ROMディスク　5枚
  - Ulead MediaStudio Pro 6.0 VE SP
    （Ulead Cool3D 3 SE含む）
  - Ulead PhotoImpact 5 BE
  - Sonic DVDit! LE
  - DigiOnSound Light
  - PowerDVD VR-X
- ☐ Ulead MediaStudio Pro 取扱説明書　1冊
- ☐ Ulead 製品お客様保管用カード注)　1枚
- ☐ Sonic DVDit! LE ユーザー登録のご案内　1枚
- ☐ Sonic DVDit! LE インストールガイド注)　1枚
- ☐ DigiOnSound Light 登録ハガキ注)　1枚
- ☐ DigiOnSound Light インストールガイド　1枚
- ☐ PowerDVD VR-X　クイックガイド注)　1冊

注）インストール時やユーザサポート時に必要なシリアルナンバーが記載されています。大切に保管してください。

万一不足品がございましたら、弊社サポートセンターまでご連絡ください。

お願い：箱や梱包材は大切に保管し、修理などで輸送の際にご使用ください。

ユーザー登録しよう

1 「Verシール」を所定の位置に貼ります。

添付のVerシールを、ユーザー登録カード、本書巻末の「Verシール」と書かれている欄に貼ってください。

2 「ハードウェアシリアルNo.シール」を所定の位置に貼ります。

添付のハードウェアシリアルNo.シールを、ユーザー登録カード、ハードウェア保証書に貼ってください。

3 ユーザー登録を行います。

ユーザー登録にはオンライン登録と、ハガキ登録の2通りがあります。
いずれかの方法で登録を行ってください。

- **オンライン登録(http://www.iodata.co.jp/regist/)**

  インターネットに接続できる環境をお持ちの場合はこちらでユーザー登録を行ってください。

  上記のアドレスにある「オンラインユーザー登録」のフォームにて、ユーザー登録を行ってください。

  オンライン登録後、お手元のユーザー登録カードには、ユーザー登録番号を記入して大切に保管してください。

- **ハガキ登録**

  ユーザー登録カードに、必要な事項をご記入のうえ、弊社まで必ずご返送ください。

ユーザー登録カードによる登録の場合、必要事項のご記入もれや必要なシールの貼り忘れがあった場合は、ユーザー登録できません。必ずご確認ください。

GV-DVC2/CBの特徴

◎デジタル品質の映像をパソコンとDV機器間でダイレクト転送

OHCI準拠IEEE1394インターフェイスによるデジタル転送方式です。
DV(i.LINK)端子搭載のDV機器とパソコンを１本のケーブルで接続し、双方向の映像データの転送が可能です。

◎オリジナル・キャプチャツール「DVworks」を添付

オリジナルデザインのユーザーインターフェイスにより、AV機器感覚の操作環境を提供し、再生や停止を始めとするDV機器コントロールを行えます。また、フレーム落ちのないキャプチャやAVIファイル再生(シームレス・キャプチャ/再生）を実現し、自動シーン検出やIn/Out点の範囲指定キャプチャなど、豊富な機能を持っています。

◎参照型AVI方式(GigaAVIフォーマット)による長時間キャプチャが可能

松下電器が開発したソフトウェアDVコーデックによる高品質な映像再生と、弊社独自のコーデックドライバ技術を融合した参照型AVI方式(GigaAVIフォーマット)に対応。
参照型AVI方式(GigaAVIフォーマット)では、Video for Windowsの2Gバイトの制限を受けない長時間AVIファイルが可能です。
付属の「Ulead MediaStudio Pro」などの一般のノンリニアビデオ編集ソフトでも2Gバイト以上のAVIファイルの作成が可能です。

◎MPEGプラグインをインストールすれば、MPEG-1/MPEG-2ファイルの作成と編集が可能に

MediaStudio Pro 6.0 VE上でMPEGデータを作成＆編集可能にするMPEGプラグインを標準添付。プラグインをインストールすれば、編集した映像をMPEG-1やMPEG-2形式に圧縮して保存することができます。

◎ユーザーの創作力をサポートするアプリケーションを添付

本格的な映像編集をサポートするため、以下のアプリケーションを添付しています。

- ビデオ編集ソフト「Ulead MediaStudio Pro 6.0 VE SP」
  ※ 当社オリジナルのSpecial版ですので、特殊効果を制限なく使うことができます。
- DVDオーサリングソフト「DVDit! LE」
  ※ Windows Me/2000には未対応です。
- ソフトウェアDVDプレーヤ「PowerDVD VR-X」
- 3Dタイトル作成ソフト「Ulead Cool3D 3 SE」
- 静止画編集ソフト「PhotoImpact 5 BE」
- 音声波形編集ソフト「DigiOnSound Light」
- ソフトウェアMPEG2エンコーダ「mpEGG! DVDエンコーダ体験版」
  ※ サポートソフトCD-ROMに収録されています。

注意

これらのソフトウェアは弊社ではサポートしておりません。
お問い合わせに関しては11 ページ【サービス添付品のお問い合わせ先】か、裏表紙を参照してください。
（「mpEGG! DVD エンコーダ体験版」は体験版につき、サポートはしておりません。あらかじめご了承ください。）

対応している
パソコンとOS

対応しているパソコンとＯＳ

機種
PCカード規格準拠Type II Card Busスロットを持つ以下の機種 ・PC98-NXシリーズ ・DOS/Vマシン ※ SONY VAIOシリーズ等、標準でDV端子やIEEE1394端子を搭載する機種ではご使用いただけません。 ※ 他のDVキャプチャカード、IEEE1394インターフェイスカードとの併用はできません。

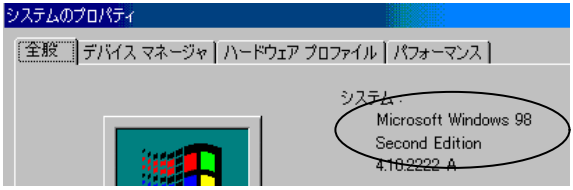
ＯＳ（日本語版）
・Windows Me ・Windows 98 Second Edition※ ・Windows 2000

※ Windows 98をお使いの場合は、Windows 98 Second Editionへのアップグレードが必要です。バージョンを確認してください（確認方法は以下をご参照ください。アップグレード方法に関しては、各パソコンメーカーにご確認ください。）

＜Windows 98 Second Editionの確認方法＞

①[マイコンピュータ]を右クリックし、表示された［プロパティ］をクリックします。

②[システム]欄に“Microsoft Windows 98 Second Edition”と表示されていることをご確認ください。



本製品を使用するために 最低限必要なパソコン環境

CPU	MMX Pentium 200MHz以上（PentiumⅡ 350MHz以上推奨）
メモリ	64Mバイト以上（128Mバイト以上推奨）
ハードディスク	・UltraATA/33以上 ・150Mバイト以上の空き容量（4Gバイト以上推奨） この容量は、ドライバソフト等のインストール領域です。この他に静止画および動画ファイル保存用として空き領域が必要です。 ・ 1分間の動画キャプチャには約220Mバイトの空き容量が必要です（2Gバイトの空き容量があれば、約9分30秒の動画キャプチャを行うことができます）。 ・ 静止画1枚につき、1Mバイトの空き容量が必要です。
グラフィック	解像度800×600ハイカラー以上の表示が可能であること
サウンド環境	音声再生用に必要
CD-ROMドライブ	アプリケーションソフトのインストール用

注意

- CPU速度、ハードディスクの転送速度、その他使用状況により動画キャプチャ時にコマ落ち・音飛びが発生する場合があります。
- IEEE1394対応のハードディスク、MO、CD-ROM等のドライブ機器は接続できません。
- DVHS、CSチューナー等には対応しておりません。
- パソコンの機種によってはDV機器への書き戻しが正常に行えない場合があります。

動作確認済みのDV機器一覧

対応機種は随時更新いたします。
最新情報は弊社ホームページをご覧ください。

メーカー	種類	DV機種名
Panasonic	DVカメラ	NV-C1,NV-C2,NV-C3,NV-C5,NV-C7,NV-DE3, NV-MG3,NV-DJ100,NV-DS5,NV-DS7,NV-DS9, NV-DS80K,NV-DS200,NV-DB1
	DVデッキ	NV-DV10000,NV-DM1
SONY	DVカメラ	DCR-TRV5,DCR-TRV7,DCR-TRV9,DCR-TRV10, DCR-TRV900,DCR-PC1,DCR-PC3,DCR-PC7, DCR-PC10,DCR-PC100,DCR-TRV310K, DCR-TRV220K,DCR-TRV20,DCR-TRV620K, DCR-TRV820K,DCR-VX2000,DCR-VX1000, DCR-VX9000
	DVデッキ	WV-D10000,GV-D300,DSR-30,WV-DR7
	メディア コンバーター※1	DVMC-DA1,DVMC-MS1,DVMC-DA2
SHARP	DVカメラ	VL-DC3※2,VL-PD1※2,VL-PD3, VL-PD7,VL-FD1,VL-G1K,VL-MR1
Victor	DVカメラ	GR-DVL※2,GR-DVL7,GR-DVY,GR-DVX7, GR-DVL700,GR-DVX9,GR-DVA10,GR-DVA11K
Canon	DVカメラ	MV1,CV11,FV1,FV2,XL1,XV1,PV1,FV10, IXY DV

※1 『DVworks』のオプション画面で、[DV機器の状態を無視する]と[カメラデバイス]をチェックしてお使いください（GV-DVC2/CB取扱説明書（別冊）32ページ）。

※2 DV入力に対応していないため、パソコンからDVメディアへの録画はできません。

注意

DV機器によっては、本製品の機能に一部制限があります。

添付ソフトウエアの動作環境

サービス添付のソフトウェアを動作させるには、8ページの最低限必要なパソコン環境に加え、さらに以下の条件を満たす必要があります。（詳細については各ソフトウェアのマニュアル・ヘルプを参照するか、各メーカーへお問い合わせください。）

- Ulead MediaStudioPro 6.0 VE SP
  ハードディスク：70Mバイト以上の空き容量
- Ulead PhotoImpact 5 BE
  ハードディスク：180Mバイト以上の空き容量
- DVDit! LE
  CPU　　:PentiumⅡ 300MHz以上
  メモリ　　：128Mバイト以上
  グラフィック　：1024×768×16bitハイカラー
  ハードディスク：80Mバイト以上の空き容量
  （ビデオ・オーディオファイル用に9Gバイト以上の空き容量）
- PowerDVD VR-X
  CPU　　:PentiumⅡ 300MHz以上（Windows 2000の場合はPentiumⅡ 400MHz以上）
  ハードディスク：20Mバイト以上
- DigiOnSound Light
  ハードディスク：70Mバイト以上
- mpEGG! DVDエンコーダ体験版
  CPU　　:PentiumⅢもしくは AMD Athlonプロセッサ
  メモリ　　：256Mバイト以上

サービス添付品のお問い合わせ先

以下のソフトウェアは「サービス添付品」につき、弊社ではサポートしておりません。
製品内容などのお問い合わせ先は以下を参照してください。

※「mpEGG! DVDエンコーダ体験版」は体験版につきサポートはしておりません。

Ulead MediaStudio Pro 6.0 VE SP、Ulead PhotoImpact 5 BE、Ulead Cool3D 3 SEのお問い合わせ先

ユーリードシステムズ（株）ユーザーサポート係
住所：東京都世田谷区用賀4-5-16　TEビル
TEL：03-5491-5662　FAX：03-5491-5663
受付時間：月～金曜日（祝祭日を除く）　10:00～12:00、13:00～17:00
＊「Ulead製品お客様保管用カード」も合わせてご確認ください。

Sonic DVDit! LE　のお問い合わせ先

DVDit! サポートセンター
住所：〒105-0022東京都港区海岸2-6-30 浜松町エメラルドビル5F
　　ソニック・ソルーションズ東京事務所　DVDit!サポートセンター
TEL： 03-5232-5065
受付時間：月～金曜日（祝祭日を除く）　10:00～12:00、13:00～17:00

DigiOnSound Light　のお問い合わせ先

デジオン　サポートセンター
住所：福岡市早良区百道浜2丁目3番8号 RKB放送会館4F
TEL：092-833-6288　FAX：092-833-6278
E-Mail：support@digion.com
受付時間：月～金曜日（祝祭日を除く）　10:00～12:00、13:00～17:00
＊「DigionSound Lightユーザー登録のご案内」も合わせてご確認ください。

PowerDVD VR-X　のお問い合わせ先

Cyber Link社　ユーザーサポート係
TEL：03-3662-8076　FAX：03-3662-8009
ホームページ：http://www.cli.co.jp/support/　E-Mail：support@cli.co.jp
受付時間：月～金曜日（祝祭日を除く）　10:00～13:00、14:00～17:00
＊「PowerDVD VR-X クイックガイド」も合わせてご確認ください。

ステップ1

使う前の準備

1 取り付け前の確認

本製品をパソコンに取り付ける前に、以下の確認および設定を行ってください。

IRQの空きの確認

本製品は割り込み(IRQ)を1つ使用します。割り込みの空きがないと本製品は使用できません。本製品を取り付ける前に、割り込みの空きを確認してください。

＜Windows Me/Windows 98の場合＞：下記

＜Windows 2000の場合＞：次ページ

注意

確認後、すべての割り込み（IRQ）番号が使用されている場合は、割り込みの空きがない状態です。使用していない機器等があれば取り外したり無効にし、割り込みの空きを作ってください。（詳細はパソコンメーカーにご確認ください。）

＜Windows Me/Windows 98編＞

①[マイコンピュータ]を右クリックして表示されるメニューから[プロパティ]を選び、[デバイスマネージャ]タブをクリックします。

②一番上の[コンピュータ]をダブルクリックします。

③[リソースの表示]タブをクリック後、[割り込み要求(IRQ)]をチェックします。表示されたIRQのうち、使用されていない（空いている）番号があれば、割り込みが空いていることになります。

5番と9番の割り込みが空いている例



<Windows 2000編>

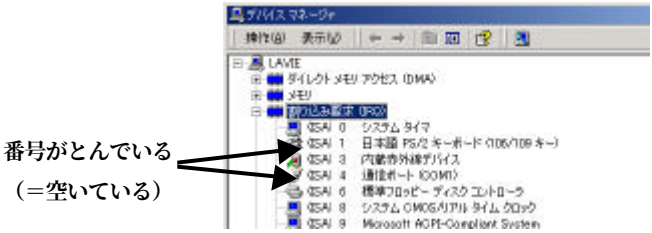
①[マイコンピュータ]を右クリックして表示されるメニューから[プロパティ]を選び、[ハードウェア]タブの[デバイスマネージャ]ボタンをクリックします。

②[表示]メニューの[リソース（種類別）]を選びます。



③[割り込み要求(IRQ)]をダブルクリックして表示されたIRQのうち、使用されていない（空いている）番号があれば、割り込みが空いていることになります。

2番と5番の割り込みが空いている例



DMAの確認

内蔵ハードディスクにキャプチャしたビデオ映像を保存する際、ハードディスクにDMAの設定がされていないとコマ落ちが発生する場合があります。以下の手順にて、DMAの設定がされているか確認し、設定されていない場合は設定してください。

＜Windows Me/Windows 98の場合＞：下記
＜Windows 2000の場合＞：18ページ

注意

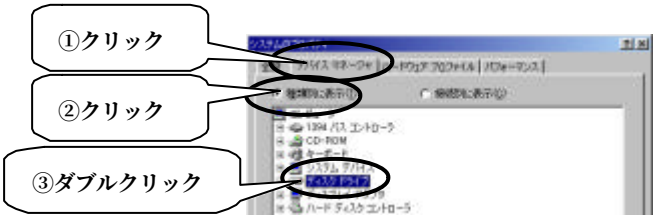
・SCSIハードディスクの場合は設定の必要はありません。
・パソコンの取扱説明書に以下のような記述がある場合は、[DMA]はチェックしないでください。（その場合、コマ落ちが発生する可能性があります。）
「ハードディスクはPIOモードで転送する」
「ハードディスクでDMA転送をしない」

＜Windows Me/Windows 98編＞

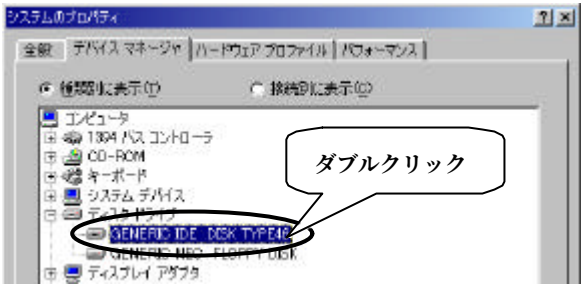
本書の画面はWindows 98ですが、Windows Meでも操作は同じです。

1　[マイコンピュータ] を右クリックし、表示された［プロパティ］をクリックします。

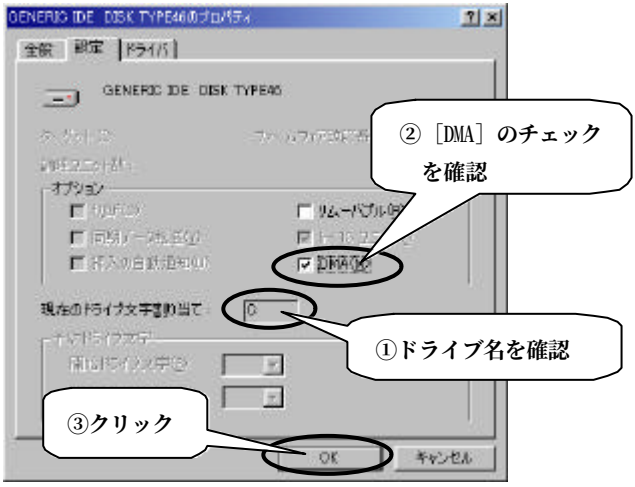
2　[デバイスマネージャ] タブをクリックし、[種類別に表示] を選び、[ディスクドライブ] をダブルクリックします。



3　**「GENERIC IDE DISK ・・・・」をダブルクリックします。**
複数の「GENERIC IDE DISK ・・・・」が表示されている場合は、上から順にダブルクリックしてください。



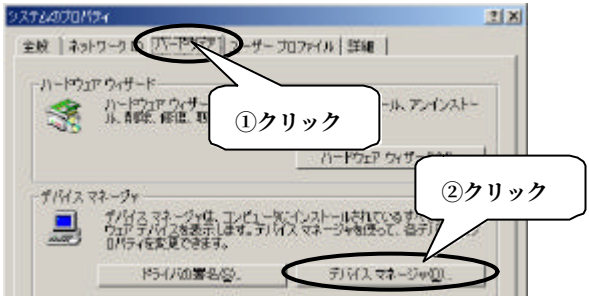
4　**[現在のドライブ文字割り当て] でファイルを保存するドライブ名であることを確認後、[オプション] の[DMA] のチェックが入っていることを確認します。チェックされていない場合はチェックし、［OK］ボタンをクリックします。**



<Windows 2000編>

1　**[マイコンピュータ]を右クリックし、表示された［プロパティ］をクリックします。**

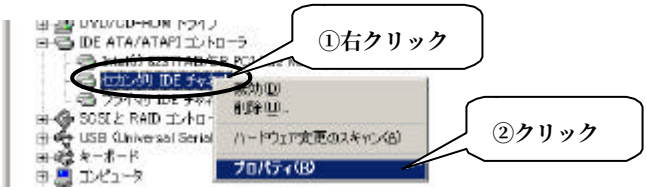
2　**[ハードウェア]タブをクリックし、［デバイスマネージャ］ボタンをクリックします。**



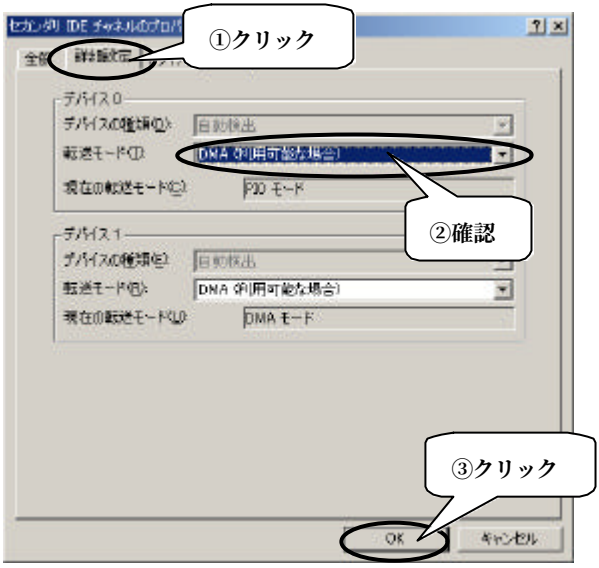
3　**[IDE ATA/ATAPI コントローラ]をダブルクリックします。**



4　**[セカンダリ IDE チャネル]を右クリックし、[プロパティ]をクリックします。**



5 **[詳細設定] タブをクリックし、[転送モード] が[DMA(利用可能な場合)] になっているか確認します。なっていない場合は選択し、[OK] ボタンをクリックします。**



6 **再起動を促す画面が表示されたら、[はい] ボタンをクリックします。**



7 **もう１度、手順*1*から行って、手順 *4*では[プライマリ IDE チャネル] を選択して、DMA の設定を確認してください。**

2 カードを取り付ける

ここでは、本製品をパソコンのPCカードスロットへ取り付ける手順について説明します。

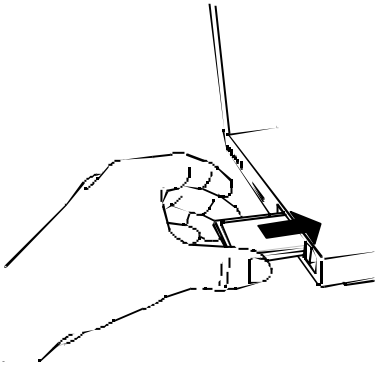
注意

・ここではまだ本製品にDV機器は接続しないでください。
・ドライバソフトのインストールには、CD-ROMドライブが必要です。
※ Windows 98 Second Edition非プリインストールモデルにて PCカード経由のCD-ROMをお使いの場合で、PCカードスロットが1つしか無い場合は、以下の手順を行う前に、先に「Windows 98 Second Edition」CD-ROMから以下のファイルをパソコンの任意のフォルダにコピーしておく必要があります。
CD-ROM内のWIN98フォルダ内にあるBASE6.CABファイル
コピー後、手順8でその任意のフォルダを指定します。
(26ページ参照)

1 パソコンの電源スイッチを切ります。

2 本製品をPCカードスロットに挿入します。

奥まで確実に挿入してください。



3 ドライバを インストールする

ここでは、本製品を使用する上で必要となるドライバソフトのインストールおよびインストール後の確認について説明します。
ご使用のOSによって、必要なページを参照してください。

- Windows Meの場合：【Windows Me編】次ページ
- Windows 98の場合：【Windows 98編】23ページ
- Windows 2000の場合：【Windows 2000編】31ページ

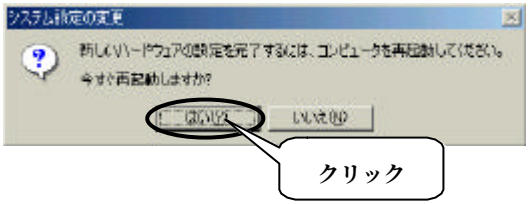
注意

ここではまだDV機器は接続しないでください。本製品のみを取り付けた状態でインストールを行います。

Windows Me編

1　パソコン（Windows Me）を起動します。

2　自動的にドライバがインストールされ、下記の画面が表示されるので、[はい] ボタンをクリックします。



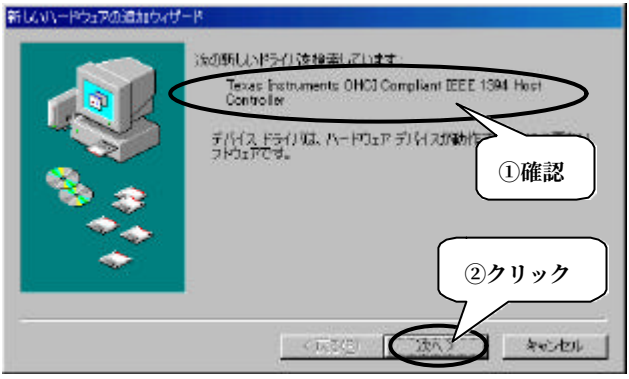
パソコンが再起動したら、インストール完了です。
正しくインストールされたかどうかの確認方法は、Windows 98と同じなので、28ページ【インストール後の確認】を参照し、必ず確認してください。

Windows 98編

1　パソコン（Windows 98 Second Edition）を起動します。

2　以下の画面が表示されたら、[次へ] ボタンをクリックします。

「Texas Instruments OHCI Compliant IEEE 1394 Host Controller」と表示されていることを確認してください。

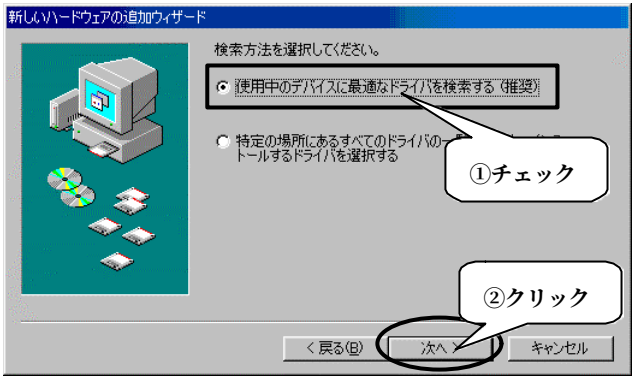


上記の画面が表示されない場合

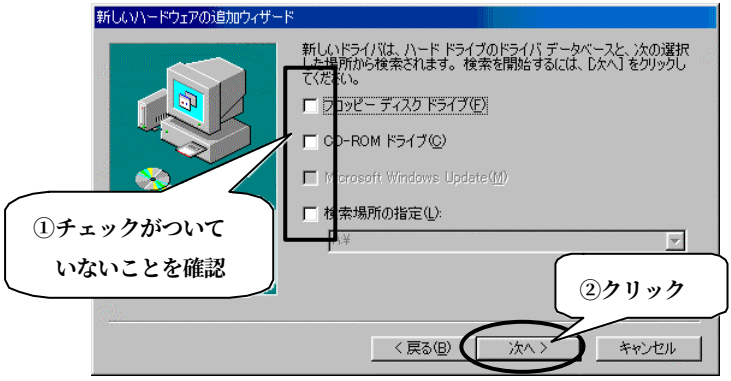
本製品のインストールが正常に終了すると次回から上の画面は表示されません。インストールが終了していない状態なのに、上の画面が表示されない場合は以下の原因が考えられます。Windowsを終了し、パソコンの電源を切ってから、次のことを確認してください。

・本製品がPCカードスロットに正しく取り付けられていない。
　→確実に取り付けられていることを再度ご確認ください。
　→取り付けるスロットを変更してみてください。

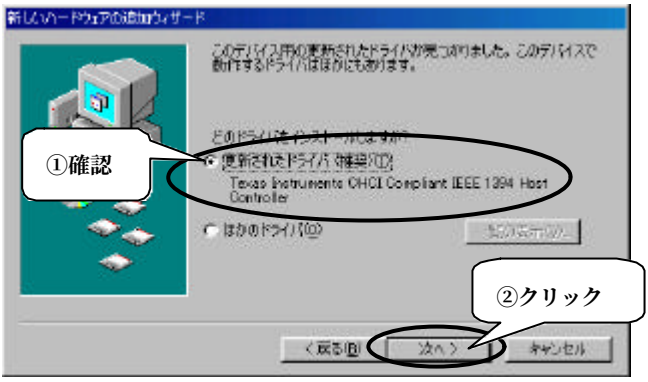
3　**[使用中のデバイスに最適なドライバを検索する(推奨)] を選択し、[次へ] ボタンをクリックします。**



4　**選択肢のチェックをすべて外して、[次へ] ボタンをクリックします。**



5　[更新されたドライバ（推奨）] が選択されていることを確認し、［次へ］ボタンをクリックします。



6　[次へ] ボタンをクリックします。

ファイルのコピーが始まります。



7　ディスクの挿入画面が表示される場合があります。

表示されない場合は、手順 **9** にお進みください。

表示された場合は、［OK］ボタンをクリックします。



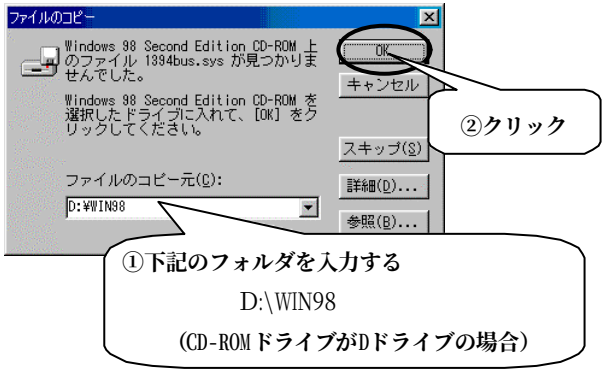
8　ファイルのコピー画面が表示されます。

＜お使いのパソコンがプレインストール版の場合＞



＜お使いのパソコンがプレインストール版でない場合＞

「Windows 98 Second Edition」CD-ROMをCD-ROMドライブに挿入し、WIN98フォルダを指定して、[OK]ボタンをクリックします。

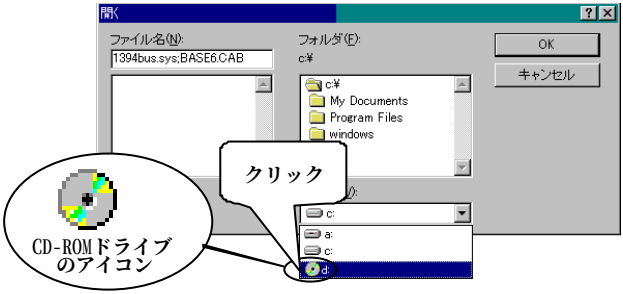


※ [参照]ボタンをクリックして指定する方法は次ページを参照してください。

Windows 98 Second EditionのCD-ROMのフォルダの指定がわからない場合

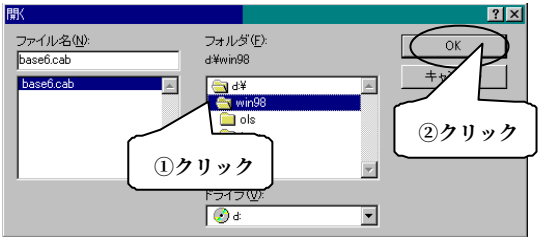
1. 「ファイルのコピー」画面の 参照(B)... （参照）ボタンをクリックします。

2. ［ドライブ］一覧からCD-ROMドライブのアイコンをクリックします。



3. [WIN98」、続けて［OK］ボタンをクリックします。

4. 再度[WIN98」、続けて［OK］ボタンをクリックすれば、CD-ROMドライブのWIN98 フォルダを指定した画面（手順 8 の画面）となります。



5. 手順 8 の画面で［OK］ボタンをクリックします。

同じような方法で、プレインストール版の場合も、フォルダ指定をすることができます。

9　[完了] ボタンをクリックします。

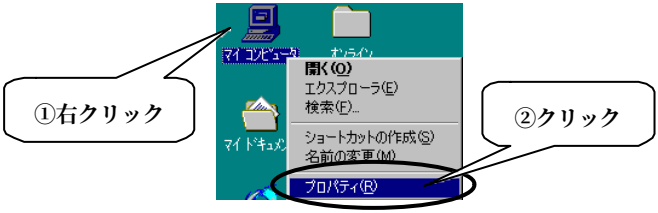


10　手順 8 で「Windows 98 Second Edition」CD-ROM を使用した場合は、CD-ROM を取り出します。

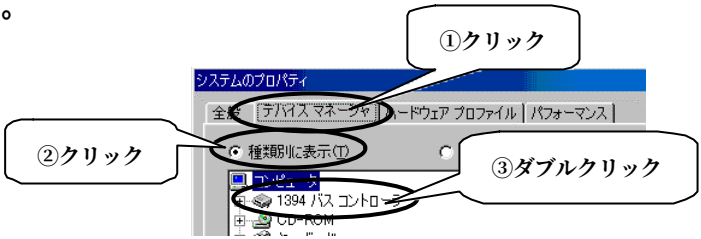
以上で、ドライバのインストールは終了です。
引き続き、インストールが正常に行われたかどうかを確認してください。

インストール後の確認

1　[マイコンピュータ] を右クリックし、表示された［プロパティ］をクリックします。



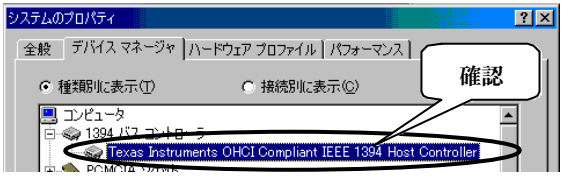
2　[デバイスマネージャ] タブをクリックし、[種類別に表示] を選び、[1394　バスコントローラ] をダブルクリックします。



[1394 バスコントローラ] の表示が無い場合

・パソコンの電源を切り、カードの装着状態を確認してください。
・パソコンを再起動してみてください。

3　[Texas Instruments OHCI Compliant IEEE 1394 Host Controller] が表示されていることを確認してください。



4　[Texas Instruments OHCI Compliant IEEE 1394 Host Controller] の頭に！マークや×マークがないことも確認してください。

！マークや×マークがある場合はインストールが正常に行われていません。次ページにお進みください。

**インストールが
うまくいかなかった！**

**[Texas Instruments OHCI Compliant ･･･････]
の頭に！マークや×マークがある**

GV-DVC2/CB取扱説明書（別冊）21ページ【リソースの変更方法】を参照してください。

**インストール
が正常ならば**

**この後、『DVworks』をインストールします。
【『DVworks』をインストールする】(33ページ) へお進みください。**

注意

本製品は、パソコンのスタンバイ機能には対応しておりません。本製品を取り付けた状態では、スタンバイ機能を使用しないでください。

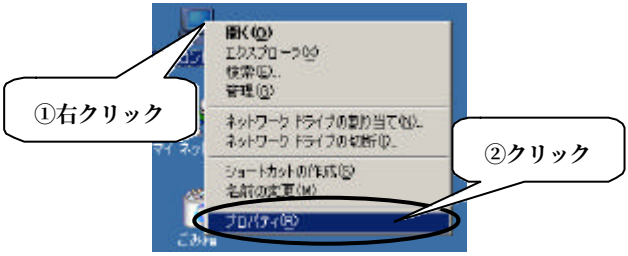
Windows 2000編

Windows 2000では本製品を取り付けた後、パソコンを起動すると、自動的に必要なドライバがインストールされます。ここでは、正しく認識されたかどうかの確認のみを行います。

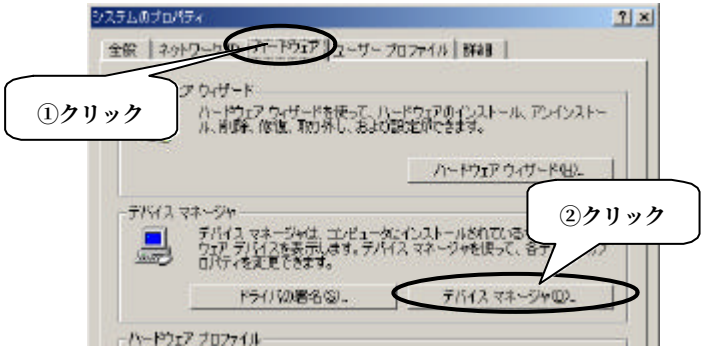
1　パソコン（Windows 2000）を起動します。

必要なドライバが自動的にインストールされます（インストール中の画面は何も表示されません）。

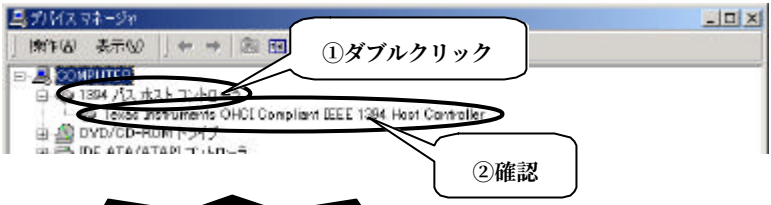
2　[マイコンピュータ] を右クリックし、表示された［プロパティ］をクリックします。



3　[ハードウェア] タブをクリックし、[デバイスマネージャ] ボタンをクリックします。



4　**[1394 バス ホスト コントローラ] をダブルクリックし、[Texas Instruments OHCI Compliant IEEE 1394 Host Controller] が表示されていることを確認してください。**



[1394 バス ホスト コントローラ] の表示が無い場合

・パソコンの電源を切り、カードの装着状態を確認してください。
・パソコンを再起動してみてください。

5　**[Texas Instruments OHCI Compliant IEEE 1394 Host Controller] の頭に！マークや×マークがないことも確認してください。**
！マークや×マークがある場合はインストールが正常に行われていません。

インストールがうまくいかなかった！

[Texas Instruments OHCI Compliant ·····] の頭に！マークや×マークがある

GV-DVC2/CB取扱説明書（別冊）21ページ【リソースの変更方法】を参照してください。

インストールが正常ならば

この後、『DVworks』をインストールします。
【『DVworks』をインストールする】(次ページ) へお進みください。

4 『DVworks（ディーブイ　ワークス）』をインストールする

本製品には、DV機器のテープなどのメディアの映像をディスプレイ上に再生したり、編集した映像を録画するためのソフトウェア『DVworks』が添付されています。

ここでは、『DVworks』のインストール方法について説明します。

（『DVworks』の使用方法については【ステップ２】43ページ以降で説明します。）

本書はWindows 98の画面で説明していますが、特に明記のない限り、どのOSでも、インストール方法は同じです。

注意

- **『DVworks』のインストール時には、DV 機器は接続しないでください。接続している場合は、いったん取り外してください。本製品のみパソコンに取り付けておいてください（取り付けていないと『DVworks』をインストールできません）。**
- **以前のバージョンの『DVworks』をお使いの場合は、アンインストールしてから、本製品添付のバージョンをインストールしてください。**
  （手順については次ページ参照）
- **Windows 2000 をお使いの場合、必ず Administrator 権限でログインしてから『DVworks』をインストールしてください。**

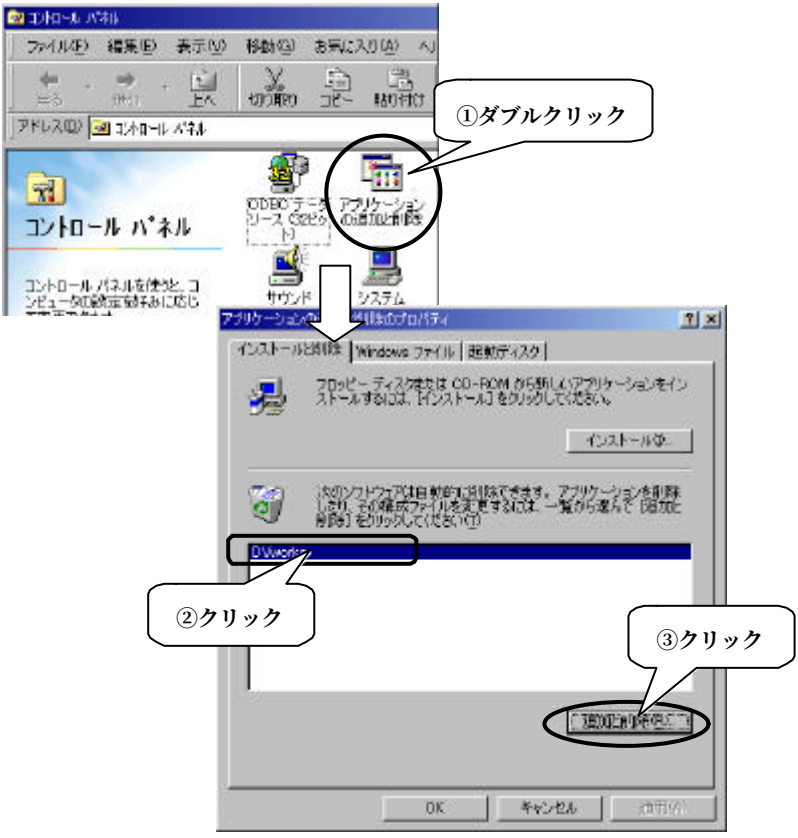
1 以前のバージョンの「DVworks」を削除（アンインストール）します。

（以前のバージョンの「DVworks」をインストールしていない場合は手順 2 へお進みください。）

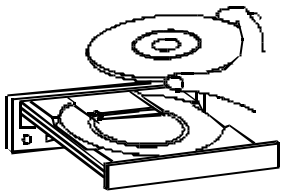
①[スタート]→[設定]→[コントロールパネル]を順にクリックし、[アプリケーションの追加と削除]アイコンをダブルクリックします。

②表示されている[DVworks]をクリックします。

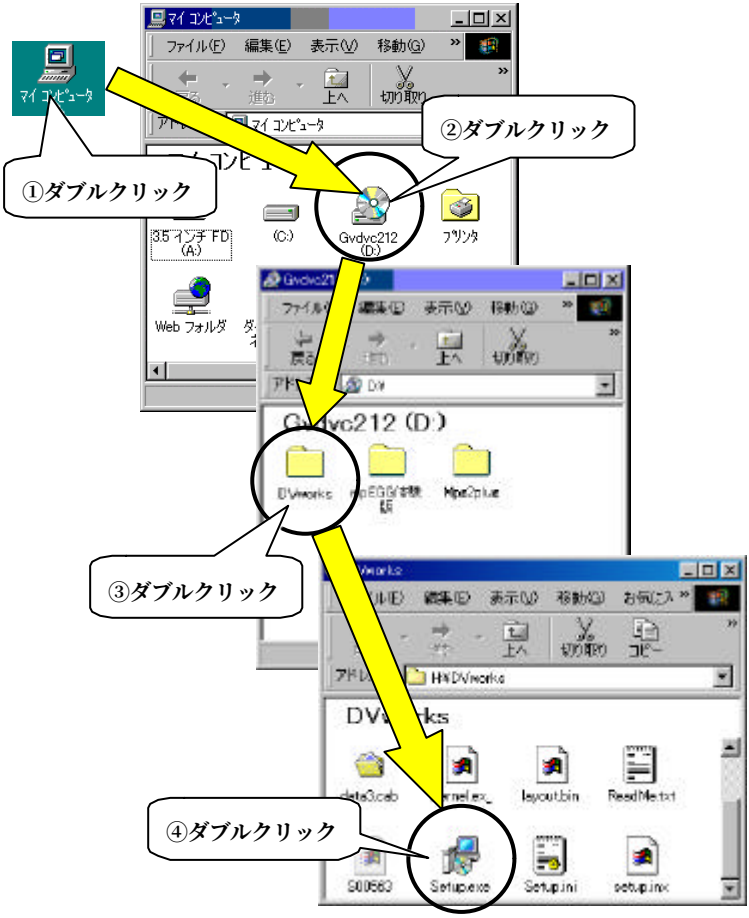
③［追加と削除］をクリックします。
（Windows 2000の場合は[プログラムの変更と削除]をクリック）
後は画面の指示に従ってください。



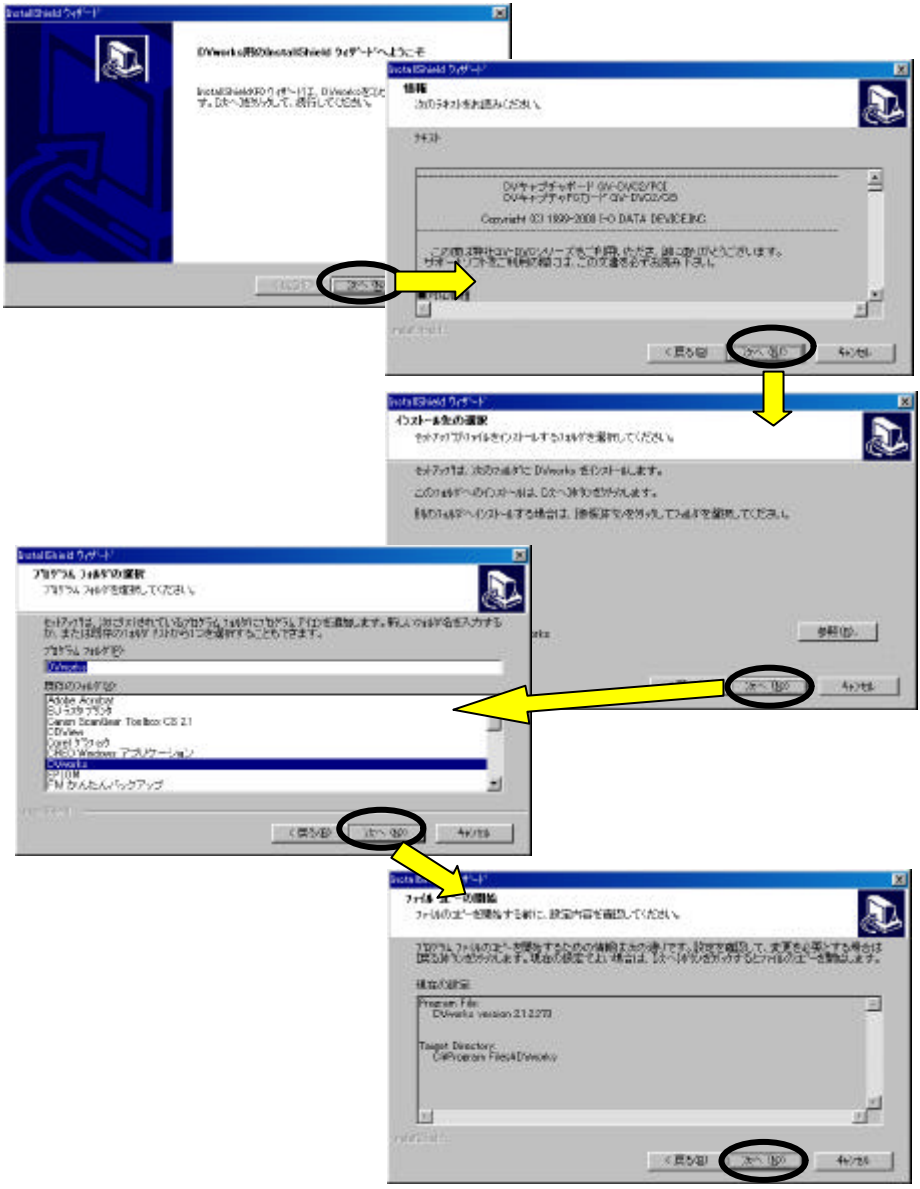
2 **サポートソフトディスクをCD-ROMドライブにセットします。**



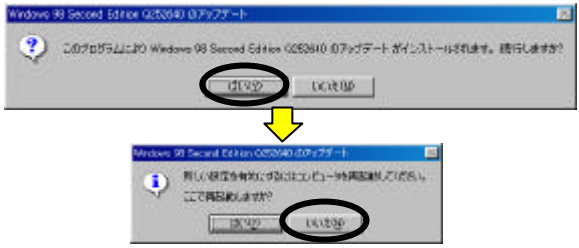
3 **[マイコンピュータ]→[CD-ROMドライブ]→[DVworks]→[Setup.exe]を順にダブルクリックします。**



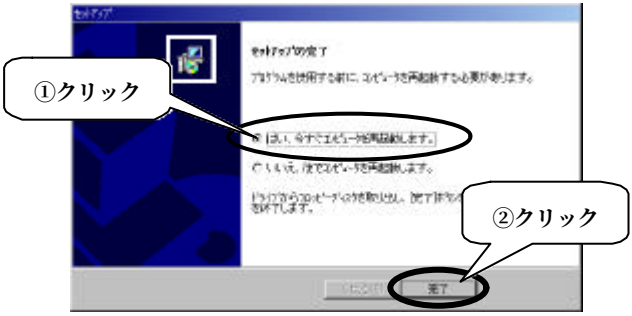
4 画面の指示に従って操作を進めます。



5 **Windows 98 Second Edition をお使いの場合は、下記の画面が表示されるので、[はい] ボタンをクリックします。再起動の画面では[いいえ] ボタンをクリックします。**



6 **セットアップの完了画面で［はい、直ちにｺﾝﾋﾟｭｰﾀを…］を選択し、［完了] ボタンをクリックします。**



7 **パソコンが再起動します。**

以上で『DVworks』のインストールは終了です。
この後、【MediaStudio Proをインストールする】(次ページ)へお進みください。

5 『MediaStudio Pro』をインストールする

本製品には、ビデオクリップ（「動画ファイル」、「AVIファイル」ともいう）のカット編集や特殊効果、タイトル編集、BGM追加などを行って、楽しいビデオ作品を作るためのソフトウェア『MediaStudio Pro 6.0 VE SP』が添付されています。

ここでは、『MediaStudio Pro』のインストール方法について説明します。（『MediaStudio Pro』の使用方法については【ステップ３】83ページ以降で説明します。）

本書はWindows 98の画面で説明していますが、特に明記のない限り、どのOSででもインストール方法は同じです。

注意

・Windows 2000 をお使いの場合、『MediaStudio Pro』のインストールは、必ず Administrator 権限でログインしてから行ってください。

・『MediaStudio Pro』はサービス品につき、弊社ではサポートいたしておりません。お問い合わせなどについては、下記を参照してください。

MediaStudio Proのお問い合わせ先

ユーリードシステムズ株式会社　ユーザーサポート窓口

TEL　03-5491-5662　FAX 03-5491-5663

受付時間：月～金曜日 10：00～12:00　13:00～17:00

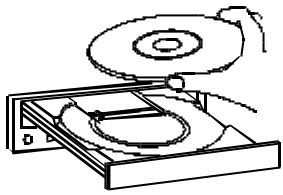
（特定休業日、祝祭日を除く）

サポートE-mail　support@ulead.co.jp

ホームページ　http://www.ulead.co.jp

住所　〒158-0097　東京都世田谷区用賀4-5-16　ＴＥビル

1　**『Ulead MediaStudio Pro 6.0』ディスクをCD-ROMドライブにセットします。**



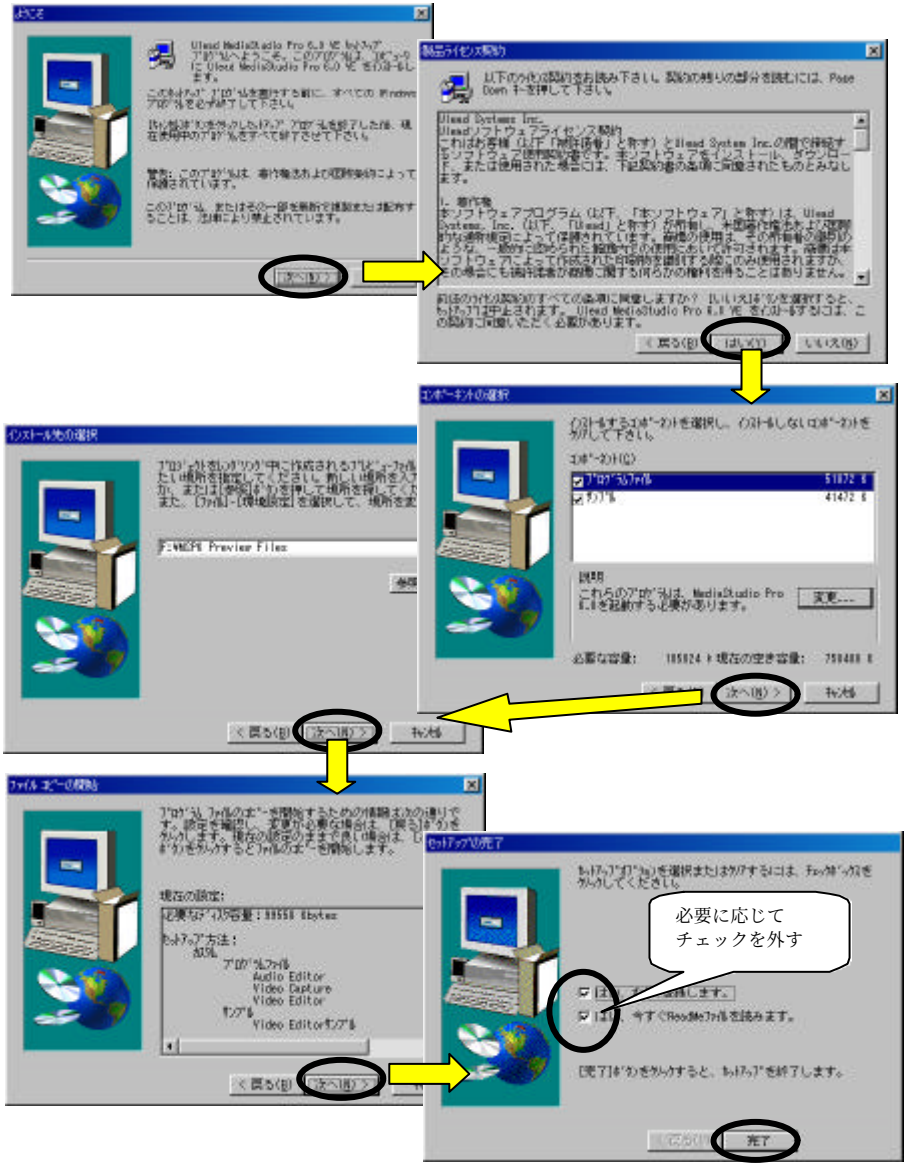
2　**しばらくして下記の画面が表示されたら、[MediaStudio Pro 6.0のインストール] をクリックします。**



この画面が表示されない場合は

[マイコンピュータ]を開き、CD-ROMドライブアイコンをダブルクリックします。表示された[SETUP]アイコンをダブルクリックしてください。

3 画面の指示に従って操作を進めます。



4　この後、ご使用の環境を自動的に判断して必要なソフトウェアのインストールを行います。
画面の指示に従って処理を進めてください。
インストール、その他の機能詳細についてはヘルプや添付のマニュアルを参照ください。

5　手順 2 の画面に戻ります。

- **Windows Me、Windows 2000 をお使いの場合は、[終了] をクリックします。**
- **Windows 98 Second Edition をお使いの場合は、[ドライバのインストール] →[Windows 98 SE DV Update] をクリックし、画面の指示に従ってインストールします。**
（最後に[Do you want to restart…]と表示されたら、[はい]ボタンをクリックしてパソコンを再起動してください）



これで、インストールは終わりです。
次は、パソコンにDV機器を接続して動画をパソコンへ取り込んでみましょう。
【ステップ２】43ページへ進んでください。

MEMO

ステップ2

映像をキャプチャしよう

1 DV機器を接続しよう

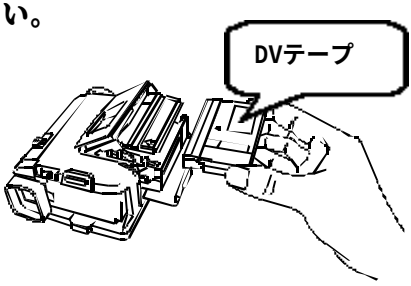
DV機器を接続する

本製品にDV機器を接続します。

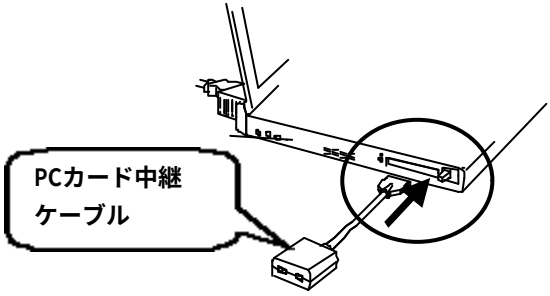
1 **お使いのDV機器の電源を入れ、DV機器を「ビデオ（再生）モード」に設定してください。**

DV機器の操作については、各DV機器の取扱説明書を参照してください。

2 **DV機器に録画済みのDVテープなどのメディアを挿入してください。**



3 **本製品に「PCカード中継ケーブル」を接続します。**
※ケーブルの向きに注意して接続してください。

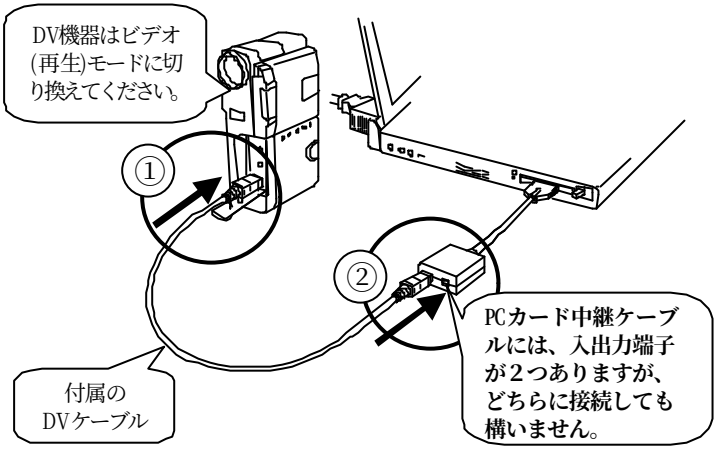


4　DV機器と本製品を付属のケーブルで接続します。

① DV機器にあるDV(i.LINK)端子に付属の「DVケーブル」を接続します。

DV機器側のDV端子の位置については、各DV機器の取扱説明書を参照してください。

② DVケーブルのもう一方を「PCカード中継ケーブル」に接続します。



※同時に2つのDV機器は制御できません。

5　接続すると、パソコンがDV機器を自動認識します。

- **Windows Me、Windows 2000をお使いの場合**
  自動的にドライバをインストールします。
- **Windows 98 Second Editionをお使いの場合**
  Windows 98 Second EditionのCD-ROMディスクが要求されます。26ページの手順 *7*、*8* を参照して処理を進めてください。

次は、接続したDV機器が正しく認識されたかどうかを確認します。
ご使用のOSによって、必要なページをお読みください。

- **Windows Meの場合: 次ページ**
- **Windows 98 Second Editionの場合:48ページ**
- **Windows 2000の場合:50ページ**

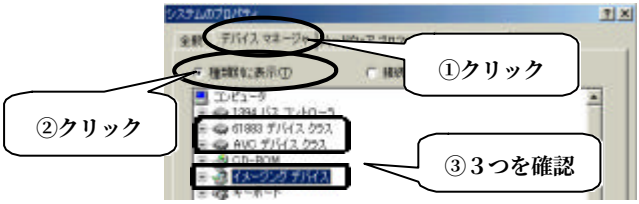
確認しよう（Windows Me編）

DV機器が正常に接続されたかを確認します。

1　[マイコンピュータ] を右クリックし、表示された［プロパティ］をクリックします。



2　[デバイスマネージャ] タブをクリックし、[種類別に表示] を選択します。
[61883 デバイスクラス]、[AVC デバイスクラス]、[イメージングデバイス] の３つが表示されていることを確認します。

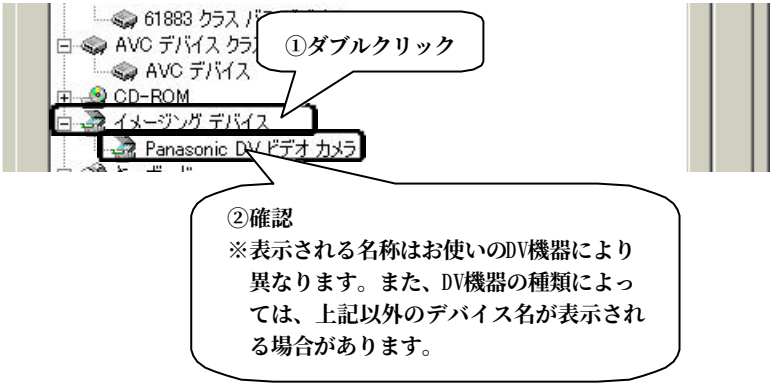


３つのデバイスが表示されない場合

- ケーブルを一度抜き差ししてみてください。
- ケーブルがしっかり差し込まれていることを確認してください。
- DV機器の電源が入っているか確認してください。
- パソコンの電源を切り、本製品を別のPCカードスロットに挿入してください。
- Windows 98からWindows Meにアップグレードしている場合、アップグレード時に1394ドライバがWindows Me用のものに更新されていない可能性があります。一旦ドライバを削除して、再度インストールしてみてください。

3　[イメージングデバイス] をダブルクリックして、お使いのDV機器が表示されていれば正常に認識されています。

[イメージングデバイス]の他にも[不明なデバイス]が表示される場合がありますが、ご使用上問題ありません。（表示される名称はお使いのDV機器により異なります。）

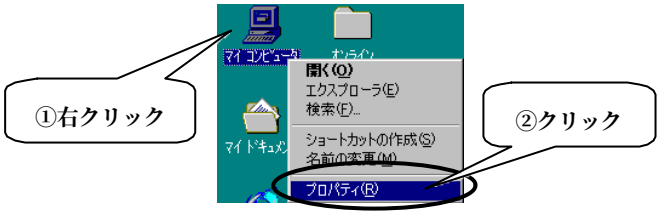


以上で、接続の確認は終了です。
次に「DV機器をパソコン上から操作してみよう」52ページへ進んでください。『DVworks』でDV機器を操作してみましょう。

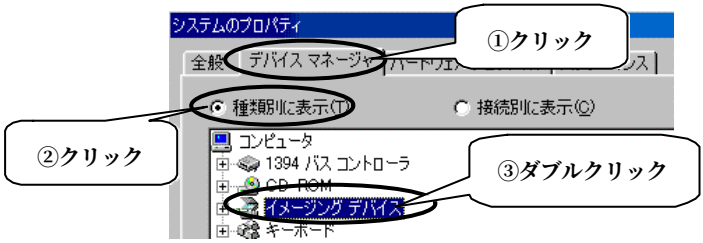
確認しよう（Windows 98編 ）

DV機器が正常に接続されたかを確認します。

1　[マイコンピュータ] を右クリックし、表示された［プロパティ］をクリックします。



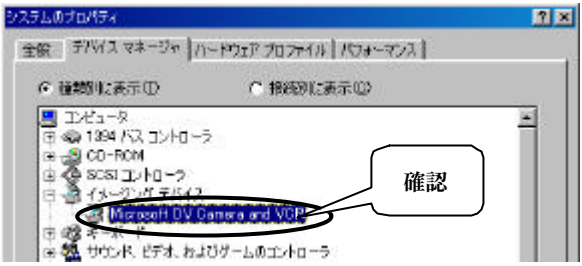
2　[デバイスマネージャ] タブをクリックし、[種類別に表示] を選択します。
[イメージングデバイス] をダブルクリックします。



「イメージングデバイス」の表示が無い場合

・ケーブルを一度抜き差ししてみてください。
・ケーブルがしっかり差し込まれていることを確認してください。
・DV機器の電源が入っているか確認してください。
・パソコンの電源を切り、本製品を別のPCカードスロットに挿入し直してみてください。

3　[Microsoft DV Camera and VCR]が表示されていれば正常に接続されています。



「Digital VCR」と表示されている場合は

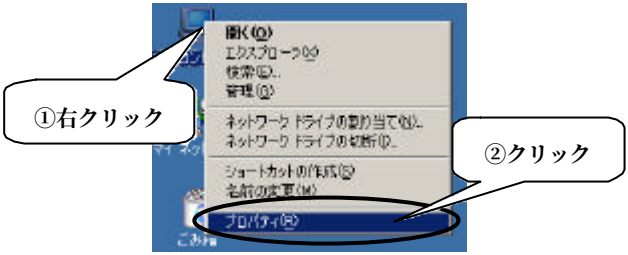
イメージングデバイスが誤認識されています。
33ページ【『DVworks』をインストールする】をもう１度実行して、DVworksを再インストールしてください。

以上で、接続の確認は終了です。
次に「DV機器をパソコン上から操作してみよう」52ページへ進んでください。『DVworks』でDV機器を操作してみましょう。

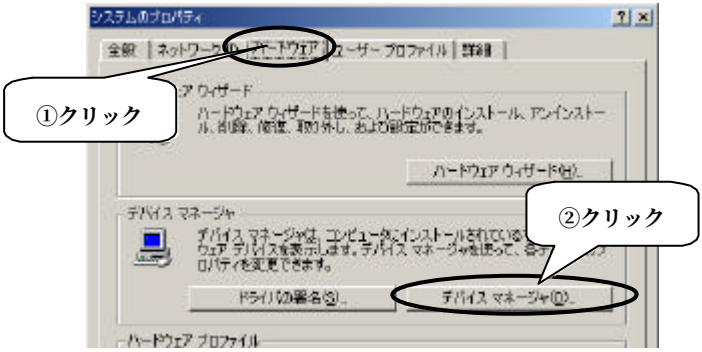
確認しよう（Windows 2000編）

DV機器が正常に接続されたかを確認します。

1　**[マイコンピュータ] を右クリックし、表示された［プロパティ］をクリックします。**



2　**[ハードウェア] タブをクリックし、[デバイスマネージャ] ボタンをクリックします。**



3　[イメージングデバイス]をダブルクリックして、[Microsoft DV Camera and VCR]が表示されていれば、正常に接続されています。



「イメージングデバイス」の表示が無い場合

・ケーブルを一度抜き差ししてみてください。
・ケーブルがしっかり差し込まれていることを確認してください。
・DV機器の電源が入っているか確認してください。
・パソコンの電源を切り、本製品を別のPCカードスロットに挿入し直してみてください。

「Digital VCR」と表示されている場合は

イメージングデバイスが誤認識されています。
[Digital VCR]を選択後、[削除]ボタンをクリックします。その後で、ケーブルを抜き差しして、DV機器を再認識させてください。

以上で、接続の確認は終了です。
「DV機器をパソコン上から操作してみよう」次ページへ進んでください。『DVworks』でDV機器を操作してみましょう。

2 DV機器をパソコン上から操作してみよう

それでは、DV機器をパソコン上から操作してみましょう。
パソコン上からの操作は、**【ステップ１】**でインストールした『DVworks』で行います。まだインストールしていない場合は33ページ【『DVworks』をインストールする】を参照してください。

注意

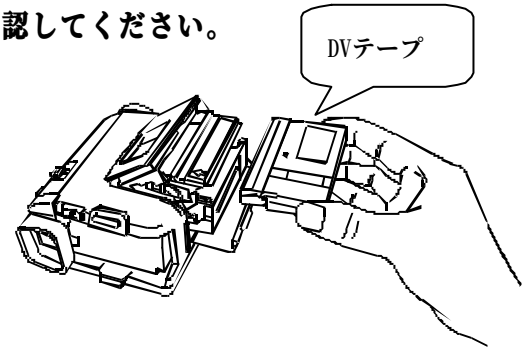
・テープの再生などの操作中は、ケーブルの抜き差しを行わないでください。
・DVworks を使用する際は、ディスプレイの省電力設定・スクリーンセーバー、OS の省電力設定を使用しないでください。（設定についてはパソコンメーカーにご確認ください。）

DV機器を準備する

1 **DV機器の電源が入っていることを確認してください。**

※DV機器がビデオ(再生) モードになっていることも確認してください。

2 **DV機器に録画済みのDVテープなどのメディアが入っていることを確認してください。**

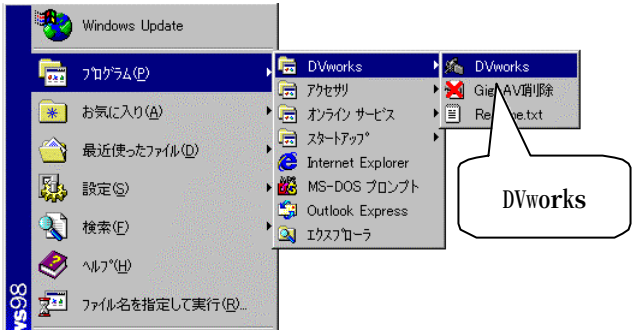


『DVworks』を起動する

インストールした『DVworks』を起動してみましょう。

本書ではWindows 98の画面で説明しますが、特に明記のない限り、どのOSでも操作は同じです。

1　[スタート]→[プログラム]→[DVworks]→[DVworks]を順にクリックします。



2　以下の画面が表示されます。「機器名称」を入力後、[OK]ボタンをクリックします。

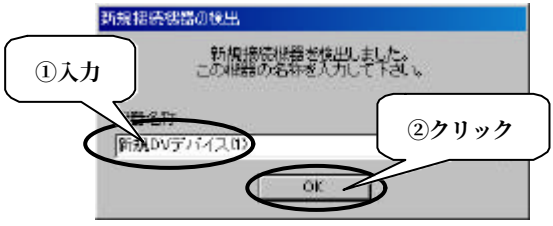
はじめてDVworksがDV機器を認識した場合、以下の画面が表示されます。

DVworksに登録するDV機器の名称（任意）を入力してください。

以後、登録した名前でDVworksはそのDV機器をコントロールします。

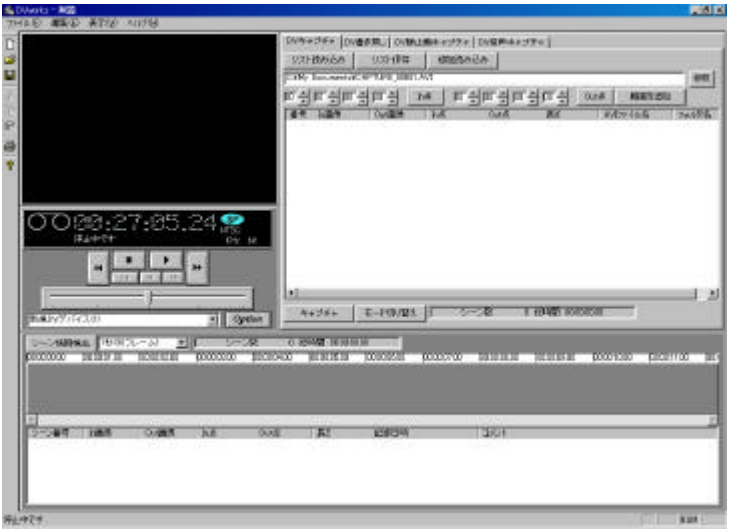
一度登録すると、次回からは表示されません。

また、別のDV機器を接続した場合も以下の画面が表示されます。



3　以下の画面が表示されます。

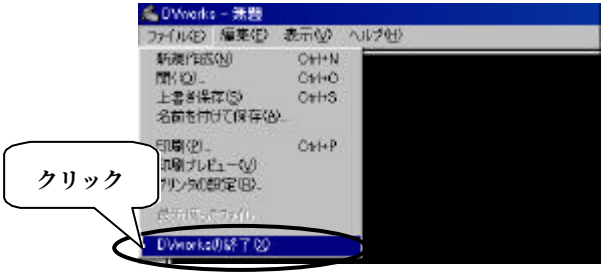
ウィンドウは、起動時にディスプレイ一杯に表示されます。
（以下の画面は、画面解像度1024x768時のレイアウトです。）



参考

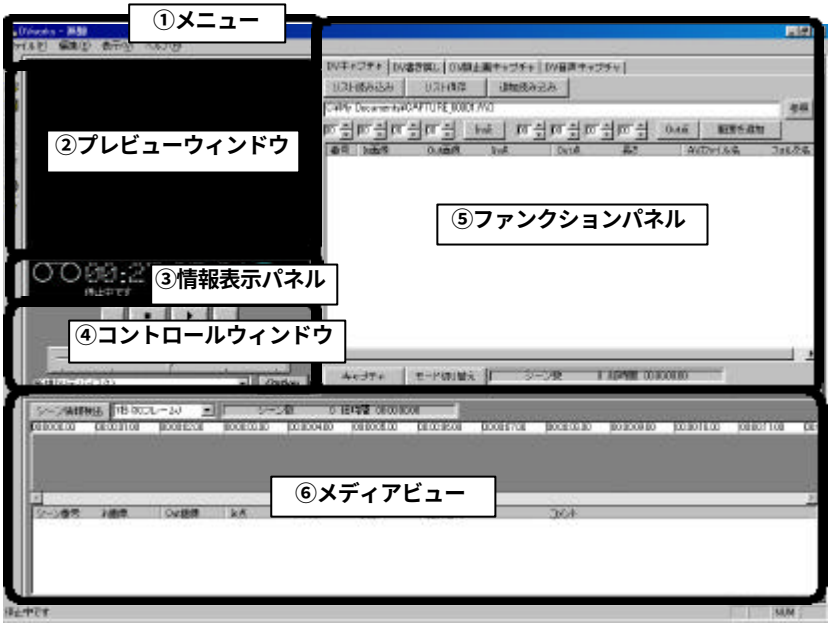
DVworksは起動時にウィンドウを最大化表示します。ウィンドウは、DVworks起動時のディスプレイ解像度とユーザーの指定したプレビューウィンドウサイズに応じて変化します（プレビューウィンドウサイズの指定方法はGV-DVC2/CB取扱説明書（別冊）26ページ参照）。

4　[ファイル] メニューの[DVworksの終了] を選ぶと、DVworksが終了します。



『DVworks』の画面構成

『DVworks』の画面は、以下の６つの部分から構成されています。



各部の詳細については、GV-DVC2/CB取扱説明書（別冊）の25ページをご覧ください。

No	項目	説明
①	メニュー	メニューを表示します。プレビューウィンドウの横のツールバーにはよく使うアイコンが並んでいます。
②	プレビューウィンドウ	DV機器からの映像や書き戻し時の映像など、プレビュー表示が行われるウィンドウです。
③	情報表示パネル	DV機器・メディアに関する情報を表示するパネルです。
④	コントロールウィンドウ	DV機器をコントロールするためのボタンが配置されているウィンドウです。ウィンドウサイズは一定の大きさに固定されています。
⑤	ファンクションパネル	DVworksの映像・静止画・音声キャプチャ、DVメディアへの書き戻し機能に関する操作を行うためのパネルです。
⑥	メディアビュー	DVメディアの内容をシーン毎に情報表示させる領域です。 ※シーンとは、撮影時に録画ボタンのONからOFFにするまで記録される映像のことです。

『DVworks』でDV機器の接続を確認する

『DVworks』がDV機器を正常に認識しているか、「③情報表示パネル」で確認しましょう。（表示についての詳細は、GV-DVC2/CB取扱説明書（別冊）29ページ【情報表示パネル】参照）

正常に認識されている場合の表示例



エラー表示例

「DV機器を検索中です」と表示されたままとなっている場合



対処

・DV機器の電源が入っているか、ビデオ(再生)モードになっているか確認し、ケーブルを一度抜き差ししてみてください。

「メディアが挿入されていません」と表示されている場合



対処

DVメディアが入っていることを確認してください。

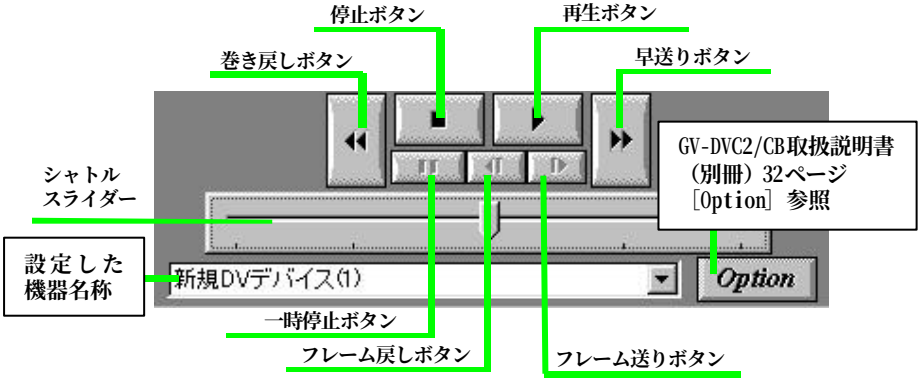
『DVworks』でDV機器を操作する

（再生・停止・早送り・巻き戻し・一時停止・フレーム送り・フレーム戻し・シャトルスライダー）

ここでは、[コントロールウィンドウ]の基本的な操作を行います。

注意

- **お使いのDV 機器により、コントロールできる機能に一部制限があります。**
- **DVworks 2.1では、［逆再生］ボタンはありません。**
- **ドロップフレーム表示の場合は、フレーム番号が一部抜ける場合があります。**



再生（ ▶ ボタン）

▶をクリックすると、DV機器側で再生が始まり、しばらくすると[プレビューウィンドウ]に映像が表示されます。

停止（ ■ ボタン）・一時停止（ ⏸ ボタン）

■をクリックすると、再生・早送り・巻き戻し・フレーム送り・フレーム戻しを終了します。

⏸をクリックすると、再生・早送り・巻き戻しを一時停止します。

早送り（ボタン）・巻き戻し（ボタン）

をクリックすると、DVメディアの早送りを行います。
をクリックすると、DVメディアの巻き戻しを行います。
再生状態でクリックすると、早送り再生・巻き戻し再生を行います。
一時停止状態でクリックすると、スロー再生・スロー逆再生を行います。

フレーム送り（ボタン）・フレーム戻し（ボタン）

または をクリックすると再生が一時停止します。
連続してフレーム操作（　　）をクリックすると、映像がフレーム単位（１コマ単位）でコマ送り・コマ戻しを行います。

シャトルスライダー

＜シャトル機能＞

再生中にスライダーのつまみをドラッグして移動させると、再生速度が変わります。スライダー中央からつまみを右へ動かすほど、DVメディア順方向への速度が速くなり、左へ動かすほどDVメディア逆方向への速度が速くなります。

＜ジョグ機能＞

ホイールマウスを使用している場合には、ホイールを前に回すと１フレーム戻し、後ろに回すと１フレーム送りを行います。
（ジョグ機能の使い方は、次ページを参照してください。）

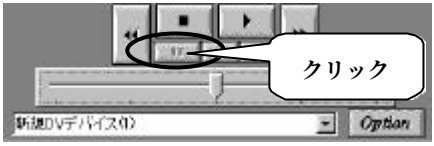
注意

ホイールマウスは、Microsoft製インテリマウスを推奨します。

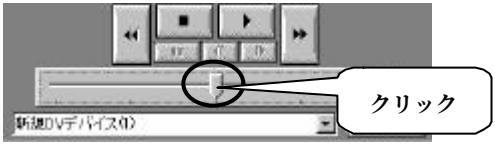
ジョグ機能の使い方

ホイールマウスを利用すれば、ホイールを転がすことで、フレーム送り・フレーム戻しの操作を行うことができます。

1　**（一時停止）をクリックし、映像を一時停止します。**



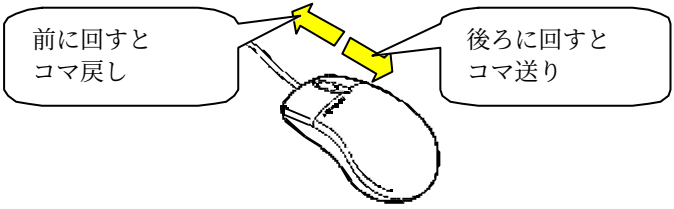
2　**シャトルスライダーのつまみをクリックします。**



3　**マウスのホイールを使ってコマ送り、コマ戻しができます。**

ホイールを前に回すと１フレーム、映像のコマ戻しを行います。

ホイールを後ろに回すと１フレーム、映像のコマ送りを行います。



3 ビデオ映像を キャプチャしよう

ここでは、DV機器にセットされているDVメディアの映像や音声を、パソコン上に取り込んで、ハードディスクに保存してみましょう。この作業を「キャプチャ」といい、『DVworks』では、次のキャプチャ方法があります。

■映像と音声をキャプチャしたいとき

・ キャプチャ後のファイル形式：AVIファイル、または、GigaAVIファイル
（GigaAVIファイルについては次ページの参考をご覧ください。）

方法	特徴	参照
シーン検出して一括キャプチャ	『DVworks』がシーン（撮影時に録画ボタンをON/OFFした間の映像）を自動的に検出します。キャプチャしたいシーンをすべて選んでおき、一括してキャプチャできます。こまめに録画ボタンをON/OFFして撮影した場合におすすめですが、録画ボタンを押したまま長時間撮影した映像には不向きです。	62
タイムコードを指定して一括キャプチャ	キャプチャしたい映像の開始・終了のタイムコードを指定します。キャプチャしたい映像のタイムコードをすべて指定しておき、一括してキャプチャできます。キャプチャしたい範囲の大まかな時間がわかっている場合や、正確な位置でキャプチャしたい場合におすすめです。	71
映像を見ながら随時キャプチャ	映像を再生しながら好きな箇所をキャプチャします。複数箇所の一括キャプチャはできません。録画内容があいまいで確認しながらキャプチャしたい場合やテープの一部分だけをキャプチャしたい場合におすすめです。	75

参考：キャプチャ後のAVIファイルサイズについて

AVIファイルは指定したシーンやキャプチャボタンを押した単位で作成されます。１分間の映像キャプチャには約220Mバイトが必要です。通常のAVIファイルの最大値である2Gバイトの容量がある場合は、約9分30秒のキャプチャを行うことができます。
これ以上のキャプチャを行う場合は、GigaAVIファイルを作成する必要があります（GigaAVIファイルについては、GV-DVC2/CB取扱説明書58ページ【2G以上のAVIファイルを扱うには】参照）

■音声だけをキャプチャしたいとき

- キャプチャ後のファイル形式：WAVファイル
- ビデオ映像に録音されている音声だけをキャプチャします。キャプチャした音声ファイルは、ビデオ編集時に、ナレーションや効果音として別の映像と組み合わせることもできます。
- 参照：78ページ

■静止画としてキャプチャしたいとき

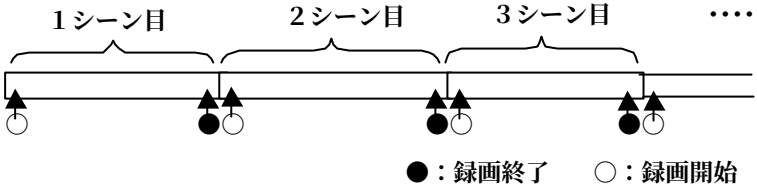
- キャプチャ後のファイル形式：BMPファイル
- ビデオ映像の１フレームを静止画としてキャプチャします。キャプチャした静止画ファイルは、壁紙に使ったり、ペイントなどのソフトウェアで加工することもできます。
- 参照：81ページ

シーン検出でキャプチャする

「DVメディアにどんな内容が録画されているか」をシーンの検出を行うことによって確認することができます。
また、その検出したシーンから、キャプチャしたいシーンだけを選択して、AVIファイルにすることもできます。

参考：シーンについて

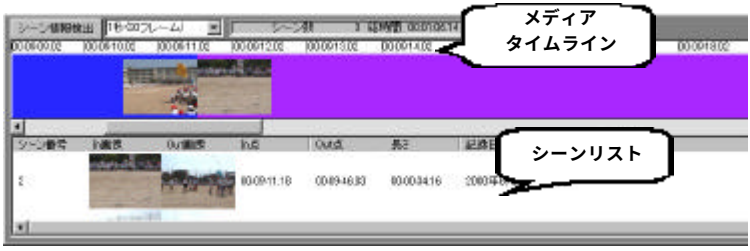
シーンとは、撮影時に録画ボタンをONからOFFにするまでに記録される映像を指します。



注意

- **シーン情報検出は、DVメディアを再生しながら行うので、録画時間と同じ時間がかかります。**
- **シーン検出中はプレビューウィンドウに表示される映像が荒くなります。**

以下はシーンを検出した例です。
シーンリストには各シーンの先頭と終了のサムネイル画像（映像の１フレームを縮小表示したもの）、時間などの情報が表示されます。タイムラインにはシーンを検出した位置に、サムネイル画像が表示されます。



シーン情報を検出する

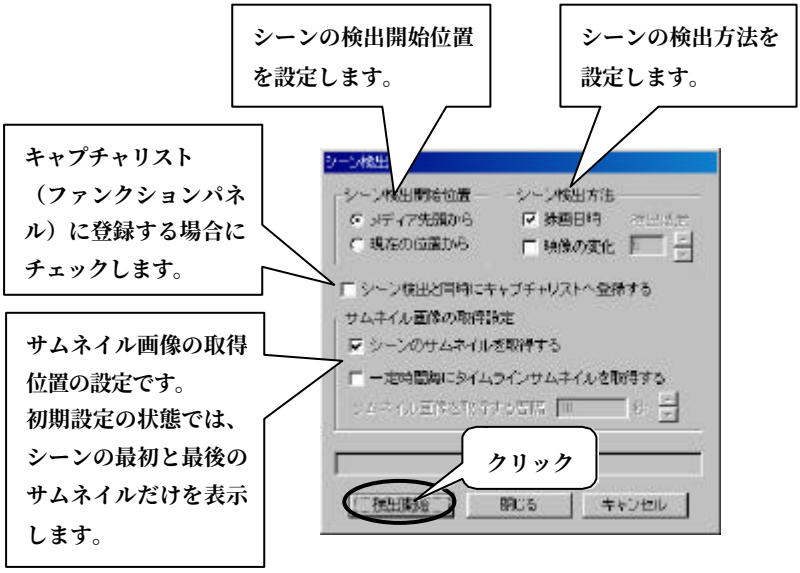
1　**DV機器を停止状態（テープを再生していた場合は停止する）にします。**

2　**[メディアビュー]の[シーン情報検出]ボタンをクリックします。**



3　**シーン検出画面が表示されます。**
設定後、[検出開始]ボタンをクリックします。

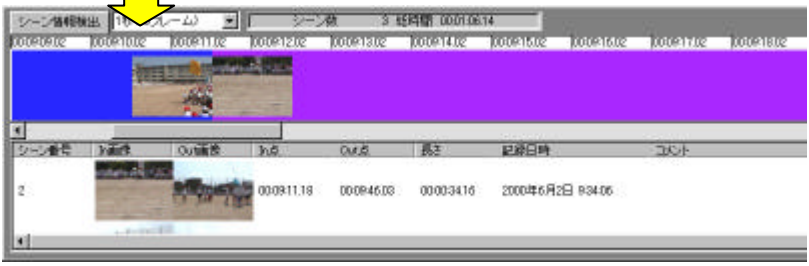
設定内容の詳細はGV-DVC2/CB取扱説明書（別冊）51ページを参照してください。



4　シーン検出を開始します。



シーン検出中は、プレビュー表示が粗くなりますが、動作に問題はありません。



5　DVメディアのすべてのシーンを検出するか、[検出終了]をクリックすると、シーン検出を終了します。

１度検出したシーン情報は、保存しておくことができます。保存しておくと、同じDVメディアから必要なシーンをキャプチャしたいとき、もう１度、シーン検出する時間を節約することができます。次ページの参考をご覧ください。

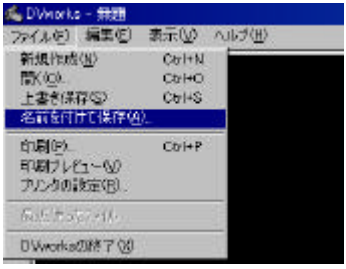
参考

＜シーン情報をファイルにする＞

検出したシーン情報やファンクションパネルに登録したデータすべてをファイル（プロジェクトファイル）にして保存することができます。
プロジェクトファイルを保存しておくと、「シーン検出」を行わなくても、ファイルを開くだけで保存した時の状態のデータを表示させることができます。

・ファイルの保存方法

「ファイル」メニューの「名前を付けて保存」をクリックして保存場所・保存ファイル名を設定できます。
ファイルは、拡張子DVWとして保存されます。



・ファイルの開き方

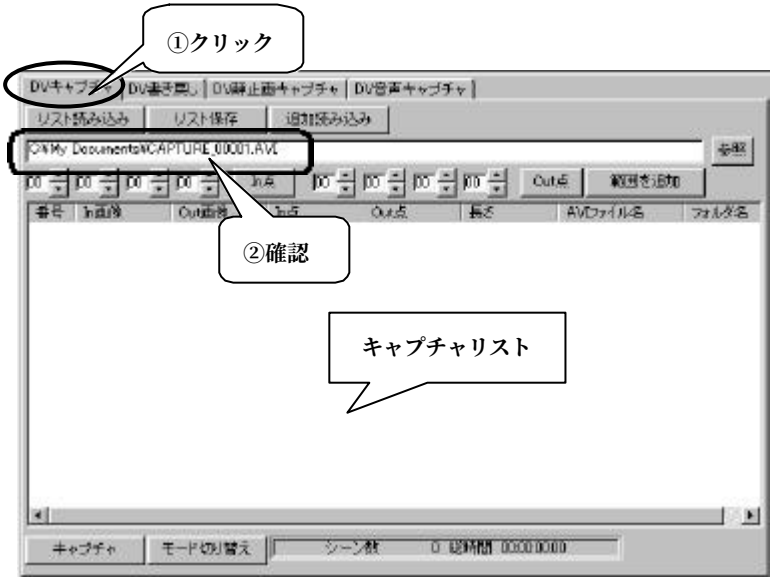
「ファイル」メニューの「開く」をクリックして、保存しているプロジェクトファイル（拡張子DVW）を指定してください。



キャプチャしたいシーンを選択する

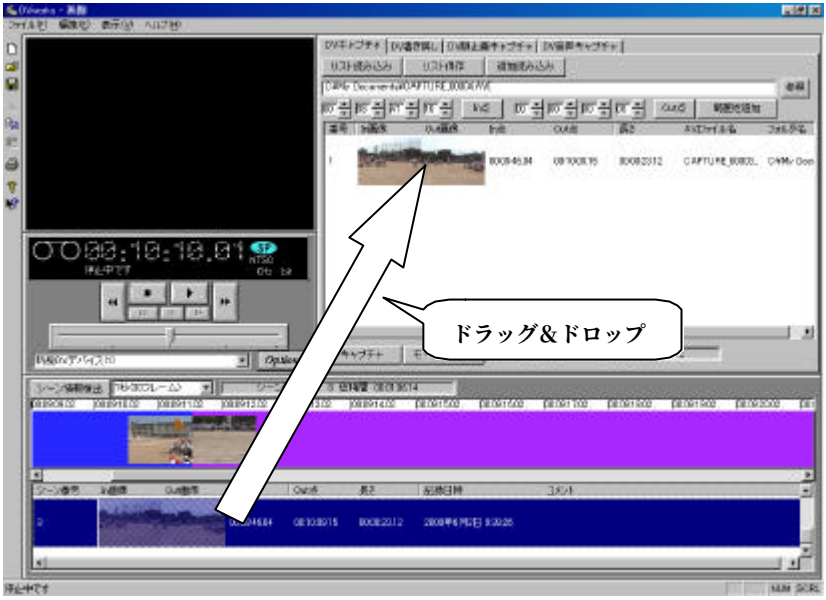
検出したシーンから、キャプチャしたいシーンだけを選択することができます。選択したシーンはファンクションパネルのキャプチャリストに表示されます。この時点ではまだ映像はキャプチャされません。キャプチャ候補のリストを作る段階です。

1　[ファンクションパネル]の[DVキャプチャ]タブをクリックし、表示されているファイル名を確認します。



表示されているファイル名がキャプチャ後のAVIファイル名になります。ファイルの格納フォルダを変更したいときは[参照]ボタンをクリックして選択してください。ファイル名を変更したいときは任意のファイル名を入力してください（拡張子は.AVI固定）。

2　シーンリストからキャプチャしたいシーンを選び、キャプチャリストへドラッグ&ドロップします。



注意

手順 *1* で指定したドライブに十分な空き容量がない場合は、予想ファイルサイズに応じて、空きのあるドライブが自動的に指定されます。キャプチャリストのフォルダ名欄を確認してください。

キャプチャ項目の詳細を確認する

キャプチャリスト項目の予想ファイルサイズを確認したり、キャプチャ開始・終了点、格納フォルダやファイル名の変更ができます。確認したいキャプチャ項目をダブルクリックしてください。



注意

キャプチャ項目のIN 点･OUT 点のいずれかを変更した場合は、その項目のサムネイルは消去されます。

キャプチャ項目を削除する

キャプチャリスト上の項目を削除したい場合は、キャプチャ項目を右クリックして[削除]を選んでください。



キャプチャ項目を一括キャプチャする

キャプチャしたい項目が選択できたら、実際のキャプチャを行います。

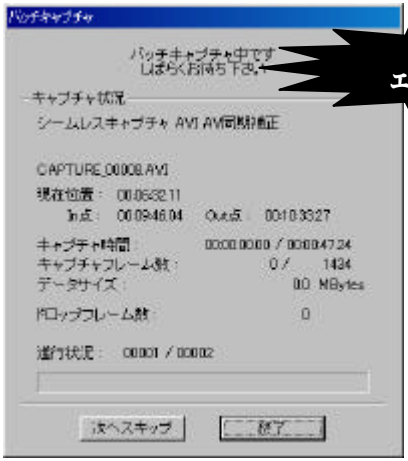
1　[キャプチャ] ボタンをクリックします。

キャプチャリストの先頭項目のIn点をDVメディアから検索し、キャプチャを開始します。



2　キャプチャ中、以下の画面が表示されます。

キャプチャ中のシーンをスキップしたい場合は、[次へスキップ]ボタンをクリックします。



キャプチャ中に
エラーが表示された場合

GV-DVC2/CB取扱説明書（別冊）15ページ【正常に動作しない場合】参照

3　キャプチャ中の[情報表示パネル] の[‥KHz] を確認します。

このKHz表示はお使いのDVメディアによって異なります。この情報は、後で映像を編集するために『MediaStudio Pro』を起動するときに必要になります（85ページ参照）。



4　手順 2の画面が消えたら、キャプチャ終了です。

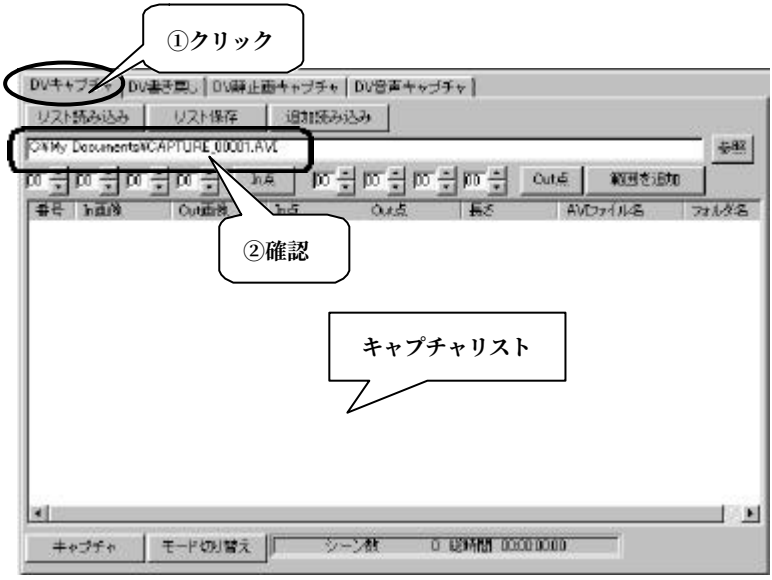
途中で終了したいときは[終了]ボタンをクリックします。

タイムコードでキャプチャする

キャプチャしたい映像の開始点、終了点のタイムコードを指定して、一括してキャプチャすることができます。

1　DV機器を停止状態（テープを再生していた場合は停止する）にします。

2　[ファンクションパネル]の[DVキャプチャ]タブをクリックし、表示されているファイル名を確認します。



表示されているファイル名がキャプチャ後のAVIファイル名になります。ファイルの格納フォルダを変更したいときは[参照]ボタンをクリックして選択してください。ファイル名を変更したいときは任意のファイル名を入力してください（拡張子は.AVI固定）。

3　[コントロールウィンドウ]で映像を再生し、キャプチャを開始したい場所で[一時停止]ボタンをクリックします。

映像の再生、一時停止の方法は【『DVworks』でDV機器を操作する】57ページを参照してください。

参考

キャプチャしたい範囲のタイムコードが大まかにわかっているときは、開始点、終了点のタイムコードを直接入力することもできます。
ファンクションパネルの In点、Out点にタイムコードを入力し、手順 **7**へ進んでください。



4　**[ファンクションパネル] の[In 点] ボタンをクリックします。**

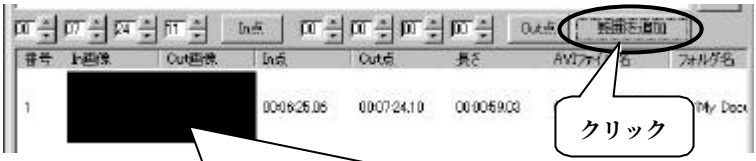


5　**[コントロールウィンドウ] で映像を再生し、キャプチャを終了したい場所で[一時停止] ボタンをクリックします。**

6　**[ファンクションパネル] の[Out 点] ボタンをクリックします。**



7　[範囲を追加] ボタンをクリックして、キャプチャリストに項目を追加します。



タイムコードによる範囲追加では、ここにはサムネイル画像は表示されません（黒く表示されるだけ）。サムネイル画像が表示されるのは、シーン検出したものを追加したときだけです。

注意

In 点の指定によっては、以下のようなメッセージが表示される場合があります。



＜テープ先頭無効領域とは＞

DVテープのメディア先頭は、記録されたデータが乱れる可能性があり、その場合、映像が正常にキャプチャされない場合があります。そのため、DVworksでは、メディア先頭部分を無効領域として設定することができです（初期設定ではテープ先頭から5秒間が無効領域として設定されています）。
タイムコード指定でこの領域を含んだ場合、上のような警告メッセージを表示します。無効領域の変更方法はGV-DVC2/CB取扱説明書（別冊）33ページの「テープ無効領域」を参照してください。

＜メッセージが表示されたら＞

[いいえ]ボタンをクリックし、In点の指定を変更（無効領域を含まない範囲に）することをおすすめします。無効領域を含んでもいい場合は[はい]ボタンをクリックしてください（実際にキャプチャするときにエラーになる可能性があります）。

8　複数追加する場合は、手順 *3*〜 *7*を繰り返します。

キャプチャリストの使い方は68ページ【キャプチャ項目の詳細を確認する】や【キャプチャ項目を削除する】を参照してください。



9　キャプチャを行います。

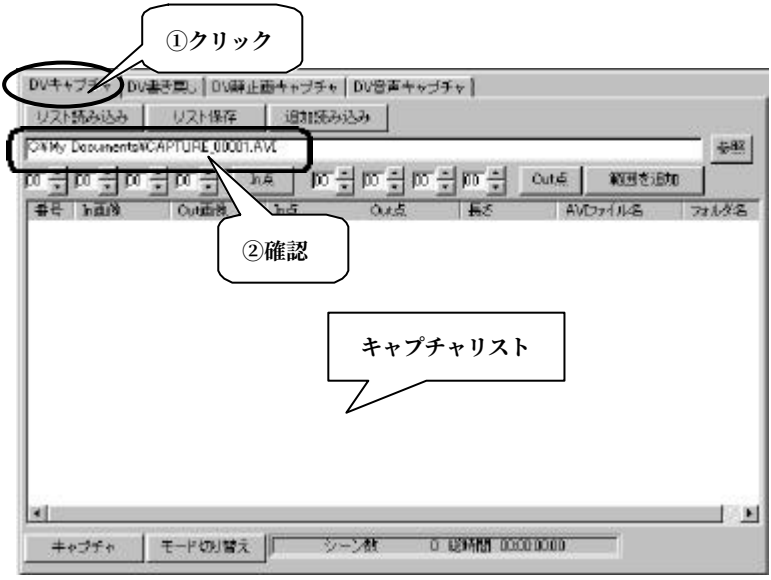
キャプチャ方法は69ページ「キャプチャ項目を一括キャプチャする」を参照してください。

映像を見ながらキャプチャする

[プレビューウィンドウ]に映像を表示しながら、好きな位置でキャプチャすることができます。

1　[コントロールウィンドウ]の（巻き戻し）などで、キャプチャしたい位置より前にDVメディアを戻します。

2　[ファンクションパネル]の[DVキャプチャ]タブをクリックし、表示されているファイル名を確認します。



表示されているファイル名がキャプチャ後のAVIファイル名になります。ファイルの格納フォルダを変更したいときは[参照]ボタンをクリックして選択してください。ファイル名を変更したいときは任意のファイル名を入力してください（拡張子は.AVI固定）。

3　[コントロールウィンドウ]の（再生）をクリックし、映像を再生します。

4　キャプチャしたい映像が表示されたら、[キャプチャ] ボタンをクリックします。

クリック後、しばらくしてから自動的にキャプチャを開始します。



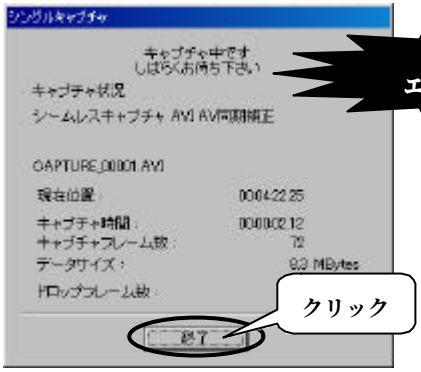
5　キャプチャ中の[情報表示パネル] の[‥KHz] を確認し、メモします。

このKHz表示はお使いのDVメディアによって異なります。この情報は、後で映像を編集するために『MediaStudio Pro』を起動するときに必要になります（85ページ参照）。



6　キャプチャを終了する場合は[終了] ボタンをクリックします。

自動的にDV機器も停止します。

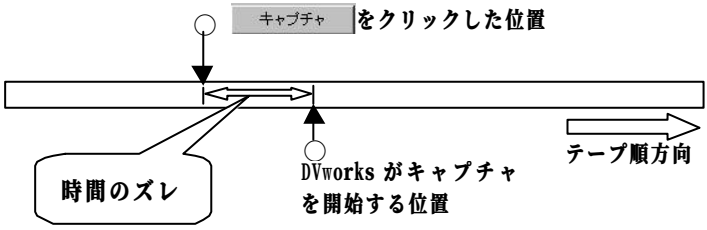


キャプチャ中にエラーが表示された場合

GV-DVC2/CB取扱説明書（別冊）15ページ【キャプチャ中、勝手にキャプチャ処理が・・・】参照

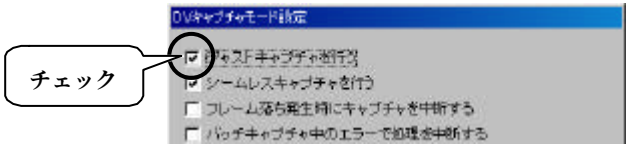
参考：正確な位置でキャプチャするには

[キャプチャ]ボタンをクリックした時点と、実際にキャプチャを開始する時点とは、時間のズレがあります。このズレを防ぐために「ジャストキャプチャ機能」があります。この機能を使うと、[キャプチャ]ボタンをクリックした時点で、自動的に少し前に巻き戻し、ボタンをクリックした位置から正確にキャプチャをスタートさせることができます。



＜ジャストキャプチャの設定方法＞

[モード切り替え]ボタンをクリックし、「ジャストキャプチャを行う」をチェックしてから、キャプチャを行ってください。



音声だけをキャプチャする

ビデオ映像に録音されている音声だけをキャプチャすることができます。
例えば、ビデオ編集するときに、キャプチャした音声をナレーションや効果音として別の映像と一緒に組み合わせるという使い方ができるようになります。

1　[コントロールウィンドウ] の（巻き戻し）などで、キャプチャしたい位置より前にDVメディアを戻します。

2　[ファンクションパネル] の[DV音声キャプチャ] タブをクリックし、表示されているファイル名を確認します。



表示されているファイル名がキャプチャ後のWAVファイル名になります。ファイルの格納フォルダを変更したいときは[参照]ボタンをクリックして選択してください。ファイル名を変更したいときは任意のファイル名を入力してください（拡張子は.WAV固定）。

3　[コントロールウィンドウ] の（再生）ボタンをクリックし、映像を再生します。

4　キャプチャしたい音声が聞こえたら、[音声キャプチャ] ボタンをクリックします。

クリック後、しばらくしてから自動的にキャプチャを開始します。
音声キャプチャにも「ジャストキャプチャ」機能があります（77ページ【参考】を参照）。この機能を使うときは音声キャプチャを行う前に[モード切り替え]ボタンで設定してください。



参考：連続してキャプチャするには

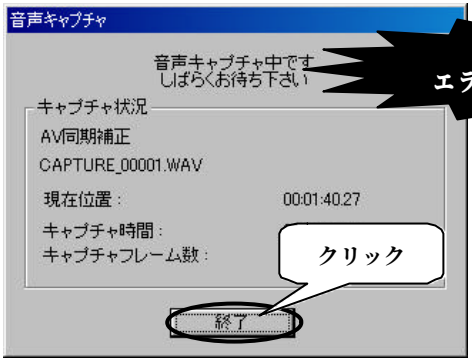
ファンクションパネル上で右クリックして、[ファイル名を自動生成する]ボタンをクリックしておくと、音声をキャプチャするたびに、ファイル名が自動的に作成されるようになります。



例）
最初にキャプチャしたとき：CAPTURE_00001.WAV
次にキャプチャしたとき　：CAPTURE_00002.WAV
（後半の数値５桁が自動的に加算されていく）

5　キャプチャを終了する場合は[終了] ボタンをクリックします。

自動的にDV機器も停止します。



キャプチャ中にエラーが表示された場合

GV-DVC2/CB取扱説明書（別冊）15ページ【キャプチャ中、勝手にキャプチャ処理が・・・】参照

参考

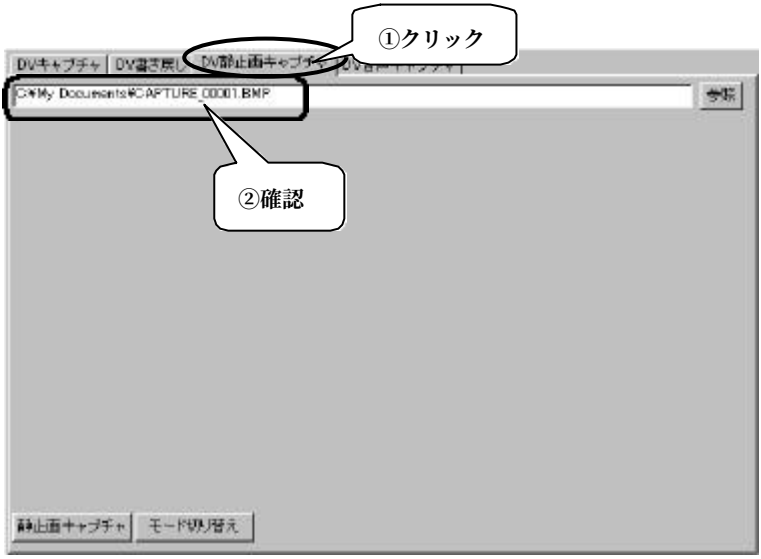
本製品添付の「DigiOnSound Light」を使用すれば、キャプチャした音声を編集することができます。「DigiOnSound Light」の使い方については、オンラインヘルプを参照してください。
なお、このソフトウェアはサービス添付品のため、弊社ではサポートいたしておりません。問い合わせ先については、【サービス添付品のお問い合わせ先】11ページか、裏表紙を参照してください。

静止画をキャプチャする

ビデオ映像から静止画ををキャプチャすることもできます。キャプチャした静止画はBMPファイルに保存されるので、壁紙に使ったり、ペイントなどのソフトウェアで加工することもできます。

1　[コントロールウィンドウ] の（巻き戻し）などで、キャプチャしたい位置より前にDVメディアを戻します。

2　[ファンクションパネル] の[DV静止画キャプチャ] タブをクリックし、表示されているファイル名を確認します。

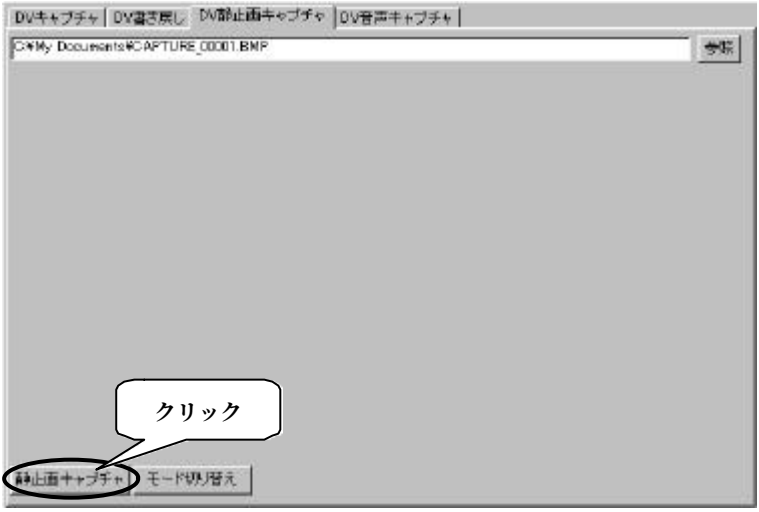


表示されているファイル名がキャプチャ後のBMPファイル名になります。ファイルの格納フォルダを変更したいときは[参照]ボタンをクリックして選択してください。ファイル名を変更したいときは任意のファイル名を入力してください（拡張子は.BMP固定）。

3　[コントロールウィンドウ] の（再生）ボタンをクリックし、映像を再生します。

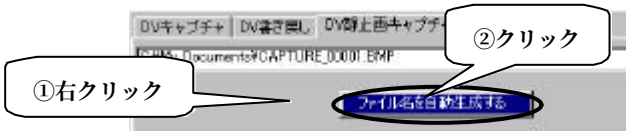
4　キャプチャしたい映像が表示されたら、[静止画キャプチャ] ボタンをクリックします。

BMPファイルが保存されます。作成される静止画は、大きさが720×480ピクセルで、24ビットカラー固定です（ファイルサイズは約１Mバイト）。



参考：連続してキャプチャするには

ファンクションパネル上で右クリックして、[ファイル名を自動生成する]ボタンをクリックしておくと、静止画をキャプチャするたびに、ファイル名が自動的に作成されるようになります。



例）

最初にキャプチャしたとき：CAPTURE_00001.BMP

次にキャプチャしたとき　：CAPTURE_00002.BMP

（後半の数値５桁が自動的に加算されていく）

ステップ3

―『MediaStudio Pro』を使って―

ビデオ作品を作ろう

1 『MediaStudio Pro』を起動しよう

『MediaStudio Pro』を使えば、本格的な映像編集を行うことができます。インストール方法は【『MediaStudio Pro』をインストールする】38ページを参照してください。
なお、本書では『MediaStudio Pro』の基本的な操作のみを説明します。詳しくは『MediaStudio Pro』の取扱説明書またはオンラインヘルプを参照してください。

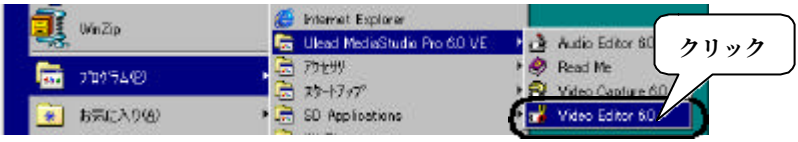
参考

DV機器からのキャプチャ/書き戻しに関しては、「MediaStudio Pro」の「Video Capture6.0」の機能もご使用頂けますが、より高機能で使いやすい「DVworks」のご使用を推奨いたします。

注意

ここで説明する『MediaStudio Pro 6.0 VE SP』は、弊社ではサポートしておりません。サポート先に関しては【サービス添付品のお問い合わせ先】11 ページか、裏表紙を参照してください。

1 [スタート]→[Ulead MediaStudio Pro 6.0 VE]→[Video Editor 6.0]の順にクリックします。



2 [DV(NTSC,48KHz)]または[DV(NTSC,32KHZ)]のいずれかを選択し、[OK]ボタンをクリックします。

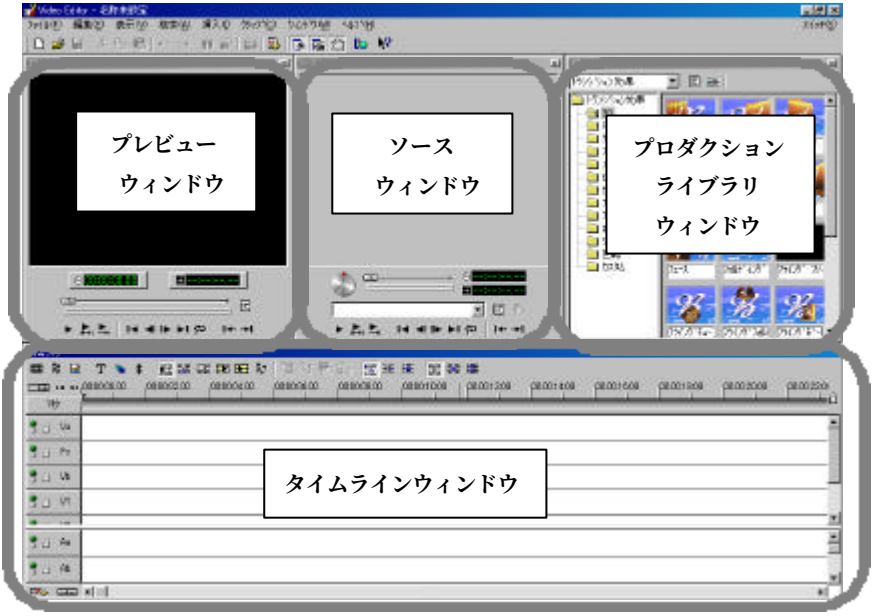
編集したいAVIファイルをキャプチャしたときに確認した、KHz（70、76ページ参照）に合わせたものを選択してください。

今後は[前の設定を使用]を選択すればOKです。



3 初期画面が表示されます。

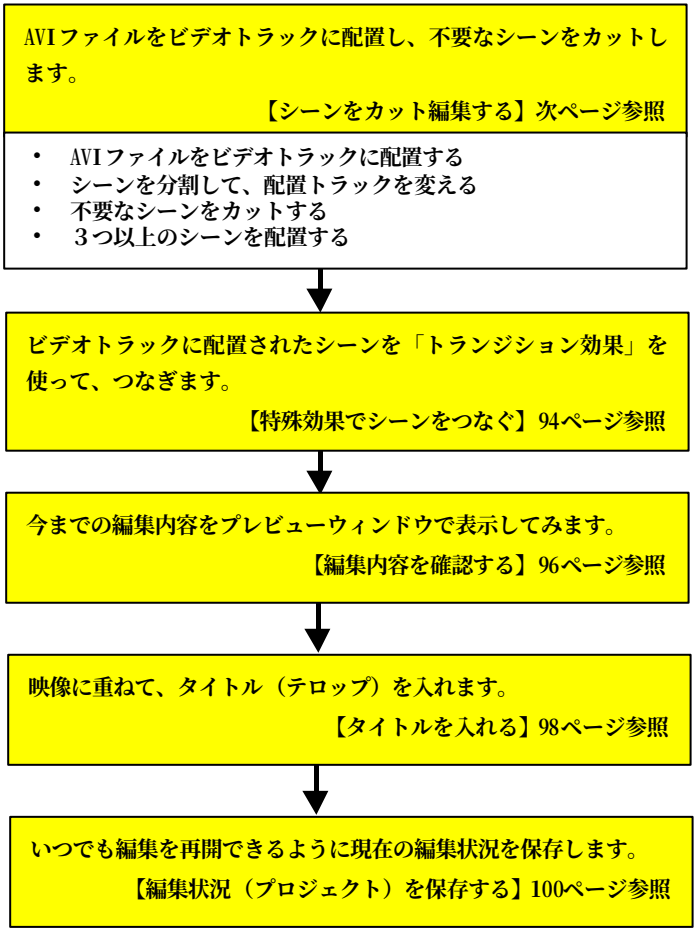
お使いの環境によって表示されるレイアウトは異なります。下記は1024×768の場合です。



ウィンドウ名	主な用途
プレビュー	編集した結果を表示します。
ソース	使用するAVIファイルの映像を表示します。
プロダクション ライブラリ	特殊な映像効果を集めた作品集です。このライブラリを使えば特殊効果を簡単に実現できます。
タイムライン	実際に編集を行う作業領域です。 • Va、Vb：編集したいAVIファイルを配置 • Fx：シーン切替の特殊効果を配置 • V1～Vn：タイトルなどを配置 • Aa、Ab:Va、Vbに配置したAVIファイルの音声が配置 • A1～An：その他のオーディオを配置

2 映像を編集しよう

ここでは、【ステップ２】でキャプチャしたAVIファイルを使って次のような編集を行う過程を例に、基本的な映像編集の方法を説明します。



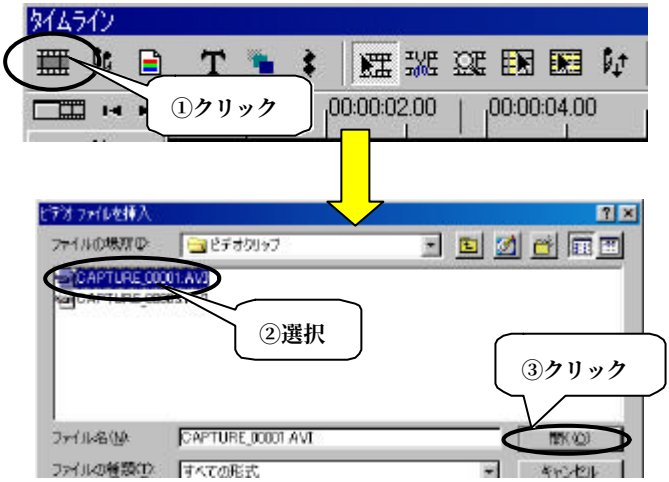
シーンをカット編集する

キャプチャしたAVIファイルをビデオトラックに配置し、シーンを分割したり、不要なシーンをカットしてみましょう。

AVIファイルを配置する

まずは編集したいAVIファイルをビデオトラック（VaまたはVb）に配置します。

1　タイムラインの をクリックして、編集したいAVIファイル（ビデオファイル）を選択します。



2　VaまたはVbトラックの任意の位置に、カーソル（手のマークになっている）を合わせてクリックします。

この場合はVaトラックの先頭をクリックします。



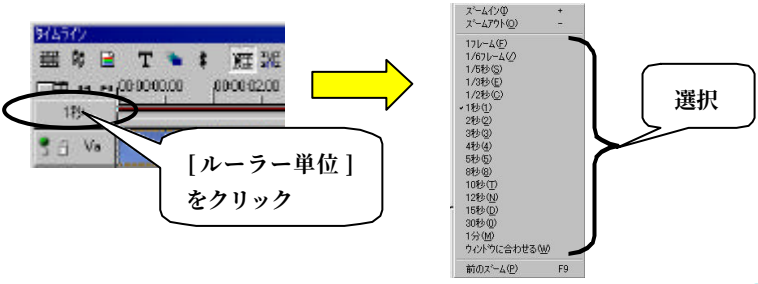
3　指定したトラックに映像が配置されます。

同時にビデオファイルの音声もオーディオトラックに配置されます。



参考

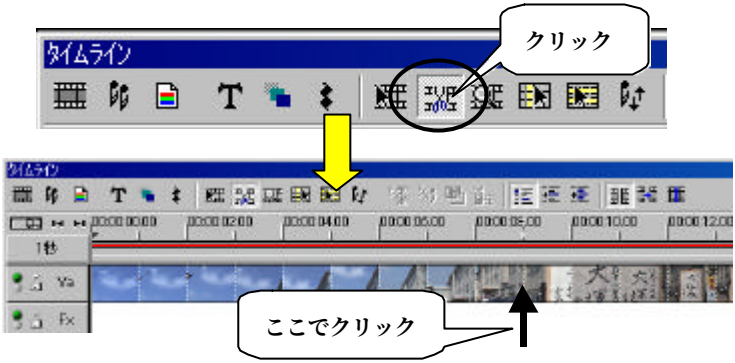
映像が長かったり短かった場合は[ルーラー単位]を変更すると映像が確認しやすくなります（標準は１秒単位）。



シーンを分割して、配置トラックを変える

ここでは、Vaトラックの映像を２つに分割し、後半をVbトラックへ移動します。

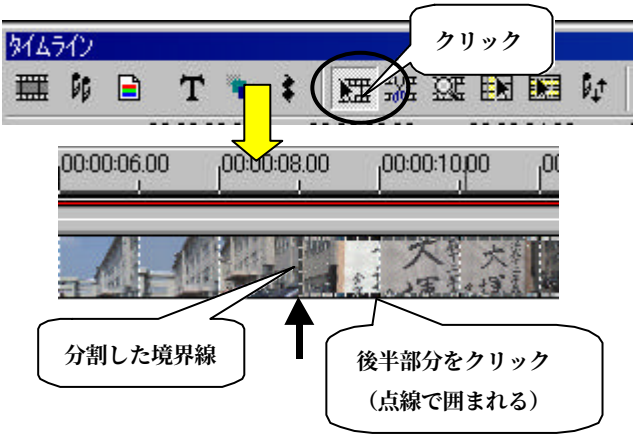
1　タイムラインの をクリックし、カーソル（はさみマーク）を分割したいところに合わせて、クリックします。



クリックすると、グレーの境界線が引かれます。また、その映像に対応したオーディオトラックにも同様に境界線が引かれます。

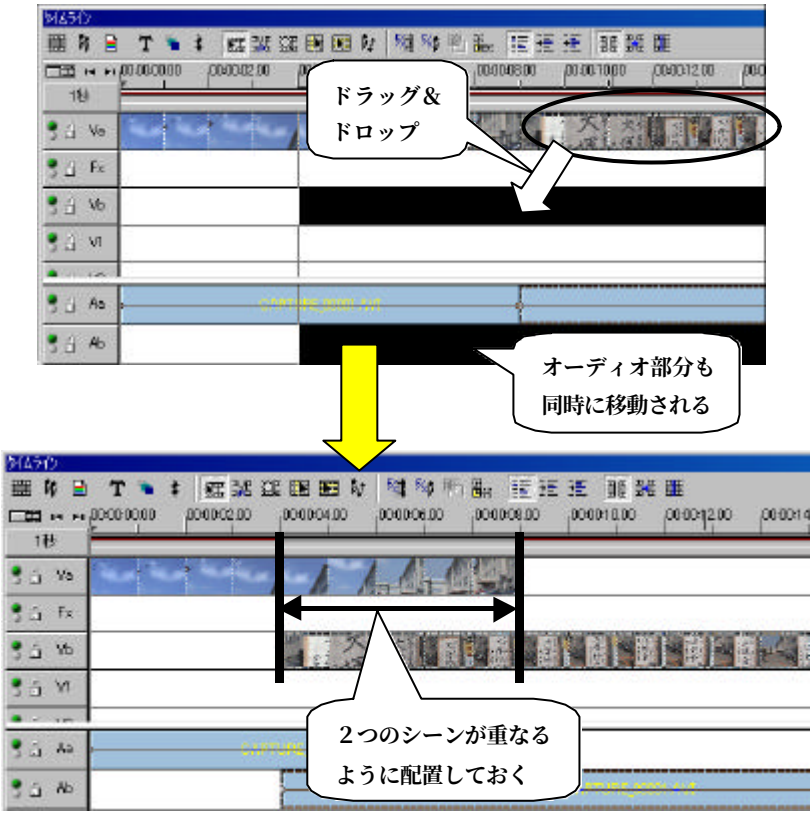
2　タイムラインの をクリックし、分割した映像の後半部分をクリックします。

先ほど分割したので、分割した境界線から後の部分だけが点線で囲まれます（クリップ選択状態）。対応する音声も点線で囲まれます。



3　後半部分をVbトラックへドラッグ＆ドロップします。

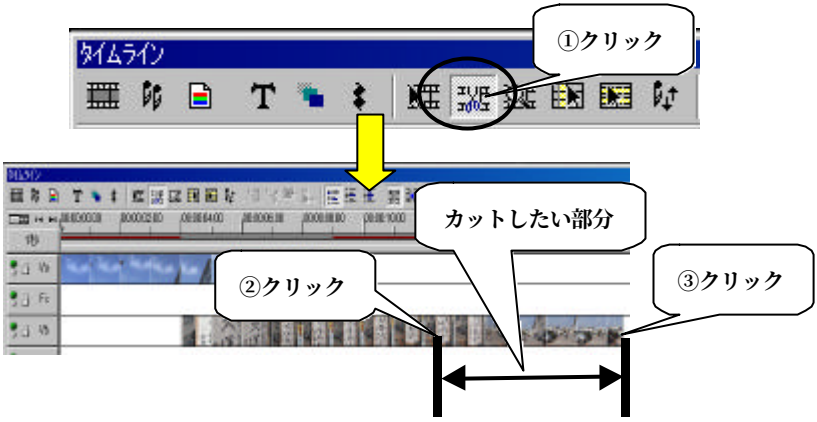
VaトラックとVbトラックのシーンは後で特殊効果を使ってつなぐので、Vbトラックは２つの映像が重なる位置にドラッグしておきます。



不要なシーンをカットする

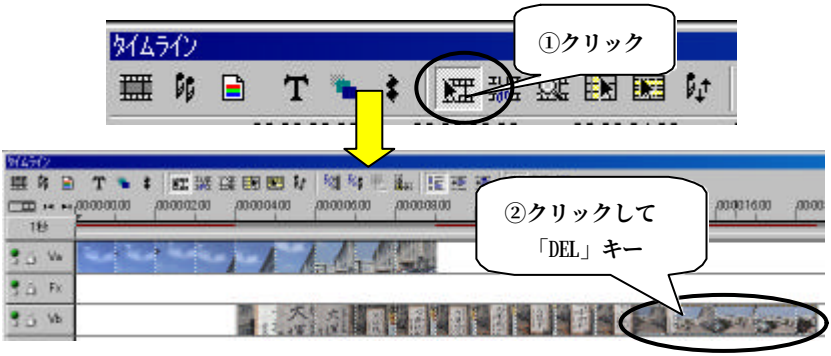
ここでは、Vaトラックの最後の映像をカットします。

1　タイムラインのをクリックし、カーソル（はさみマーク）を不要な部分の先頭と最後をクリックします。



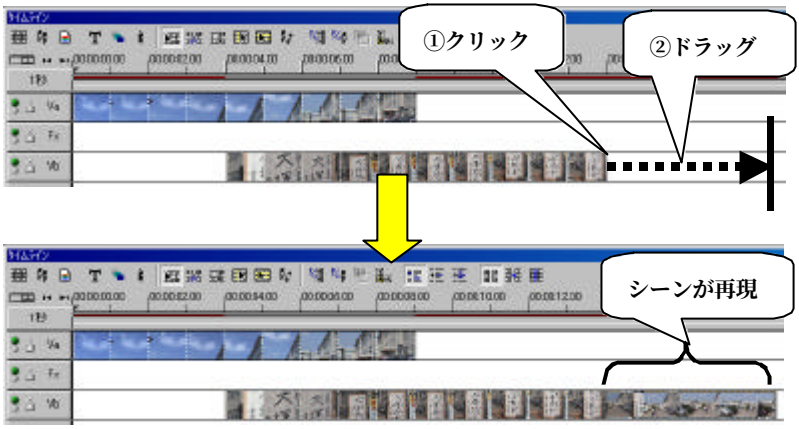
2　タイムラインのをクリックし、不要な部分をクリックして、「DEL」キーを押します。

シーンが削除されます。カットシーンの後に映像がある場合は、後の映像をドラッグして、カットシーンの前の映像とつなげておいたり、カット部分に別の映像を挿入することもできます。



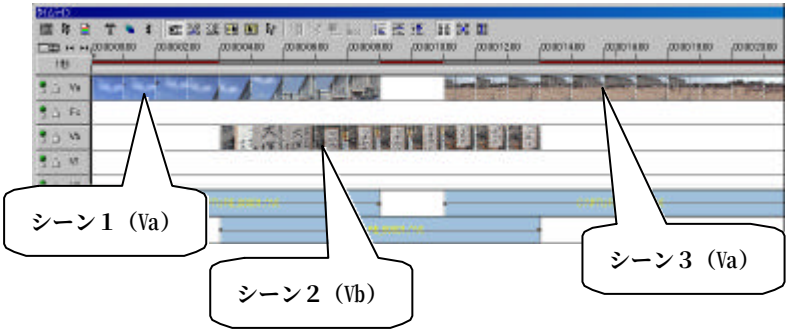
参考

シーンをカットしたからといって、元のAVIファイルからそのシーンが削除されるわけではありません。あくまでもタイムライン上のシーンがカットされるだけです。シーンの右端をマウスでつまんで、右方向にドラッグすればカットしたシーンを再現することができます。



3つ以上のシーンを配置する

ビデオトラックはVaとVbの２つですから、３つ以上のシーンを配置するには、Va→Vb→Va→Vbのように交互に２つのトラックを使っていきます。



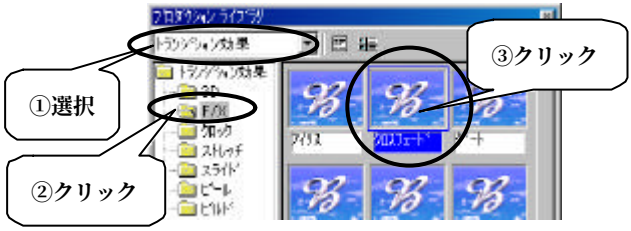
３つのシーンを配置した例

特殊効果でシーンをつなぐ

プロダクションライブラリに登録されている特殊効果を使って、シーンをつないでみましょう。シーンをつなぐには「トランジション効果」を使います。数あるトランジション効果のうち、ここでは「クロスフェード効果」と「ターンページ効果」を使ってみます。

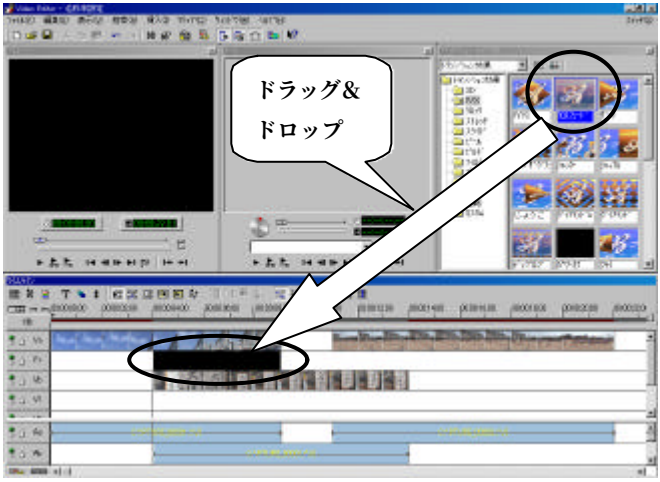
1　プロダクションライブラリの[トランジション効果] を選び、使いたい特殊効果をクリックします。

ここでは[F/X]フォルダに入っている[クロスフェード効果]をクリックします。



2　選択した特殊効果を、タイムラインのFxトラックへドラッグ&ドロップします。

ドロップ位置はシーンのつなぎ目になります。



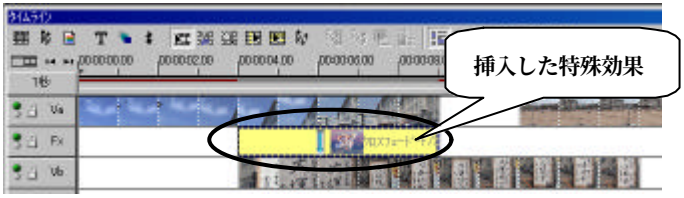
3　位置を決めてクリックすると、詳細設定画面が表示されるので、[OK]ボタンをクリックします。

設定内容については[ヘルプ]ボタンをクリックしてください。



4　特殊効果が挿入されました。

矢印はシーンの切替順（VaからVbへの切替）を示します。



同様に、VbとVaを[ピール]フォルダにある[ターンページ]を使ってつないでみましょう。矢印が上向きになっていることを確認してください。



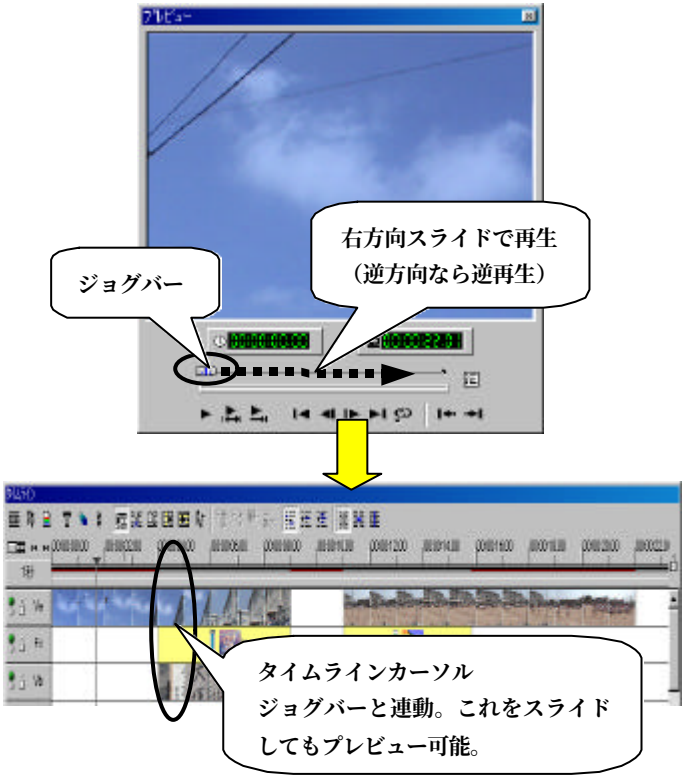
もう１度、別の特殊効果をプロジェクトライブラリから選んでドラッグ＆ドロップすると、選択した特殊効果を変更することができます。また、効果の設定を変えたいときは、Fxトラック上の特殊効果をダブルクリックしてください。

編集内容を確認する

今までの編集で映像がどのようになっているか、プレビューウィンドウを使って確認してみましょう。

1　プレビューウィンドウの[ジョグバー] をマウスでつまみ、右方向にゆっくりスライドします。

マウスをスライドする速度に合わせて、プレビューウィンドウに編集結果の映像が再生されます。
タイムライン上でも同時にカーソルが移動し、どの辺の映像が再生されているか、確認することができます。



確認後の修正例として、ターンページ効果をもう少し長くする方法を見てみましょう。
こういった修正は、シーンをドラッグ＆ドロップすることで簡単にできます。

修正前　　修正後



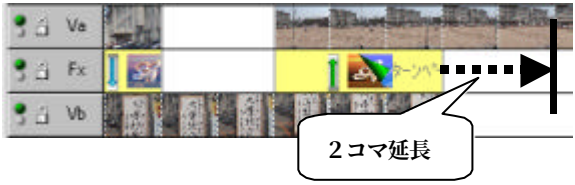
＜修正例＞

1　タイムラインの が選択されていることを確認します。

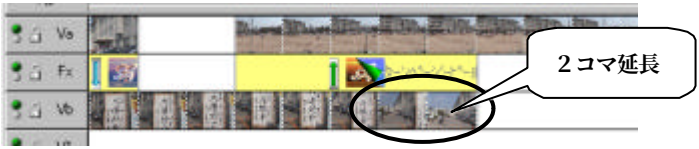
2　ターンページ効果をクリックし、点線部分の右端にカーソルを合わせます。

カーソルが ⇨⇦ になることを確認します。

3　広げたい位置までドラック＆ドロップします。



4　同様に、Vbトラックの映像もドラック＆ドロップで広げます。



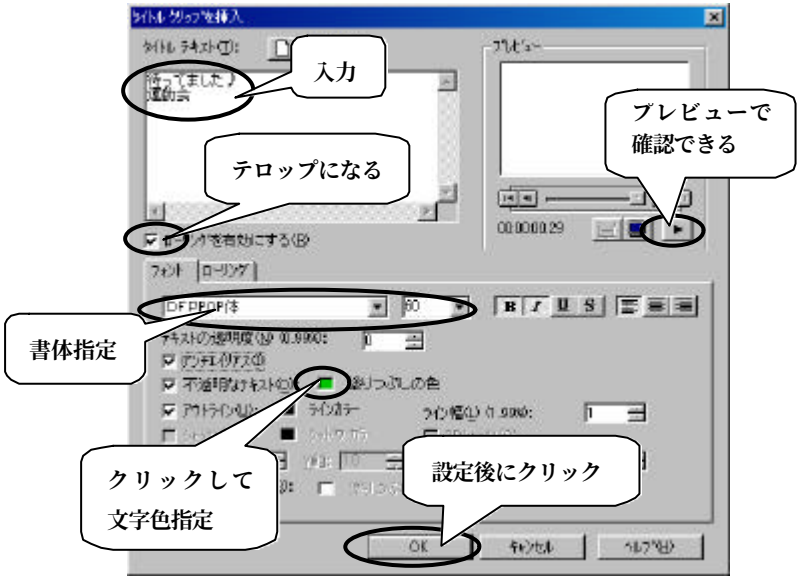
タイトルを入れる

作品の先頭にタイトルを入れてみましょう。映像に重ねて文字が流れる「テロップ式」のタイトルも簡単に入れることができます。

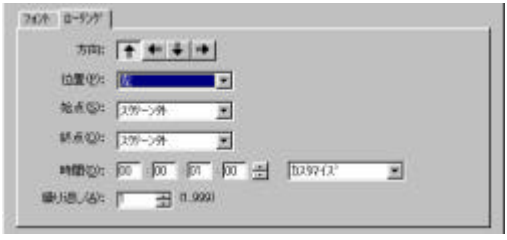
1　タイムラインのTをクリックします。

2　タイトルや書体などを指定し、[OK] ボタンをクリックします。

[ローリングを有効にする]をチェックするとテロップになります。[ローリング]タブをクリックして詳細設定を行うこともできます。
詳しい設定内容については[ヘルプ]をクリックしてください。

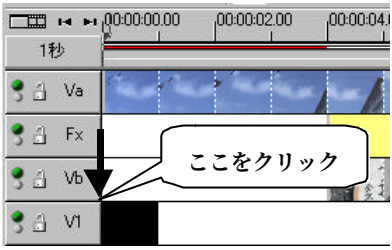


[ローリング]タブを
クリックすると…



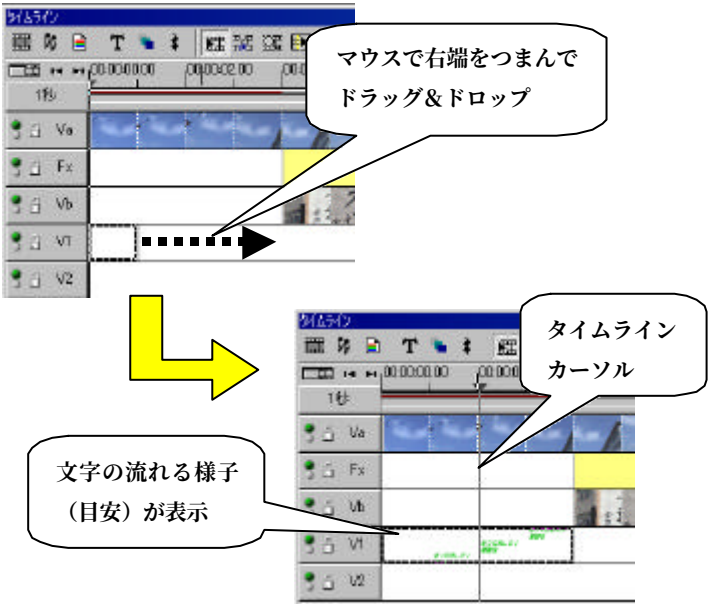
3　V1トラック上の挿入したい位置にカーソル（手のマーク）合わせ、クリックします。

タイトルクリップはV1～V3トラックへ挿入します。ここでは先頭をクリックします。



4　テロップの長さをドラッグ＆ドロップで調節します。

ジョグバーまたはタイムラインカーソルを動かしてプレビューウィンドウで確認しながら調節してください（96ページ【編集内容を確認する】参照）。



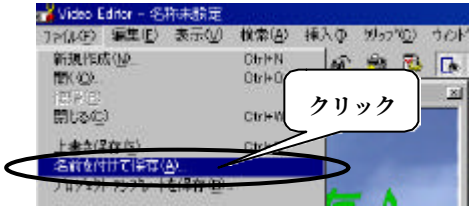
編集状況（プロジェクト）を保存する

これまでの編集状況をプロジェクトファイルとして保存しておくことができます。プロジェクトファイルを保存しておけば、編集の途中で中止した場合も、すぐに再開することができます。

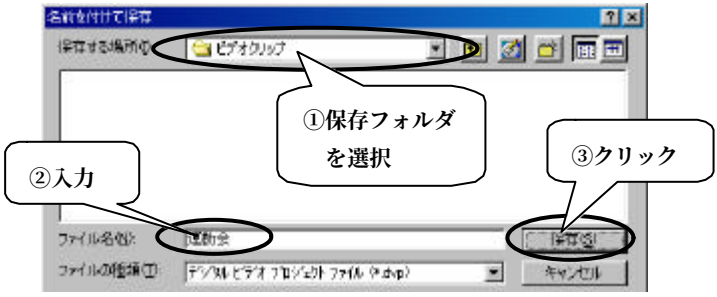
注意

ここで保存するのは編集状況であって、編集した結果の映像ではありません。したがって、編集状況を保存した後でも、編集に使っているAVI ファイルなどは必要ですので、削除したり、フォルダを移動したりしないでください。

1　**[ファイル] メニューの[名前を付けて保存] を選びます。**



2　**保存フォルダおよびファイル名を指定して、[保存] ボタンをクリックします。（拡張子は.dvp）**



保存したファイルを開く

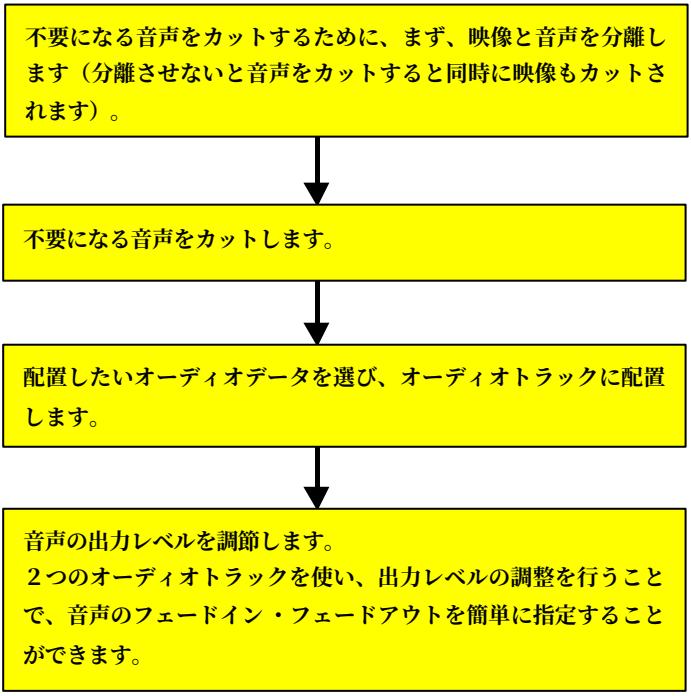
[ファイル]メニューの[開く]を選び、開きたいファイルを指定します。

3 BGMやナレーションを入れよう

『MediaStudio Pro』のオーディオトラックには、AVIファイルの音声のほか、WAVファイルやMPEGファイルのオーディオデータを配置することもできます。

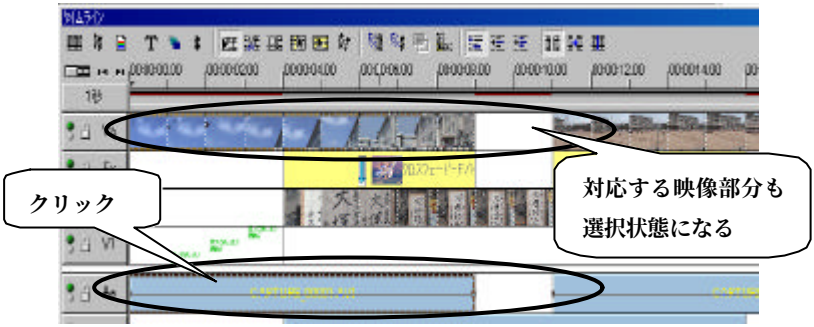
ここでは、【ステップ２】でキャプチャした音声をナレーションとして配置してみましょう。ナレーションでもBGMでも用意するオーディオデータの内容が異なるだけで、手順はまったく同じです。

主な手順は次のようになります。



1　不要になる音声をクリックします。

ここではAaトラックの音声をカットします。



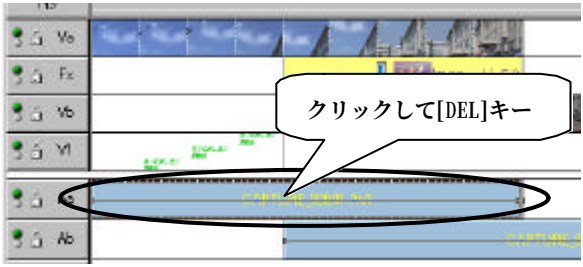
2　選択した音声トラック上で右クリックし、[分離] を選びます。

ビデオトラックとオーディオトラックが分離するので、どちらか一方だけのカットや移動ができるようになります。



3　不要な部分をクリックし、「DEL」キーを押します。

音声部分だけが消えます。

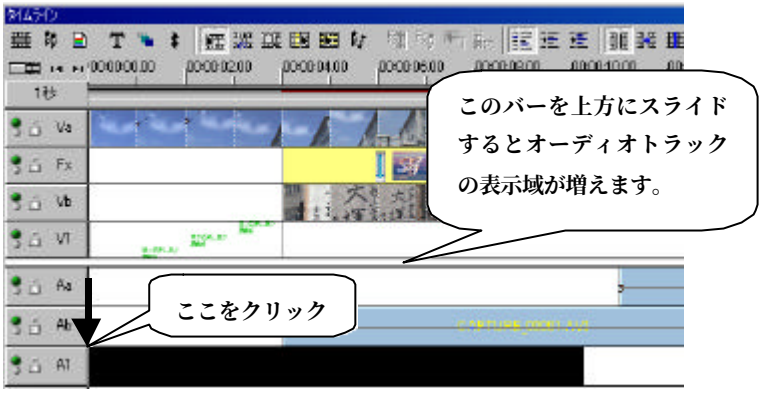


4　タイムラインの をクリックし、配置したいオーディオデータを選択し、[開く] ボタンをクリックします。

をクリックするとオーディオデータを再生します。



5　A1トラック上の挿入したい位置にカーソル（手のマーク）を合わせ、クリックします。

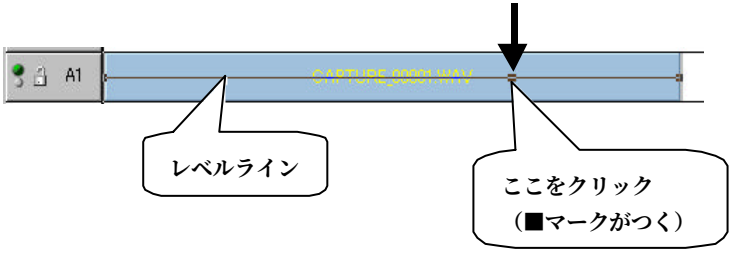


音声の出力レベルを調節する

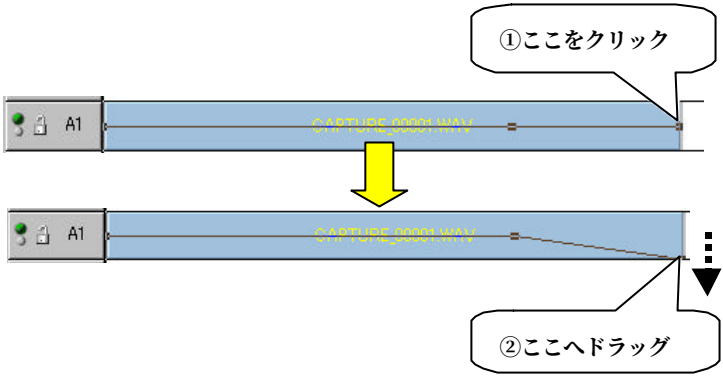
音声の出力レベル（ボリューム増減）とそのポイントを指定してみましょう。ここでは、A1トラックの後半をだんだん下げ（フェードアウト）、Aaトラックの開始をだんだん上げていく（フェードイン）例を説明します。

1　オーディオトラックのレベルラインのうち、出力レベルを変更したいポイントをクリックします。

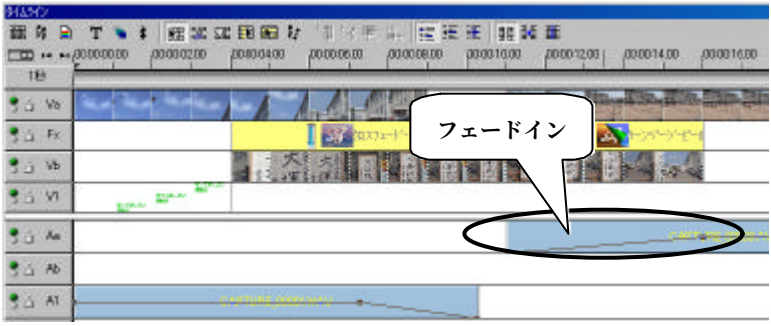
クリックした時点に■マークがつきます。



2　トラックの終わりにある■マークをマウスでつまみ、トラック下方へドラッグ＆ドロップします。



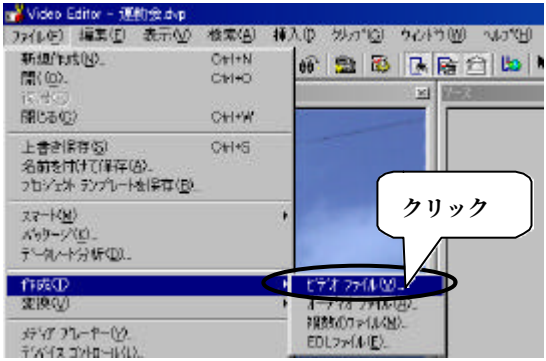
3　同様に、Abトラックの音声をフェードインします。



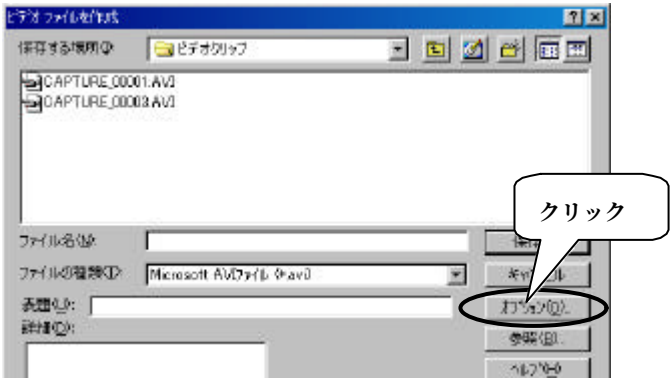
4 編集した作品を保存しよう(レンダリング)

編集が思い通りに出来たら、その結果をAVIファイルとしてハードディスクに保存します。今までプレビューウィンドウで確認してきた内容は一時的な領域に記憶されているもので、AVIファイルとしてハードディスクに保存されているわけではありません。AVIファイルとして保存することを「レンダリング」といいます。

1 **[ファイル]メニューの［作成］から、［ビデオファイル］をクリックします。**



2 **[オプション]ボタンをクリックします。**



3　[全般] タブをクリックし、以下の設定を行います。

- データトラック：オーディオとビデオ
- フレームレート：29.97
- フレームサイズ：720x480

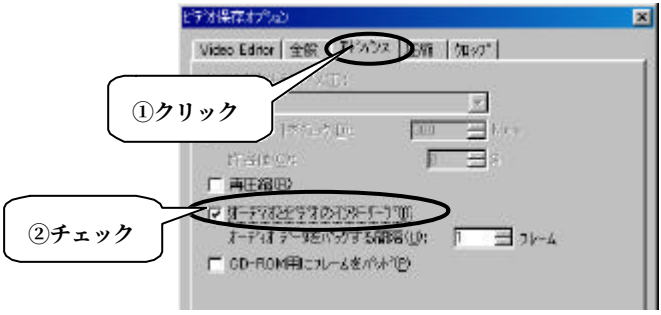


注意

[全般] ～[クロップ] までのタブが表示されない場合は、『MediaStudio Pro』CD-ROM 内の「ドライバをインストールする」→「NetShow ツール」をインストールしてください。

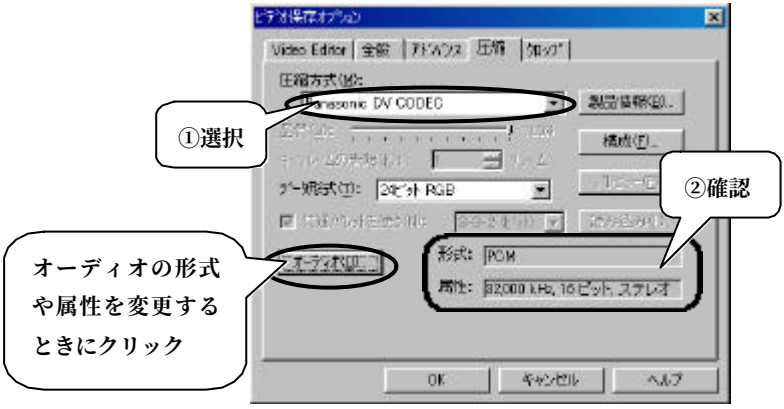
4　[アドバンス] タブをクリックし、[オーディオとビデオのインターリーブ] をチェックします。

[オーディオデータをパックする間隔] は変更不要です。



5　[圧縮] タブをクリックし、以下の設定を行います。

圧縮方式：「Panasonic DV CODEC」または
「Panasonic and I-O DATA DV GigaAVI CODEC」
オーディオの形式：PCM
オーディオの属性：「32.000kHz,16ビット,ステレオ」または
「44.100kHz,16ビット,ステレオ」または
「48.000kHz,16ビット,ステレオ」



注意

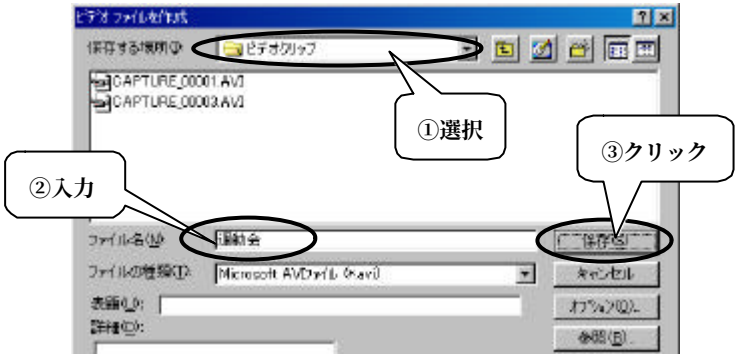
- **[Panasonic DV CODEC] は2Gバイトまでの AVI ファイル（約9分30秒以内）を作成します。それ以上の AVI ファイルを作成するときは [Panasonic and I-O DATA DV GigaAVI CODEC] を選択してください（GigaAVI ファイルについては GV-DVC2/CB 取扱説明書（別冊）58ページ【2G以上の AVI ファイルを扱うには】参照）。**
- **オーディオトラックを使っていないときは［オーディオ］ボタンは選択できません。**
- **[オーディオ] ボタンをクリックしても画面が表示されないときは『MediaStudio Pro』CD-ROM 内の「ドライバをインストールする」→「NetShow ツール」をインストールしてください。**

6　[OK] ボタンをクリックします。

手順 *2* の画面に戻ります。

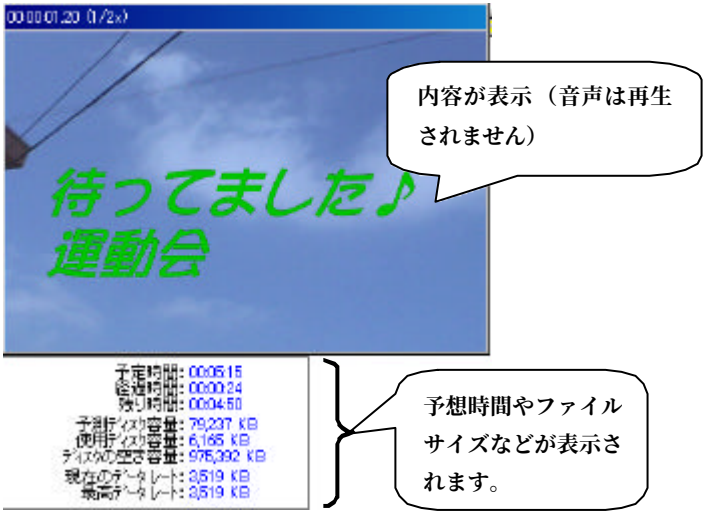
7　保存したいフォルダを選択し、AVI ファイルの名前を入力して、[保存] ボタンをクリックします。

表題や詳細欄に編集内容メモを入力しておくこともできます。



8　保存（レンダリング作業）を開始します。

お使いの環境や編集内容によって時間がかかる場合があります。



9　保存が終わったら、作成したAVIファイルが自動的に表示されます。内容を確認してください。

以上で、AVIファイル（またはGigaAVIファイル）の作成は終了です。
作成したAVIファイルをDV機器で録画したい場合は、DVworksで録画できます。
【ステップ４】次ページへ進んでください。

注意

保存したAVIおよびGigaAVIファイルを、DV機器へ書き戻す作業は『DVworks』を使って行います（【編集した作品をDV機器で録画しよう】 112ページ参照）。
『MediaStudio Pro』の[ファイル]メニューにある[テープへの録画]は、アナログ機器用のため、DV機器への録画はできません。

ステップ4

ビデオ作品を楽しもう

1 編集した作品を DV機器で録画しよう

編集したビデオ作品（AVIファイル）をDV機器で録画してみましょう。
録画するときには『DVworks』を使います。

注意

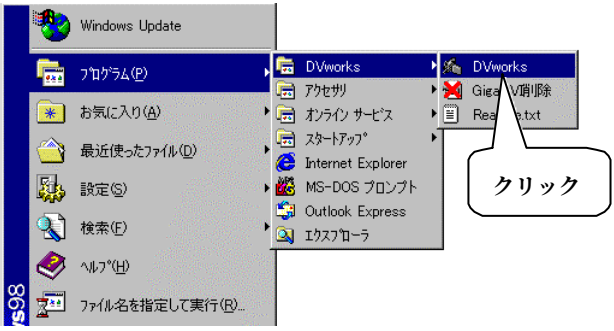
・DV機器は「ビデオ（再生）モード」に設定してください。「ビデオ（再生）モード」のまま録画できます。
・使用しているDVメディアは記録（書き込み）可能にしておいてください。
・録画は、テープの停止位置から行われます。

1 DV機器を本製品に接続し、電源を入れて「ビデオ（再生）モード」にします。

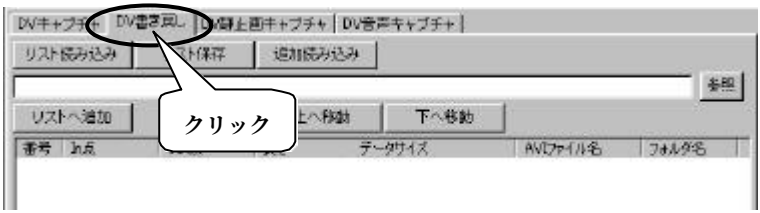
接続方法は【DV機器を接続しよう】44ページ参照

2 DVメディアを入れ、録画を開始したい位置で停止します。

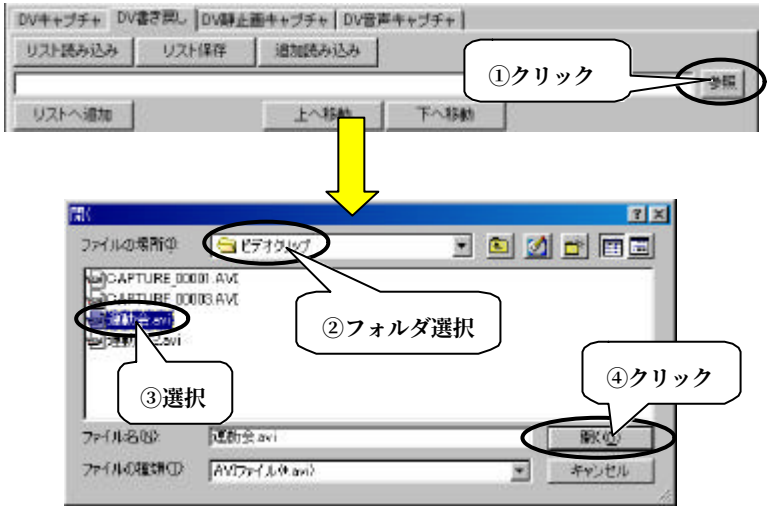
3 [DVworks]を起動します。



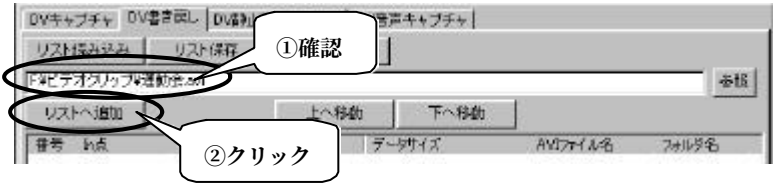
4　**[ファンクションパネル] の[DV書き戻し] タブをクリックします。**



5　**[参照] ボタンをクリックします。**
録画したいAVIファイルを選択して、[開く] ボタンをクリックします。



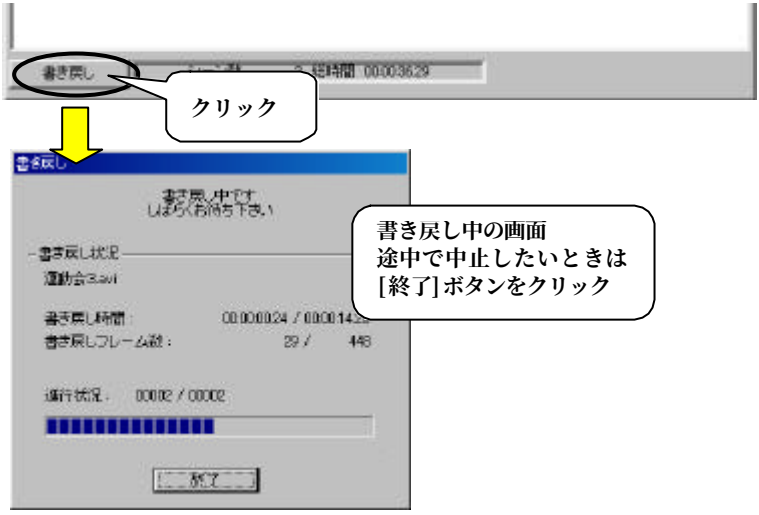
6　**表示されたファイル名を確認後、[リストへ追加] ボタンをクリックします。**



7　つなげて録画したいAVIファイルがあれば、手順5、6を繰り返して、すべて指定します。

録画する順番を変えたいときは、順番を変えたいAVIファイルをクリック後、[上へ移動]ボタンや[下へ移動]ボタンをクリックしてください。

8　[書き戻し]ボタンをクリックすると、DVメディアに書き戻し（録画）を開始します。



9　正常に録画（書き戻し）が終了すると、DV機器は自動的に停止します。

正常に録画（書き戻し）できない場合は…

【正常に動作しない場合】
GV-DVC2/CB取扱説明書（別冊）4ページを参照してください。それでも改善されない場合は、次ページからの手順でサポートソフトのドライバをインストールしなおしてください。

以上で、DV機器への録画（書き戻し）は終了です。

ドライバのインストール

ここでは、書き戻しがうまくいかない場合に、ドライバを更新する方法を説明します。作業内容は、OSごとに異なります。
ご使用のOSにあわせて必要なページを参照してください。

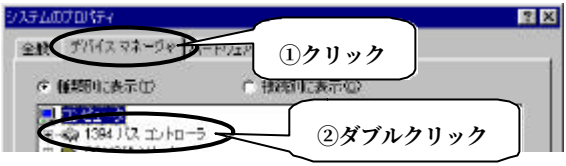
- Windows Meの場合：【Windows Meの場合】次ページ
- Windows 98の場合：【Windows 98の場合】121ページ
- Windows 2000の場合：【Windows 2000の場合】127ページ

注意

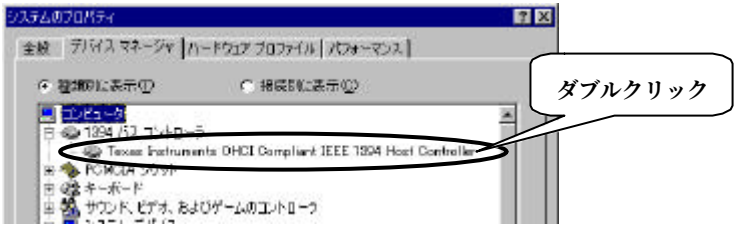
・パソコンの機種によっては、ドライバの更新を行っても正常に書き戻しができない場合があります。
・書き戻しが正しく行えている場合は、ドライバの更新はしないでください。正常動作しなくなる場合があります。
誤ってインストールしてしまった場合は、再度21ページ【ドライバをインストールする】の作業を行い、[Texas Instruments OHCI Compliant・・・] ドライバをインストールしてください。

＜Windows Meの場合＞

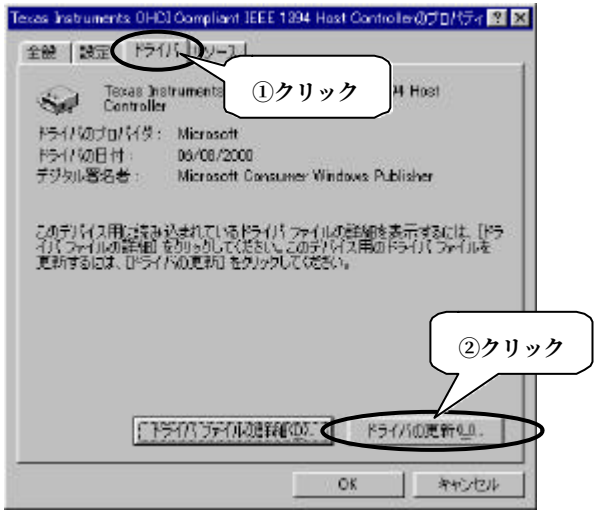
1　**[デバイスマネージャ] タブをクリックし、[1394 バス コントローラ] をダブルクリックします。**



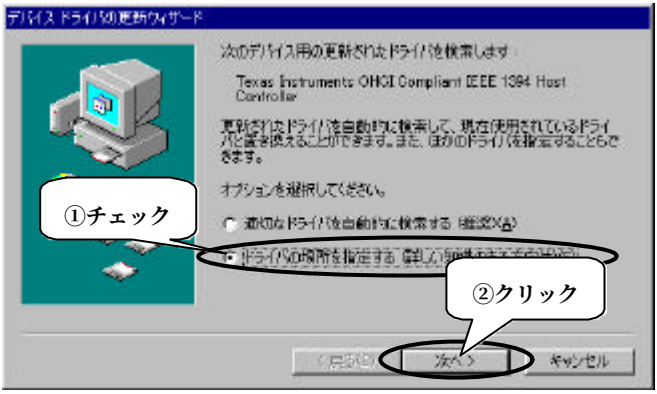
2　**[Texas Instruments OHCI Compliant IEEE 1394 Host Controller] をダブルクリックします。**



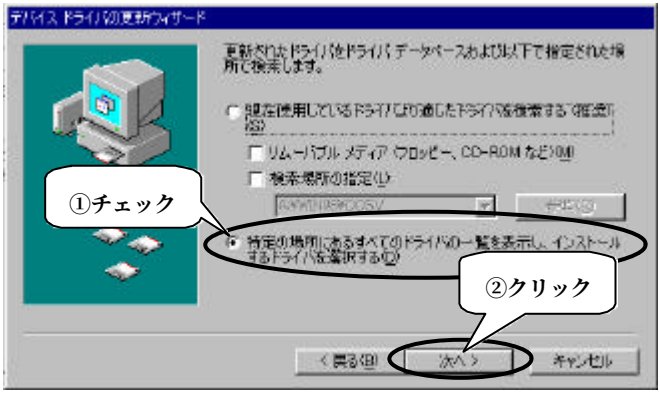
3　**[ドライバ] タブをクリックし、[ドライバの更新] ボタンをクリックします。**



4　**[ドライバの場所を指定する（詳しい知識のある方向け）] をチェックし、[次へ] ボタンをクリックします。**



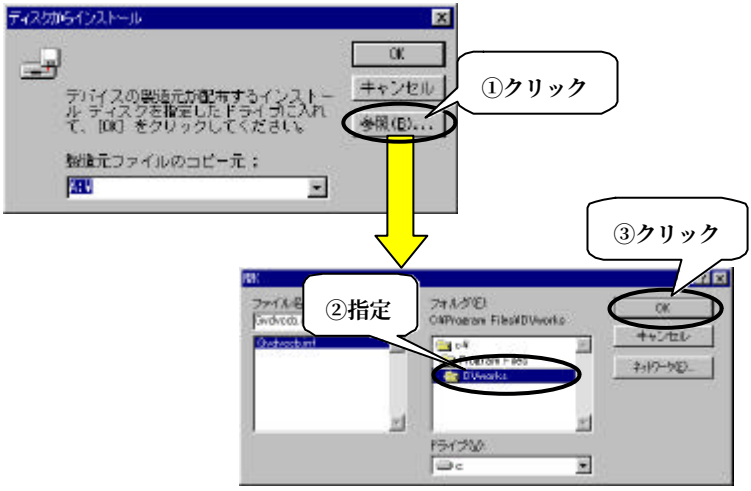
5　**[特定の場所にある全てのドライバの一覧を作成し・・・] をチェックし、[次へ] ボタンをクリックします。**



6　[ディスク使用] ボタンをクリックします。



7　[参照] ボタンをクリックし、DVworksをインストールしたフォルダを指定後、[OK] ボタンをクリックします。



8　[次へ] ボタンをクリックします。



9　[次へ] ボタンをクリックします。



10　[完了] ボタンをクリックします。



11　再起動します。

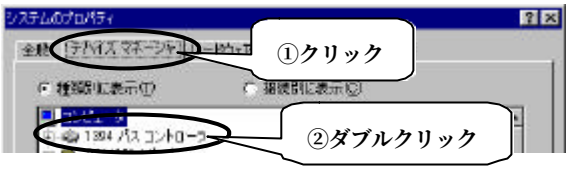
● 更新後のドライバ表示について

更新後は、デバイスマネージャ内、および本製品取り出し時のドライバ表示は、以下のようになります。

[I-O DATA GV-DVC/CB Digital Video Editing Card]

<Windows 98の場合>

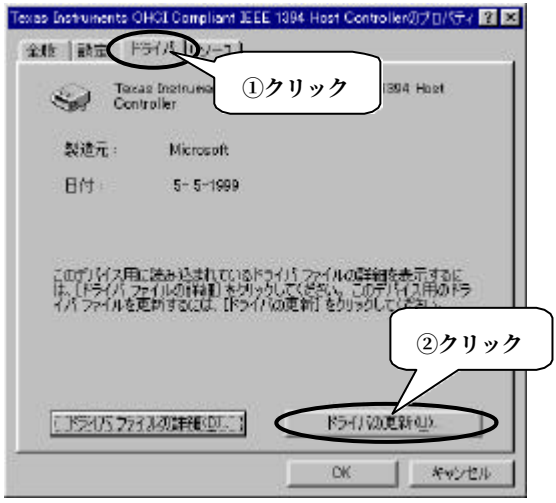
1　**[デバイスマネージャ] タブをクリックし、[1394 バス コントローラ] をダブルクリックします。**



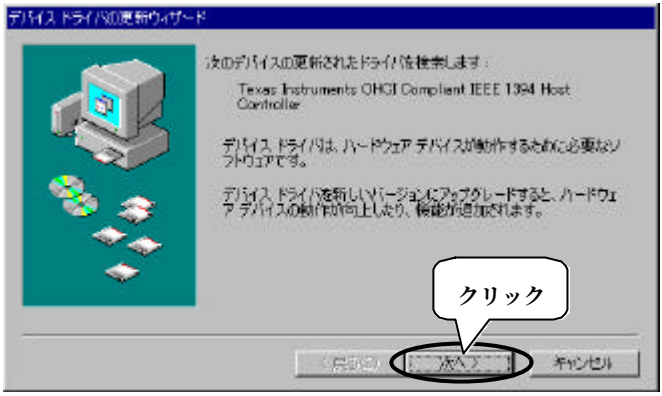
2　**[Texas Instruments OHCI Compliant IEEE 1394 Host Controller] をダブルクリックします。**



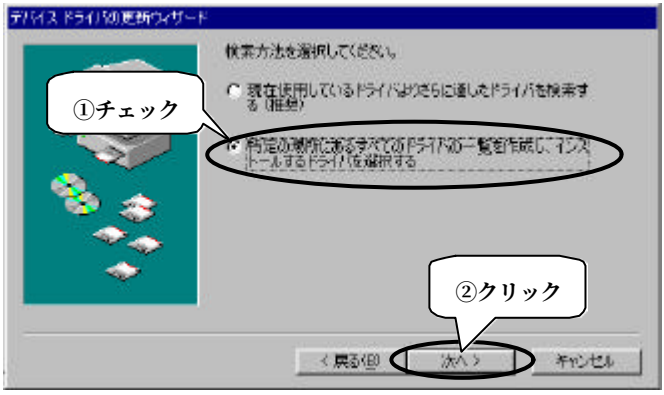
3　**[ドライバ] タブをクリックし、[ドライバの更新] ボタンをクリックします。**



4　[次へ] ボタンをクリックします。



5　[特定の場所にある全てのドライバの一覧を作成し・・・] をチェックし、[次へ] ボタンをクリックします。



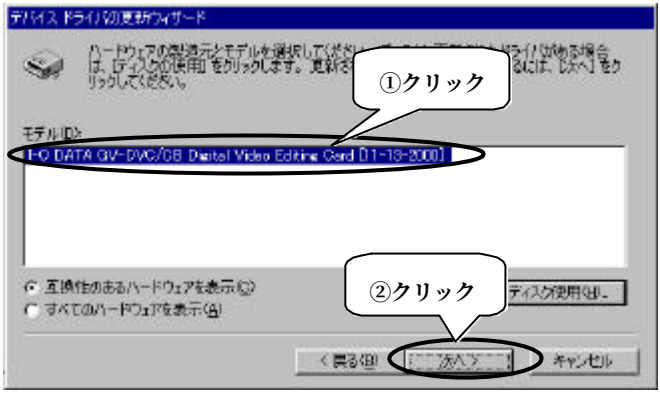
6　[ディスク使用] ボタンをクリックします。



7　[参照] ボタンをクリックし、DVworksをインストールしたフォルダを指定後、[OK] ボタンをクリックします。



8　[モデル]の[I-O DATA GV-DVC/CB Digital Video Editing Card [11-13-2000]]をクリックし、[次へ]ボタンをクリックします。



9　[次へ]ボタンをクリックします。



10 「Windows 98 SecondEdition CD-ROM」ディスクの挿入を求められたら、[OK] ボタンをクリックします。



11 [参照] ボタンをクリックし、[配布ファイルのコピー元] として、DVworks をインストールしたフォルダを指定し、[OK] ボタンをクリックします。



12 以降は[スキップ] ボタンをクリックして進めます。



13 [完了] ボタンをクリックします。



14 再起動します。

● 更新後のドライバ表示について

更新後は、デバイスマネージャ内、および本製品取り出し時のドライバ表示は、以下のようになります。

[I-O DATA GV-DVC/CB Digital Video Editing Card]

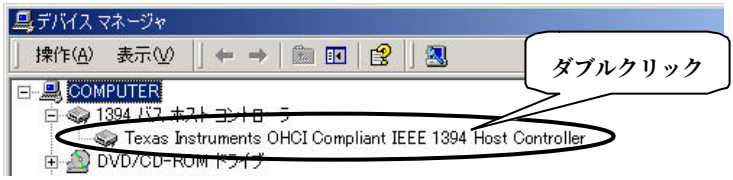
＜Windows 2000の場合＞

1　50ページの手順1～2を参照し、[デバイスマネージャ]を開きます。

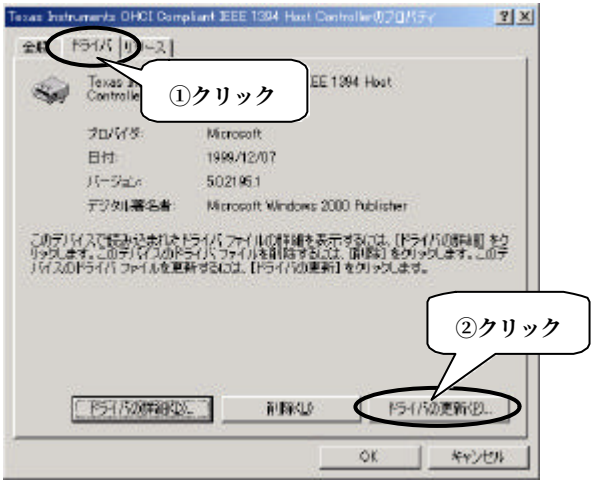
2　[1394 バス コントローラ]をダブルクリックします。



3　[Texas Instruments OHCI Compliant IEEE 1394 Host Controller] をダブルクリックします。



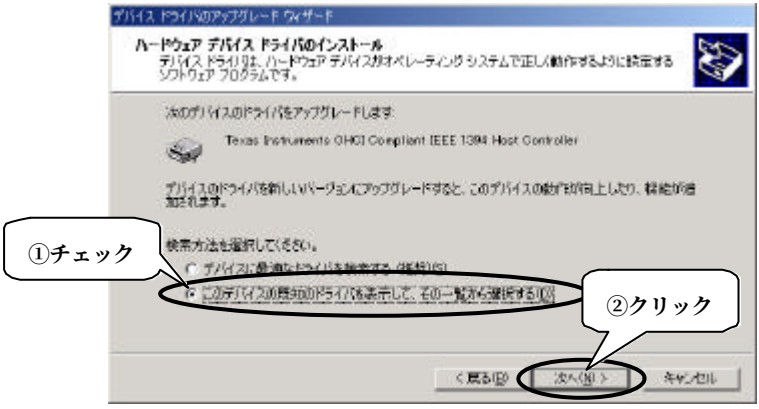
4　[ドライバ]タブをクリックし、[ドライバの更新]ボタンをクリックします。



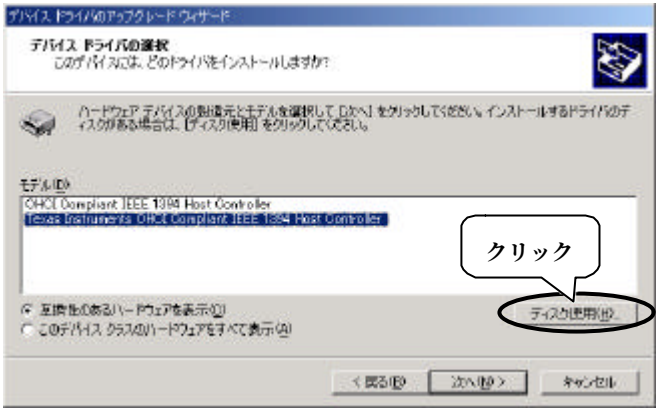
5　[次へ] ボタンをクリックします。



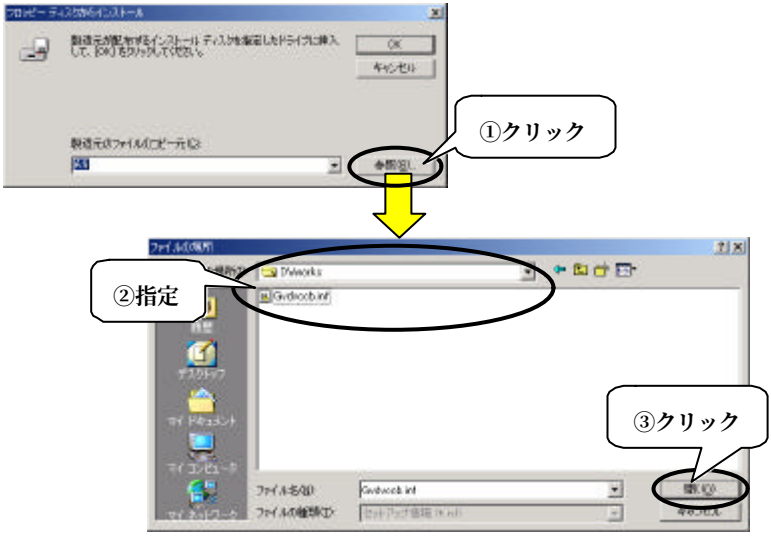
6　[このデバイスの既知のドライバを表示して、その一覧から選択する] をチェックし、[次へ] ボタンをクリックします。



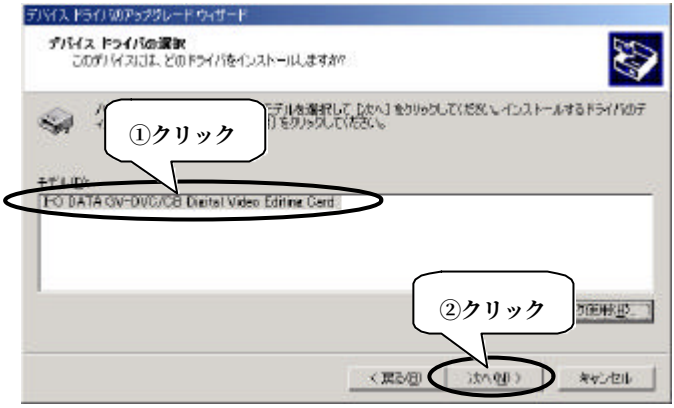
7　[ディスク使用] ボタンをクリックします。



8　[参照] ボタンをクリックし、DVworksをインストールしたフォルダを指定後、[開く] ボタンをクリックします。



9　[モデル]の[I-O DATA GV-DVC/CB Digital Video Editing Card]をクリックし、[次へ]ボタンをクリックします。



10　[次へ]ボタンをクリックします。



11 ［完了］ボタンをクリックします。



12 再起動します。

● 更新後のドライバ表示について

更新後は、デバイスマネージャ内、および本製品取り出し時のドライバ表示は、以下のようになります。

[I-O DATA GV-DVC/CB Digital Video Editing Card]

参考１：セーフティエリアについて

AVIファイルに、編集ソフトでタイトルやテロップを入れた場合は、「セーフティエリア」を表示して確認することをおすすめします。

■「セーフティエリア」とは？

MediaStudio Pro等のDV編集ソフトや一般的な編集ソフトのプレビュー画面では、撮影した映像は、100%のサイズで表示されます。しかしテレビでは、画面が欠けることを防ぐために一回り小さいサイズでしか表示されません。このため、テレビ上では、編集ソフトを使って入れたタイトルやテロップが消えたり、欠けたりしてしまう場合があります。

DVworksの「セーフティエリア」では、テレビに表示される目安として、「TVセーフティエリア（90%）」および「タイトルセーフティエリア（80%）」の白い枠線を表示させ、タイトルやテロップがエリア内に収まっているか確認することができます。

※ テレビの機種によって多少誤差がありますので、セーフティエリアはあくまで目安としてご利用ください。

■「セーフティエリア」の設定方法

「セーフティエリア」はプレビューウィンドウを右クリックし、表示されたメニュー内の項目をチェックすれば設定できます。



■タイトルやテロップがエリア内に収まっているかの確認方法

114ページ手順**8**の書き戻し中に、プレビュー画面で確認できます。

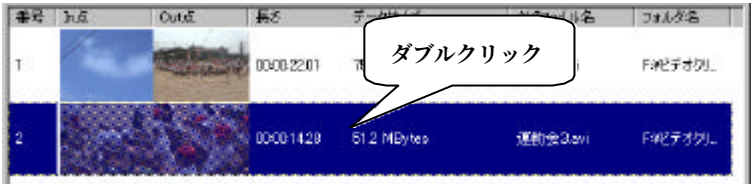
はみ出している場合は、再度編集ソフトで編集し直してください。

参考２：トリミングについて

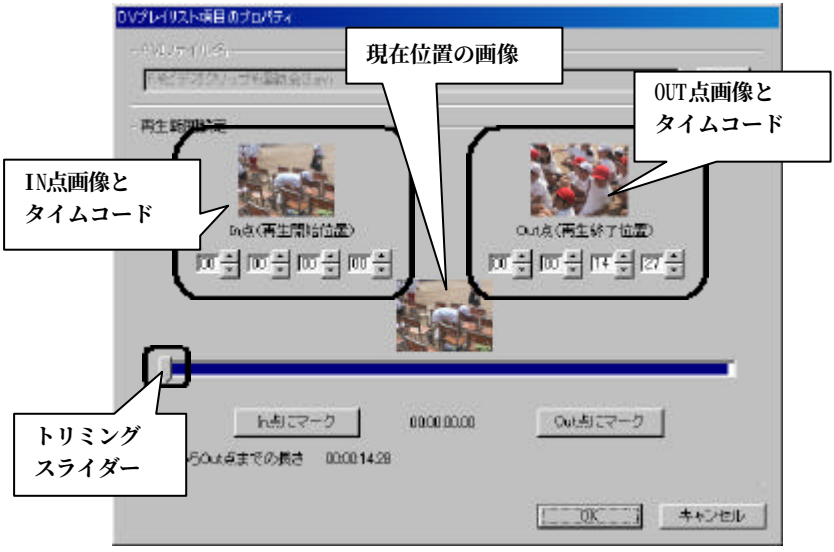
DVテープに書き戻す前に、AVIファイルの中の録画したい部分だけを抜き出してから録画することもできます。（トリミング機能）

＜トリミング方法＞

①書き戻しリストのトリミングを行いたいファイルをダブルクリックします。



②以下の画面が表示されます。



③「トリミングスライダー」をマウスで移動させて、トリミングしたい開始点で[IN点にマーク]ボタン、終了点で[OUT点にマーク]ボタンをクリックします。

④［OK］ボタンをクリックすれば、設定できます。

⑤114ページ手順***8***以降を行って、DV機器へ書き戻します。

2 編集した作品を MPEG形式で保存しよう

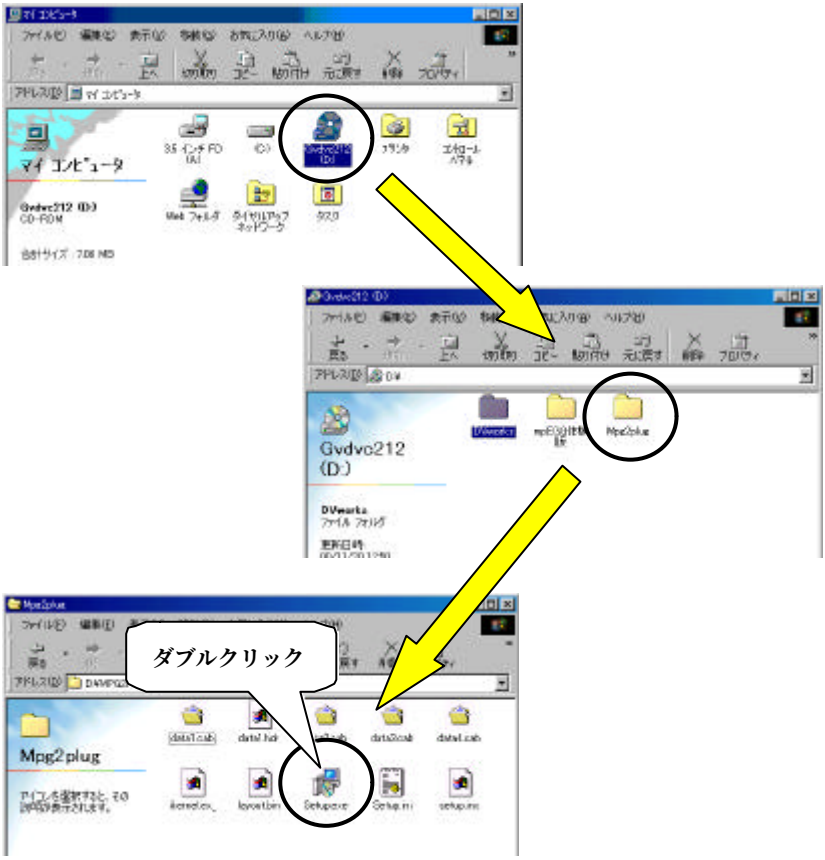
編集したビデオ作品をDV機器に書き戻すのではなく、パソコンで楽しむだけなら、AVIファイルではなく、圧縮率の高いMPEG形式のファイルで保存したほうが、ファイルサイズが少ないので、ハードディスクを節約できます。
本製品に添付されているプラグインをインストールすると、編集した結果を『MediaStudio Pro』から直接、MPEG-1またはMPEG-2ファイルへ出力することができます。

注意

- **MPEG形式で保存したファイルを、DV機器へ書き戻すことはできません。**
- **このプラグインは、本製品添付のMediaStudio Pro 6.0 VE SP版にのみ、インストール可能です。**
  MediaStudio Pro VEのフルバージョン版で、このプラグインを使用する場合は、Ulead社から提供されるアップデートプログラムが別途必要です。このプログラムについては、Ulead社にお問い合わせください。
- **作成したMPEG-1ファイルは、Windows標準のメディアプレーヤーで再生することができます。**
- **作成したMPEG-2ファイルを再生するには、MPEG-2再生ソフトウェア（本製品添付の「PowerDVD VR-X」など）がインストールされている必要があります。（PowerDVD VR-Xの使用方法は、添付のクイックガイドか、オンラインヘルプを参照してください。）**
- **作成したMPEG-2ファイルをWindows標準のメディアプレーヤーで再生される場合、ご使用の環境によっては正常に再生できない場合があります。添付の「PowerDVD VR-X」での再生を推奨します。**
- **Windows Meでは、MPEG-2ファイルをメディアプレーヤーで再生した場合、音声が正常に再生されない場合があります。Windows MeでMPEG-2ファイルを再生する場合は、「PowerDVD VR-X」をご利用ください。**

プラグインのインストール

1　**サポートソフトCD-ROMをCD-ROMドライブにセットし、Mpg2plugフォルダのsetup.exeをダブルクリックします。**

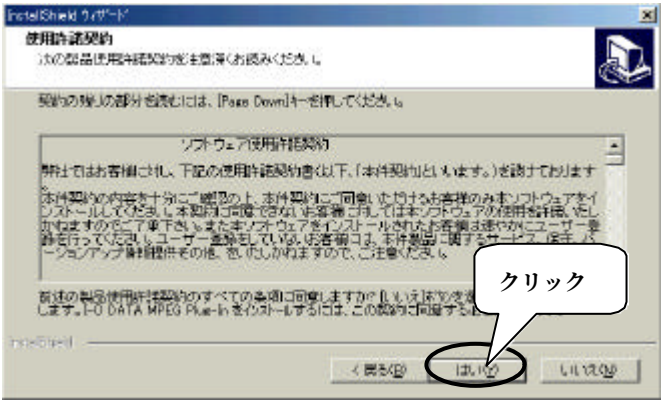


2　[次へ] ボタンをクリックします。画面の指示にしたがって、インストールを進めてください。
最後にパソコンを再起動したら、インストール終了です。



3　[使用許諾契約] をお読みの上、同意する場合は[はい] ボタンをクリックします。

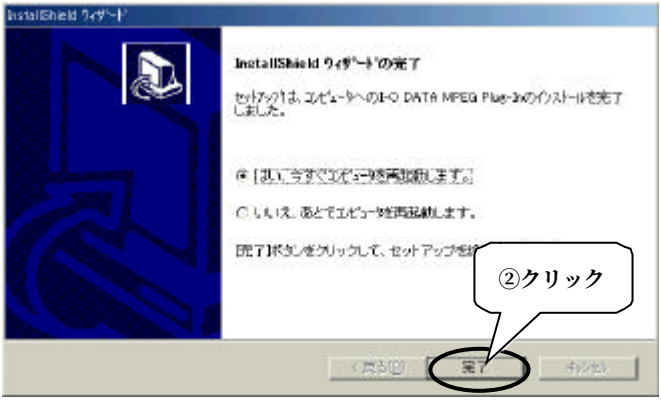
[いいえ]ボタンをクリックした場合は、インストールされません。



4　**[I-O DATA MPEG Plug-IN for Ulead MediaStudio Pro6] をクリックし、[次へ] ボタンをクリックします。**



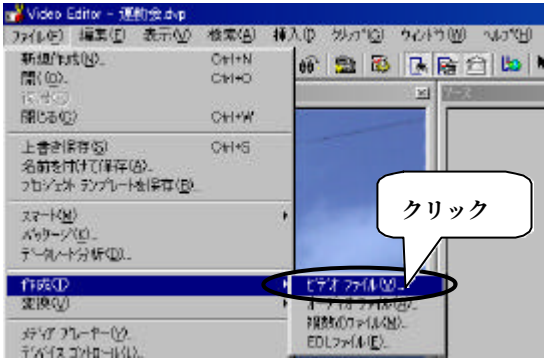
5　**[完了] ボタンをクリックし、パソコンを再起動します。**



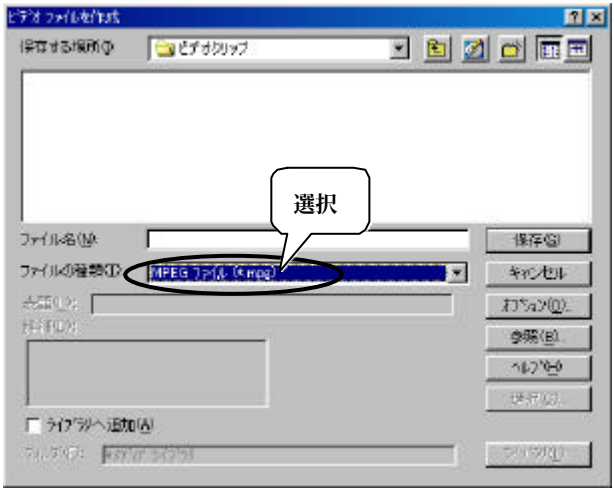
MPEG形式で保存する

MediaStudio Proで思い通りの編集ができたら、その結果をMPEG形式でハードディスクに保存してみましょう。

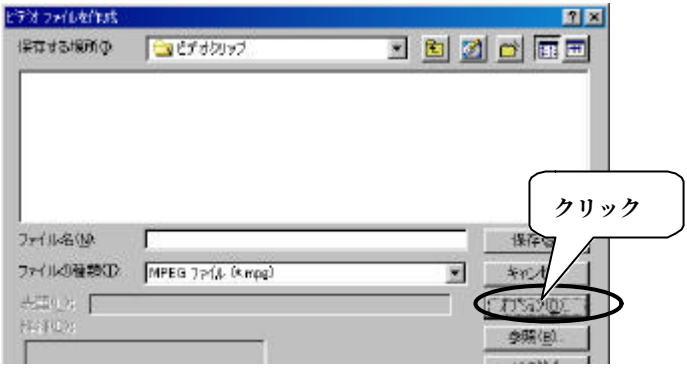
1　[ファイル] メニューの［作成］から、［ビデオファイル］をクリックします。



2　[ファイルの種類] から[MPEG ファイル] を選択します。

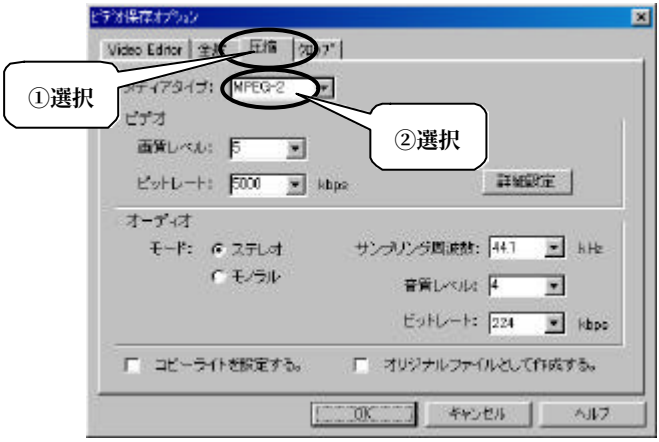


3　[オプション] ボタンをクリックします。



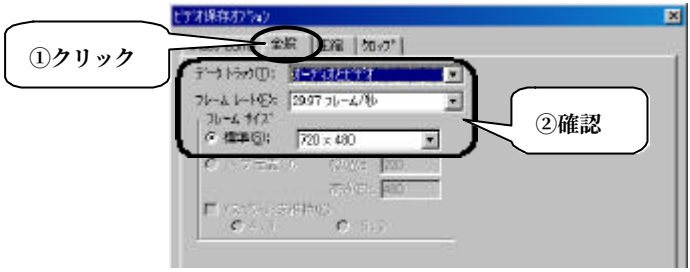
4　[圧縮] タブをクリックし、メディアタイプを選択します。

通常は「MPEG-1」または「MPEG-2」を選択します。詳しい設定内容は[ヘルプ]をクリックしてください。



5　[全般] タブをクリックし、以下の設定を行います。

- データトラック：オーディオとビデオ
- フレームレート：29.97
- フレームサイズ：720x480、もしくは352x480（MPEG2の場合）
  352x240、もしくは176x120（MPEG1の場合）
  4で[NTSC DVD]、もしくは[NTSC VCD]を選択した場合は変更する必要はありません。



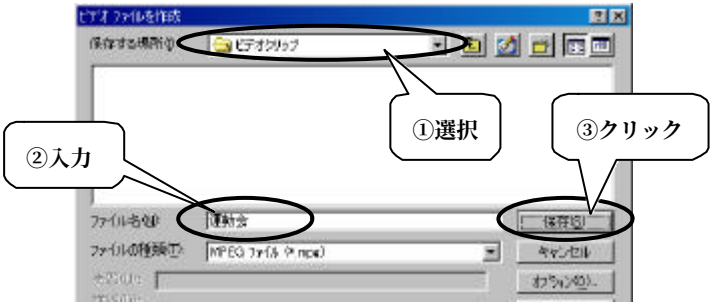
注意

・作成したMPEGファイルを、本製品添付の「DVDit! LE」で使用する場合は、[NTSC DVD]を選択してください。
・作成したMPEGファイルをビデオCDに利用する際は、[NTSC VCD]を選択してください。

6　[OK] ボタンをクリックします。

手順 **2** の画面に戻ります。

7　保存したいフォルダを選択し、AVIファイルの名前を入力して、[保存] ボタンをクリックします。



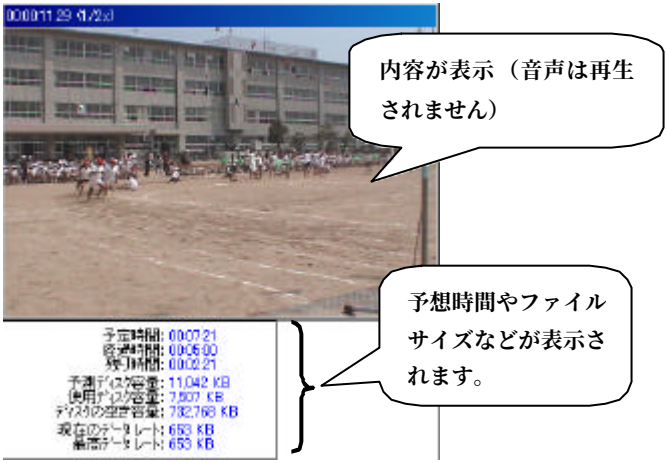
8　[OK] ボタンをクリックします。

この注意は必ずお守りください。



9　保存（レンダリング作業）を開始します。

お使いの環境や編集内容によって時間がかかる場合があります。



10　保存が終わったら、作成したMPEGファイルが自動的に表示されます。内容を確認してください。

Adobe Premiere用プラグインについて

本MPEGプラグインは、Adobe Premiere5.1にもご利用いただけます。

● **インストール方法**

Adobe Premiere5.1をお持ちの場合は、139ページの手順**4**で[I-O DATA MPEG Plug-In for Adobe Premiere5.1J]を選択してください。

注意

Adobe Premiereプラグインは MPEGファイルの作成（エンコード）のみに対応しています。MPEGファイルの再生（デコード）、および編集には対応していません。

● **使用方法**

ムービー出力時に[設定]をクリックし[ムービー出力設定]画面を表示させ、[ファイルの種類]から[I-O DATA MPEG]を選択してください。画質やビットレートを設定する際は、[詳細設定]ボタンをクリックしてください。

注意

Adobe Premiereプラグインを利用してMPEGファイルを作成する際は、以下の点にご注意ください。

- **[ムービー出力設定] 画面で[終了時に開く] のチェックを外してください。チェックをつけている場合は、ファイルの作成終了時に注意文が表示されます。**
- **ムービー出力時にファイル名を入力しますが、拡張子「.MPG」は各自で入力してください。（MPEGファイルを作成する際は、拡張子が自動的に補完されることはありません。）**

仕 様

データ形式	民生用デジタルVCR SD仕様/NTSC方式 （Blue Book準拠 DV-SD/NTSC）
データ処理方式	ソフトウェアDVコーデック
ビデオサイズ	720×480ピクセル(NTSC)
割り込み（IRQ）	Plug & Playシステムによる自動設定(1ケ使用)
コネクタ	DV入出力端子：IEEE1394(i.LINK)　4ピン×２
消費電流	+3.3V±10%　最大0.3A
温度	0°C～+40°C
湿度	20%～80%
サイズ	85.6(D)mm×54.0(W)mm×5.0(H)mm （中継ケーブルを含まず）
付属ケーブルのケーブル長	PCカード中継ケーブル・・・16cm DVケーブル・・・1.5m

サポートセンターへのお問い合わせ

サービス添付のソフトウェアに関するお問い合わせ先については、11ページか、裏表紙を参照してください。

■お知らせいただく事項

1. お客様の住所・氏名・郵便番号・連絡先の電話番号および FAX 番号
2. ご使用の弊社製品名と、サポートソフトウェアディスクのシリアル No.
   (Ver シールに印刷されています。)
3. ご使用のパソコン本体と周辺機器の型番。
4. ご使用の OS とアプリケーションの名称、バージョンおよびメーカー名。
5. 現在の状態(どのようなときに、どうなり、今はどうなっているか。画面の状態やエラーメッセージなどの内容)。

■オンライン

インターネット　http://www.iodata.co.jp/support/

■郵便

〒920-8513　石川県金沢市桜田町2 丁目84 番地 ｱｲ･ｵｰ･ﾃﾞｰﾀ第2 ビル
株式会社アイ・オー・データ機器
サポートセンター「GV-DVC2/CB」係　宛

■電話

電話番号　金沢　076-260-3646
東京　03-3254-1036
受付時間　9:30 ～19:00　月～金曜日（祝祭日を除く）

■FAX

FAX 番号　金沢　076-260-3360
東京　03-3254-9055
宛先　株式会社アイ・オー・データ機器
サポートセンター「GV-DVC2/CB」係　宛

本製品に関するお問い合わせはサポートセンターのみで行っています。
予めご了承ください。

サポートソフトのバージョンアップ

入手方法は以下の通りです。なお、当サービスはユーザー登録された方のみが対象です。

■オンライン

インターネット　http://www.iodata.co.jp/　→「サポートライブラリ」

■サービス窓口からの郵送

下記の窓口までお問い合わせください。（送料および手数料はお客様負担）

〒920-8513　石川県金沢市桜田町2 丁目84 番地 ｱｲ･ｵｰ･ﾃﾞｰﾀ第2 ビル
株式会社アイ・オー・データ機器
「GV-DVC2/CB」 サービス窓口　宛

電話番号　076-260-3663

受付時間　9:30～12:00　13:00～17:00
月～金曜日（祝祭日を除く）

■ご注意

オンラインによるダウンロードはお客様の責任のもとで行ってください。
添付ソフトウェアの中には、当サービス対象外のソフトウェアもあります。

保証について

■保証期間

・保証期間は、お買い上げの日より１年間です。保証期間を過ぎたものや、保証書に販売店印とお買い上げ日の記述のないものは、有償修理となります。お送りいただいた製品を検査後、有償となる場合のみ往復ハガキにて修理金額をご案内致しますので、修理するか否かをご検討の上、往復ハガキにご記入いただきご返送ください。また、修理を受ける場合には保証書が必要になりますので、大切に保管してください。

・弊社が販売終了を決定してから、一定期間が過ぎた製品は、修理ができなくなる場合があります。
詳細は、ハードウェア保証書をご覧ください。

■保証範囲

次のような場合は、保証の責任を負いかねます。予めご了承ください。

・本製品の使用によって生じた、データの消失および破損。

・本製品の使用によって生じた、いかなる結果やその他の異常。

・弊社の責任によらない製品の破損、または改造による故障。

修理について

弊社製品の修理につきましては、以下の事項をご確認の上、販売店へご依頼いただくか、または下記修理品送付先までお送りくださいます様、お願い致します。

- 原則として修理品は弊社への持ち込みが前提です。送付される場合は、発送時の費用はお客様負担、修理後の返送費用は弊社負担とさせていただきます。
  また、修理品のデータにつきましては、故障症状確認の際にすべて消去されます。
- 修理品にはご使用の環境や現在の状態（『サポートセンターへのお問い合わせ』の「お知らせいただく事項」）をお書き添えください。
- 保証期間中は無償で修理いたします。ただし、次の場合は有償となります。
  ◇保証書がない場合
  ◇保証書の所定事項が未記入の場合
  ◇電源 ON で挿入、抜去、逆挿入など誤った操作方法や、お買い上げ後の輸送、
  落下、取り付け場所の移設による破損、故障の場合
  ◇落雷などの事故による破損の場合
  ◇本製品を改造した場合
- 保証期間後は有償で修理いたします。
  製品によっては主要部品がユニット化（一体化）されている場合があります。これらの製品で故障が主要部品におよんでいた場合、各ユニットの交換を実費で行います。
- 修理品送付先

住所　〒920-8513
石川県金沢市桜田町2 丁目84 番地 アイ・オー・データ第2 ビル
株式会社アイ・オー・データ機器
「GV-DVC2/CB」 修理係　宛

※修理品を送付される場合は、輸送時の破損を防ぐため、ご購入時の箱・梱包材を使用してください。また、紛失等のトラブルを避けるため、**宅配便**または**書留郵便小包**でのご送付をお願いいたします。

- 修理品納期問い合わせについて

受付窓口	**「GV-DVC2/CB」　サービス窓口**
電話番号	**金沢　076-260-3663**
受付時間	**9:30～12:00　13:00～17:00**
	月～金曜日（祝祭日を除く）

※申し込まれた修理品の納期をお知りになりたい場合は、上記までお問い合わせください。

サービス添付のソフトウェア に関するお問い合わせ

● Ulead MediaStudio Pro 6.0 VE SP、Ulead PhotoImpact 5 BE、Ulead Cool3D 3 SEに関するお問い合わせ

ユーリードシステムズ（株）ユーザーサポート係
住所：東京都世田谷区用賀4-5-16　TEビル
TEL：03-5491-5662　　FAX：03-5491-5663
受付時間：月～金曜日（祝祭日を除く）　10:00～12:00、13:00～17:00
※「Ulead製品お客様保管用カード」も合わせてご確認ください。

● Sonic DVDit! LEに関するお問い合わせ

DVDit! サポートセンター
住所：〒105-0022東京都港区海岸2-6-30　浜松町エメラルドビル5F
ソニック・ソリューションズ東京事務所　DVDit!サポートセンター
TEL：03-5232-5065
受付時間：月～金曜日（祝祭日を除く）　10:00～12:00、13:00～17:00

● DigiOnSound Lightに関するお問い合わせ

デジオンサポートセンター
住所　：福岡市早良区百道浜2丁目3番8号RKB放送会館4F
TEL　：092-833-6288　FAX：092-833-6278
E-Mail：support@digion.com
受付時間：月～金曜日（祝祭日を除く）　10:00～12:00、13:00～17:00
※「DigionSound Lightユーザー登録のご案内」も合わせてご確認ください。

● PowerDVD VR-Xに関するお問い合わせ

Cyber Link社ユーザーサポート係
TEL　　：03-3662-8076　FAX：03-3662-8009
ホームページ：http://www.cli.co.jp/support/